山梨市文化財調査報告書　第13集

三ケ所遺跡（第2次調査地点）

― 市道小原東東後屋敷線改良に伴う発掘調査報告書 ―

2011年3月

山　　梨　　市
山梨市教育委員会
㈶山梨文化財研究所

山梨市文化財調査報告書　第13集

三ケ所遺跡（第2次調査地点）

― 市道小原東東後屋敷線改良に伴う発掘調査報告書 ―

2011年3月

山　　梨　　市
山梨市教育委員会
㈶山梨文化財研究所

序

本書は、市道小原東東後屋敷線改良工事に伴って行われた三ヶ所遺跡発掘調査のうち、平成21年12月21日から平成22年３月25日まで行われた第２次調査の成果をまとめた報告書です。

調査は、山梨県指定史跡連方屋敷の南側前面道路拡幅部分について行われ、屋敷の前面中央部分と南東隅東側が対象となりました。

連方屋敷に関連する遺構・遺物は残念ながら検出されませんでしたが、南東隅東側の調査区から平行する２条の溝跡が発見され、近世の道路状遺構であることが分かりました。他にも２棟の近代の掘立柱建物跡や多数の溝・土坑・ピットなどが発見され、連方屋敷にごく近い範囲の地下の状況が明らかになりました。

最後になりますが、車両の通行部分を確保しながら拡幅部分の半分の幅を交互に調査するなど物理的制約が多い中で調査に尽力いただいた㈶山梨文化財研究所の皆様をはじめ関係各位に心から感謝申し上げ、序といたします。

平成23年３月

山梨市教育委員会

教育長　堀　内　邦　満

例　言

1．本書は、山梨県山梨市三ケ所地内に所在する、三ケ所遺跡（第２次調査地点）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2．発掘調査は、小原東東後屋敷線改良工事に伴う本調査（全３次のうちの２次調査）であり、山梨市の委託を受けた財団法人山梨文化財研究所が発掘調査および整理作業にあたった。

3．発掘調査は、平成21年12月21日より翌22年３月25日まで実施し、整理作業は、平成22年度に実施した。

4．本書の執筆・編集は、宮澤公雄が行った。

5．本書に掲載した遺構写真は宮澤が、遺物写真については中川美治が撮影した。

6．発掘調査および整理作業において一部の調査・業務について、以下の機関に依頼ならびに協力を得た。

基準点・航空測量	テクノプラニング株式会社
陶磁器類鑑定	藤澤良輔（愛知学院大学）
	堀内秀樹（東京大学大学院人文社会系研究科埋蔵文化財調査室）
鉄器保存処理	財団法人山梨文化財研究所
石材鑑定	河西学（財団法人山梨文化財研究所）

7．本書に関わる記録図面・写真・出土遺物等は、山梨市教育委員会が保管している。

8．本遺跡の発掘調査および整理作業にあたっては、以下の諸機関･各位から多大なるご指導･ご協力を賜った。ここに記して深く感謝の意を表する次第である。
山梨市教育委員会、山梨市役所建設課、雨宮弘聡、河西　学、櫛原功一、藤澤良祐、堀内秀樹、松土一仁、三澤達也

9．参考文献は、執筆者順に第４章末にまとめて記載した。

凡　　例

1．遺跡全体におけるX・Y座標は、世界測地系平面直角座標第Ⅷ系のX＝－34,170.000、Y＝18,270.000（北緯35度41分30秒、東経138度42分06秒）を基点（X＝0、Y＝0）とした座標値である。なお、各遺構平面図中に示す方位は、すべて座標北を示している。

なお、真北方向角は0度7分03秒となる。

2．遺構・遺物実測図の縮尺は、原則として以下の通りである。

遺　構

掘立柱建物　―　1/60
土　坑　―　1/30
ピット　―　1/30
焼土遺構　―　1/30
溝　―　1/50、1/100
不明遺構　―　1/60

遺　物

土　器　―　1/3
石・土・金属・ガラス製品　―　1/1、1/2、1/4

3．遺構図版中で使用したスクリーントーンの凡例は以下の通りである。

▨石　▩焼土

4．遺構図版中の遺物分布図のマークは以下の通りである。ただし、マークの向きは北位ならびに垂直方向を基準としたものである。

また、マークに付した番号は、遺物図版中の番号を示している。

▲土器　●陶磁器　□瓦　○ガラス製品　◇金属製品　△石製品　◆貝

5．遺構同一図版中の標高は、原則として統一しているが、一部異なるものもあり明記してある。

6．遺構図版中および遺物観察表中の色調名は、農林水産省技術会議事務所監修　1990『新版　標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄）によっている。

7．本書で用いた地図は、山梨市役所発行の山梨市全図その1（1:10,000）および都市計画基本図（1:2,500）、山梨市教育委員会発行の山梨市遺跡分布図（1:20,000）である。

目　次

例　言
凡　例
第１章　序　説 …… 1
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　調査経過 …… 1
　第３節　調査の方法 …… 2
　第４節　遺跡概要 …… 4
　第５節　基本層序 …… 8
第２章　遺跡の立地と環境 …… 9
　第１節　遺跡の地理的位置 …… 9
　第２節　遺跡の歴史的環境 …… 9
第３章　遺構と遺物 …… 13
　第１節　掘立柱建物跡 …… 13
　第２節　土坑・ピット …… 13
　第３節　焼土遺構 …… 14
　第４節　溝　跡 …… 14
　第５節　道路状遺構 …… 19
　第６節　性格不明遺構 …… 19
第４章　まとめ …… 20
参考文献 …… 20

表目次

第１表　土坑一覧表 …… 21
第２表　ピット一覧表 …… 21
第３表　出土遺物観察表（土器） …… 24
第４表　出土遺物観察表（金属製品） …… 26
第５表　出土遺物観察表（ガラス製品） …… 26
第６表　出土遺物観察表（石製品） …… 26

図版目次

第１図　三ケ所遺跡の位置 …… 3
第２図　三ヶ所遺跡調査区配置図 …… 4
第３図　三ヶ所遺跡全体図 …… 5
第４図　三ヶ所遺跡１・３・５区全体図 …… 6
第５図　三ヶ所遺跡２・４・６区全体図 …… 7
第６図　遺跡基本土層 …… 8
第７図　遺跡の位置と周辺の遺跡 …… 11
第８図　１号掘立柱建物平面図 …… 27
第９図　２号掘立柱建物平面図 …… 28
第10図　土坑平面図（１） …… 29

第11図　土坑平面図（２）…… 30
第12図　土坑平面図（３）…… 31
第13図　土坑平面図（４）…… 32
第14図　土坑平面図（５）…… 33
第15図　土坑平面図（６）・ピット平面図（１）…… 34
第16図　ピット平面図（２）…… 35
第17図　ピット平面図（３）…… 36
第18図　ピット平面図（４）…… 37
第19図　ピット平面図（５）…… 38
第20図　ピット平面図（６）…… 39
第21図　ピット平面図（７）…… 40
第22図　ピット平面図（８）・焼土遺構平面図 …… 41
第23図　溝平面図（１）…… 42
第24図　溝平面図（２）…… 43
第25図　溝平面図（３）…… 44
第26図　溝平面図（４）…… 45
第27図　性格不明遺構平面図 …… 46
第28図　出土遺物（１）…… 47
第29図　出土遺物（２）…… 48
第30図　出土遺物（３）…… 49
第31図　出土遺物（４）…… 50
第32図　出土遺物（５）…… 51
第33図　出土遺物（６）…… 52

写真図版目次

図版１　遺跡全景
図版２　１．１区全景
　　２．２区全景
図版３　１．３区全景
　　２．４区全景
図版４　１．５区全景
　　２．６区全景
図版５　１．調査開始前（１）
　　２．調査開始前（２）
　　３．調査開始前（３）
　　４．表土剥ぎ
　　５．遺構確認作業（１）
　　６．遺構確認作業（２）
　　７．遺構確認作業（３）
　　８．標準土層
図版６　１．１号掘立柱建物
　　２．２号掘立柱建物
　　３．１号土坑
　　４．１号土坑　セクション
　　５．１号土坑　掘り方
　　６．２号土坑
　　７．５号土坑
　　８．６号土坑
図版７　１．７号土坑
　　２．８・９・11号土坑
　　３．10号土坑
　　４．12号土坑　焼土検出状況
　　５．12号土坑　セクション
　　６．13号土坑
　　７．15号土坑
　　８．16号土坑
図版８　１．17号土坑
　　２．18号土坑
　　３．19号土坑
　　４．20号土坑
　　５．26号土坑
　　６．27号土坑
　　７．１号ピット

8．2号ピット
図版9　1．4号ピット
2．5号ピット
3．7号ピット
4．14号ピット
5．23号ピット
6．27号ピット
7．39･40号ピット
8．45･46号ピット
図版10　1．47･48号ピット
2．51号ピット
3．52号ピット
4．76号ピット
5．76号ピット　遺物出土状況
6．77号ピット
7．78号ピット
8．84･85号ピット
図版11　1．89号ピット
2．90号ピット
3．92号ピット
4．93号ピット
5．93号ピット　遺物出土状況
6．100号ピット　礫検出状況
7．120号ピット
8．121号ピット
図版12　1．123号ピット
2．124号ピット
3．127号ピット
4．128号ピット
5．131号ピット
6．132号ピット
7．焼土遺構
8．1～3号溝
図版13　1．4号溝
2．5号溝
3．7号溝
4．9号溝
5．10号溝
6．12・13号溝
7．14号溝
8．14号溝　礫検出状況
図版14　1．15号溝
2．19号溝
3．1号性格不明遺構
4．2号性格不明遺構
5．調査風景（1）
6．調査風景（2）
7．写真測量
8．神輿石
図版15　出土遺物（1）
図版16　出土遺物（2）
図版17　出土遺物（3）
図版18　出土遺物（4）

第１章　序　説

第１節　調査に至る経緯

山梨市では、八日市場と東後屋敷を結ぶ小原東東後屋敷線という市道建設の計画を立てた（平成元年３月都市計画決定）。計画地内は周知の遺跡である三ケ所遺跡が存在し、県史跡である連方屋敷や国宝の仏殿をもつ清白寺なども隣接している。

その後具体的な実施計画に伴い平成19年７月文化財保護法第94条第１項による通知がなされ、平成19年８月に山梨県教育委員会からの通知に基づき、山梨市教育委員会では平成19年から21年にかけて断続的に予定地内の試掘・確認調査を実施した。その結果、平安時代及び中世の遺構・遺物の検出により発掘調査が必要だと判断され、平成20年7月から10月にかけて財団法人山梨文化財研究所によって発掘調査が実施された。

調査の結果、平安時代の竪穴住居４軒、掘立柱建物５棟、土坑、溝などが発見され、平成22年１月に『三ケ所遺跡』として発掘調査報告書が刊行されている。

平成21年度は、さらに西側の地区の工事が実施されることとなり、連方屋敷の前面も対象地区となるため発掘調査の実施が必要となった。

山梨市では発掘調査事業を委託事業として、事業主体である山梨市と財団法人山梨文化財研究所の間において、委託契約を締結し事業にあたった。

整理作業ならびに報告書刊行業務は、平成22年10月に委託契約を締結し、事業にあたった。

調査体制

調　査　主　体　財団法人山梨文化財研究所
調 査 担 当 者　宮澤公雄　財団法人山梨文化財研究所
発掘調査参加者　岩崎誠至、小幡敬一、河西町男、神田久美子、清水征二、菅沼芳治、武井美智子、角田勇雄、中川博子、中川美治、樋川芳久、保坂梯司
整理作業参加者　神田久美子、小林典子、斉藤ひろみ、﨑田貴子、須田泰美、武井美智子、田中真紀美、中川博子、中川美治、永沢淳子、永田恵、平賀早苗、望月秀和
事　　務　　局　柳本千恵子、横田杏子

第２節　調査経過

調査地点は、連方屋敷の中央から南下する道路を挟んだ、東西の地点である。詳細な調査区ならびに調査方法は、平成21年12月21日の打ち合わせ会議により決定された。

発掘調査は、下水道敷設事業との重複を避けるために、調査対象地内を６区に分け、下水道敷設事業に支障の無いよう、順次調査を行った。それに伴い、２月２日より２月15日までは調査を中断した。

また、第３区の調査結果により、現地にて山梨市教育委員会より指示があり、調査区の変更を行っている。

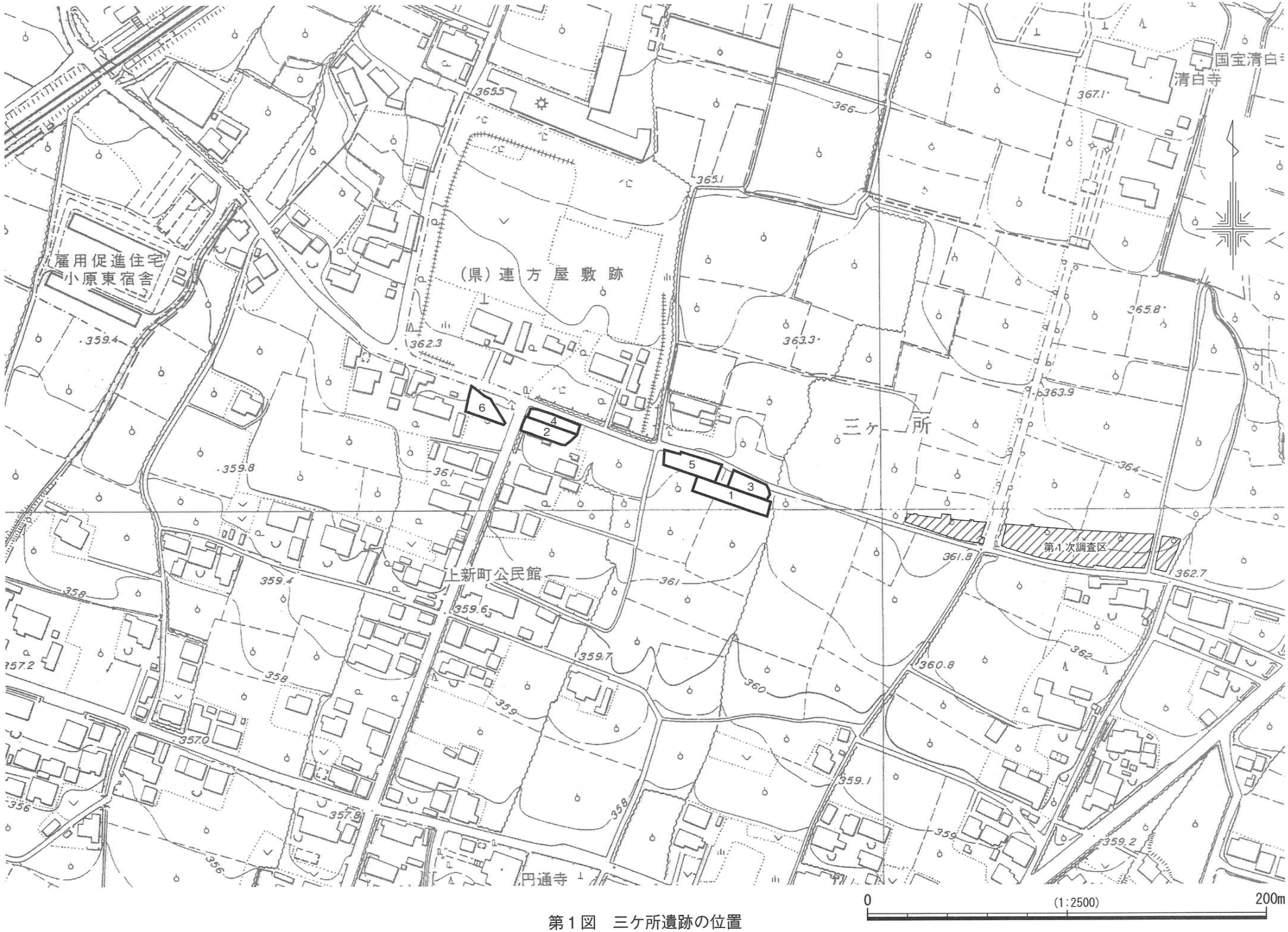
調査日誌

2009年
12月24日　計画準備
12月25日　基準点測量、施工計画書提出
2010年
１月５日　調査事務所設置・機材搬入、１区表土掘削
１月６日　１区遺構確認作業、２区表土掘削
１月７日　１区遺構確認作業、６区表土掘削
１月８日　６区遺構確認作業、６区表土掘削

1月13日　　1区遺構調査開始
1月14日　　1区遺構調査
1月15日　　1区遺構調査
1月18日　　1区遺構調査
1月19日　　1区遺構調査、2区遺構確認作業
1月20日　　2区遺構調査開始
1月21日　　1・2区遺構調査
1月22日　　1・2区遺構調査
1月25日　　1・2区写真測量、6区遺構調査・段階確認（遺構確認掘削厚）
1月26日　　1・2・6区遺構調査
1月27日　　6区遺構調査、2区埋め戻し
1月29日　　6区遺構調査
2月1日　　6区遺構調査・写真測量
2月16日　　3区表土掘削・バリケード設置・段階確認（表土掘削厚）、6区遺構調査
2月17日　　3区遺構確認作業
2月18日　　3区遺構調査
2月19日　　3区遺構調査
2月22日　　3区遺構調査
2月23日　　3区遺構調査、4区表土掘削・段階確認（表土掘削厚）
2月24日　　3区遺構調査、4区遺構確認作業
2月25日　　3・4区遺構調査
2月26日　　3区写真測量、3・4区遺構調査
3月1日　　4区遺構調査・写真測量
3月4日　　5区表土掘削
3月5日　　5区表土掘削・包含層掘削作業・段階確認（包含層掘削厚）、4区埋め戻し
3月6日　　4区埋め戻し
3月8日　　5区遺構調査
3月9日　　5区遺構調査
3月10日　　除雪作業
3月11日　　5区遺構調査
3月12日　　5区遺構調査・写真測量、発掘調査作業終了
3月15日　　調査機材撤収作業
3月16日　　残務整理・書類作成
3月17日　　残務整理・書類作成
3月18日　　5区埋め戻し、調査事務所撤去
3月19日　　残務整理・書類作成
3月23日　　残務整理・書類作成
3月24日　　残務整理・書類作成
3月25日　　完了届提出

第3節　調査の方法

山梨市より指示があった地点の調査区を設定の後、重機により表土を除去し、引続き人力による遺構確認作業を行った。確認された遺構は、構築年代の新しいものから順次調査を行ったが、一部新旧関係が不明な重複した遺構については同時に調査を行い、土層観察により新旧関係を判断した。



第１図　三ケ所遺跡の位置

出土した遺物は、遺構内のものについては原則的にすべて、遺構外出土のものについても原位置が明らかな遺物については光波測量機器を用いて個別に取り上げを行い、微細図が必要な場合には、デジタルカメラを用いた測量を実施した。

遺構図の作製は、光波測量機による測量と写真測量による成果を補完的に使用した。ポールによる写真測量もあわせて実施し、遺跡全体図の作成も行った。

現地における発掘調査は、１月５日より開始し、３月18日をもって終了した。

測量に用いた機器およびシステムは以下の通りである。

光波測量機器	ＴＯＰＣＯＮ　ＧＰＳ－Ⅲ
コンピュータ	Ｐａｎａｓｏｎｉｃ　ＴＯＵＧＨＢＯＯＫ
取り上げ・図化システム	Cubic 社製　遺構くん

重機による表土剥ぎ終了後、調査区全体を被うように世界測地系平面直角座標にあわせて南北方向をＸ軸、東西方向をＹ軸とするメッシュをかけ、南西隅を基点とした。世界測地系第Ⅷ系のＸ＝－34,170.000、Ｙ＝18,270.000（北緯35度41分30秒、東経138度42分06秒）を基点（Ｘ＝０、Ｙ＝０）とし、調査区内に５ｍメッシュのグリッドを設定した。

上記のように調査では光波測量機器を用いたため、１ｍ単位でのグリット表記とした。

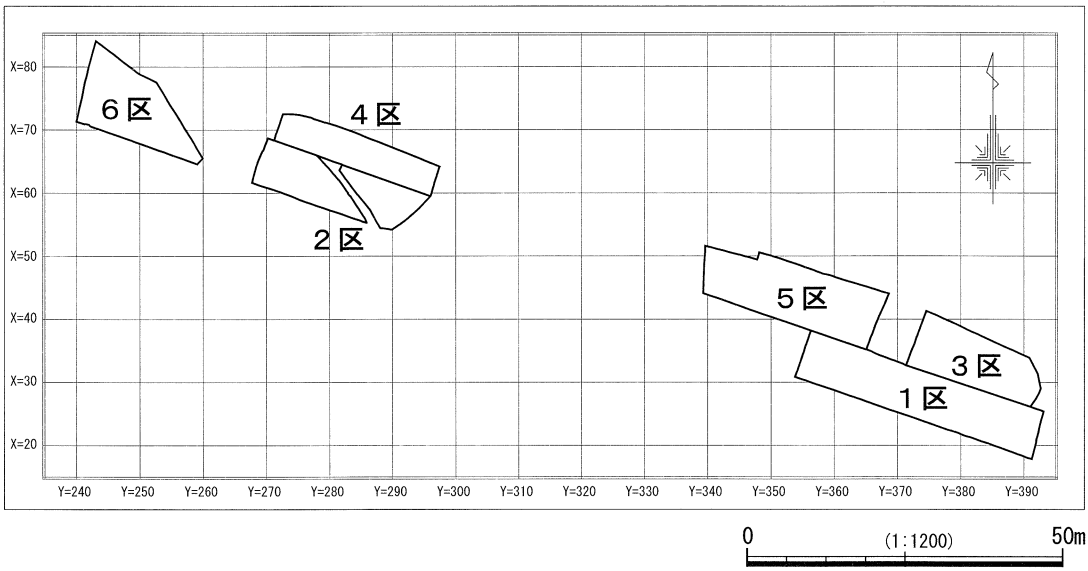
第４節　遺跡概要

本遺跡は、笛吹川左岸、ほぼ平坦な扇状地扇端部のJR中央線東山梨市駅東側に位置し、周辺にはブドウ畑が広がる。

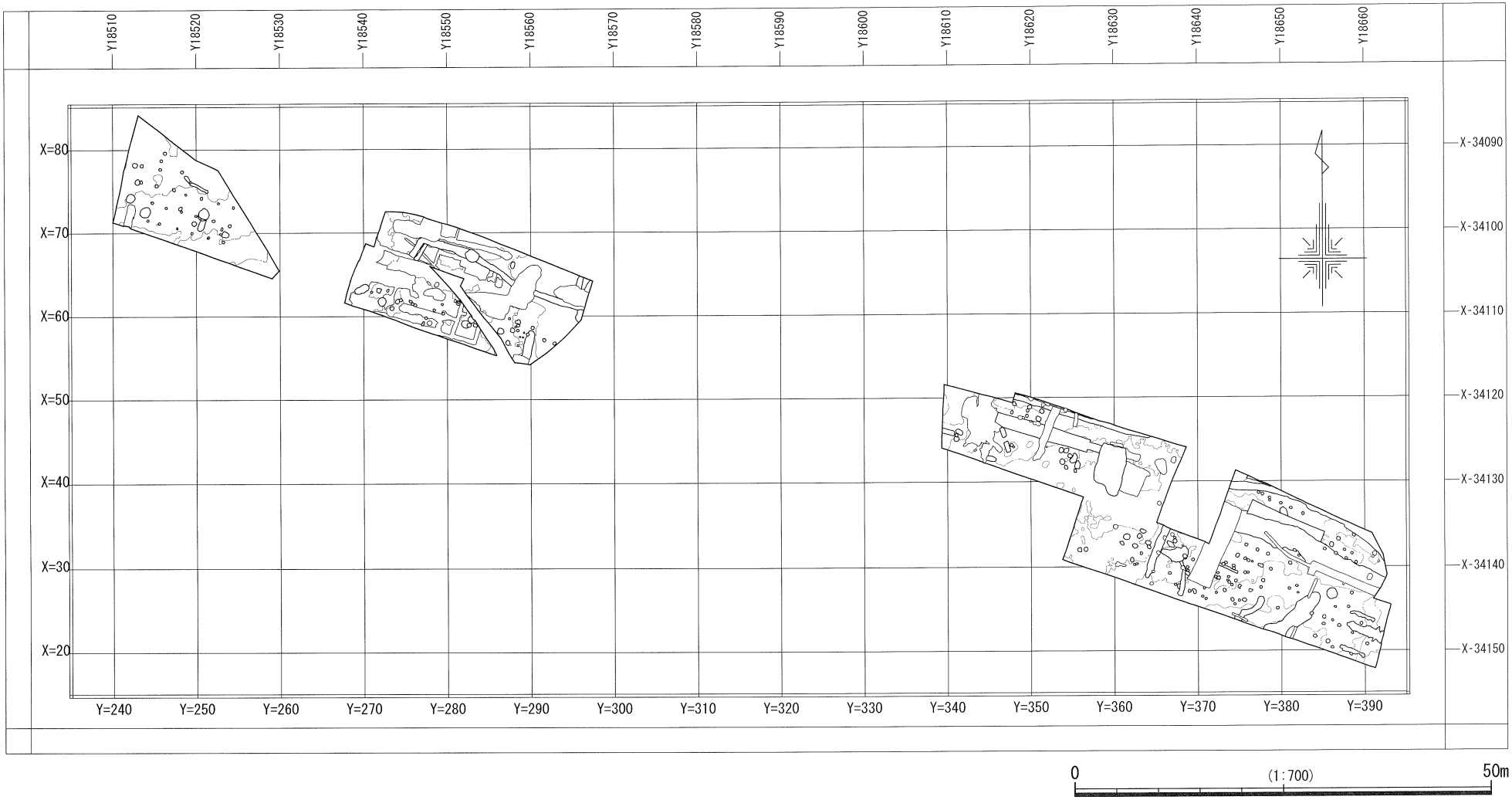
三ケ所遺跡は、市の遺跡台帳には古代・中世の埋蔵文化財包蔵地として登録されており、径500ｍほどの広がりをもち、遺跡内には中世の城館跡として県史跡に指定されている連方屋敷や国宝の仏殿をもつ清白寺も含まれる。

遺跡は、小原東東後屋敷線建設に先立ち、平成23年度末までに３次にわたる発掘調査が実施されている。平成20年に実施された第１次発掘調査は、清白寺参道付近の調査を行っているが、平安時代の竪穴住居４軒、掘立柱建物跡５棟、土坑42基、ピット106基、溝12条、池１基などが検出されている。溝のうち数条は並行して確認されたことから、道路状の遺構であろうと考えられている。

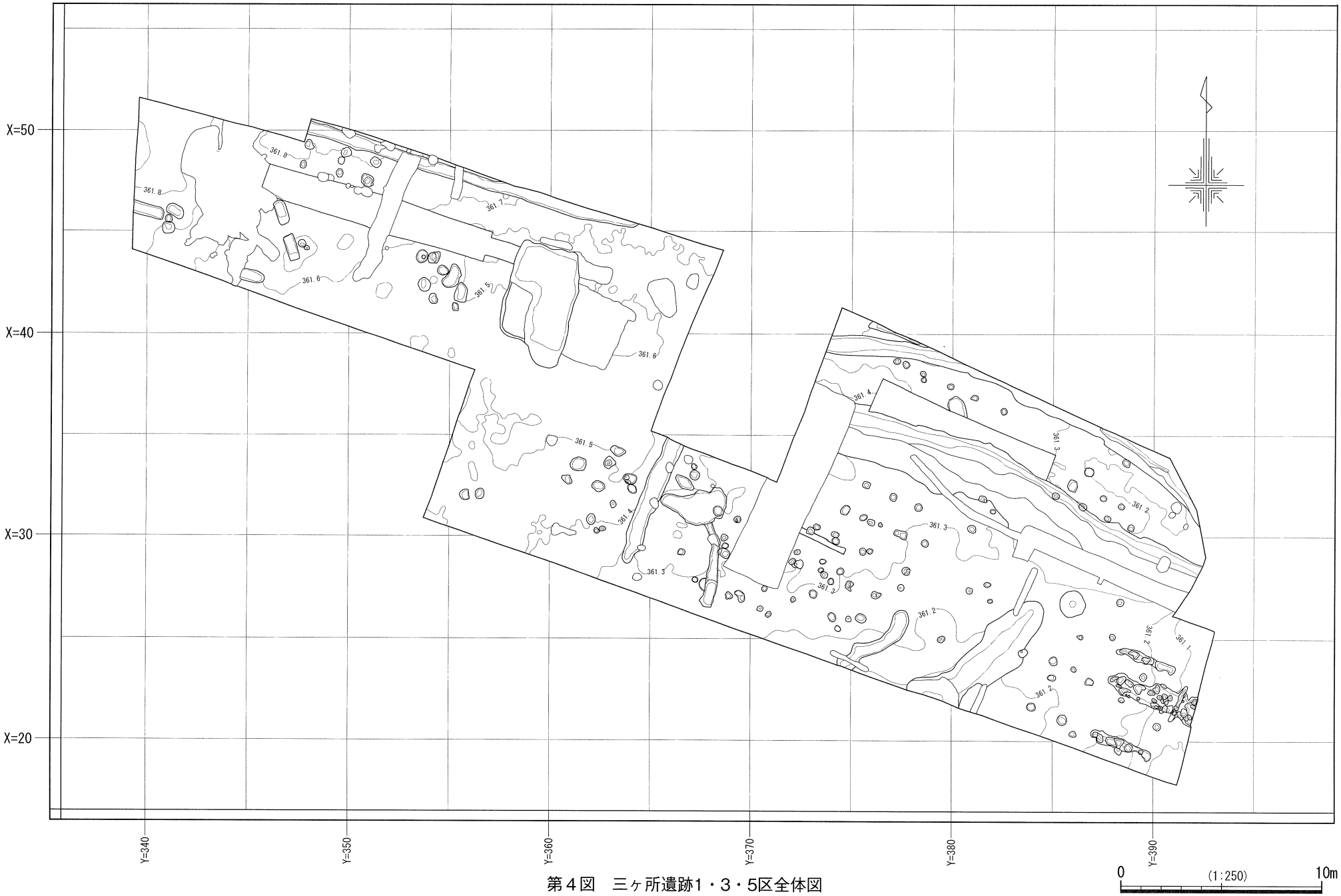
本報告の平成21年度の第２次発掘調査では、近世以降の掘立柱建物２棟、溝跡19条、土坑33基、ピッ



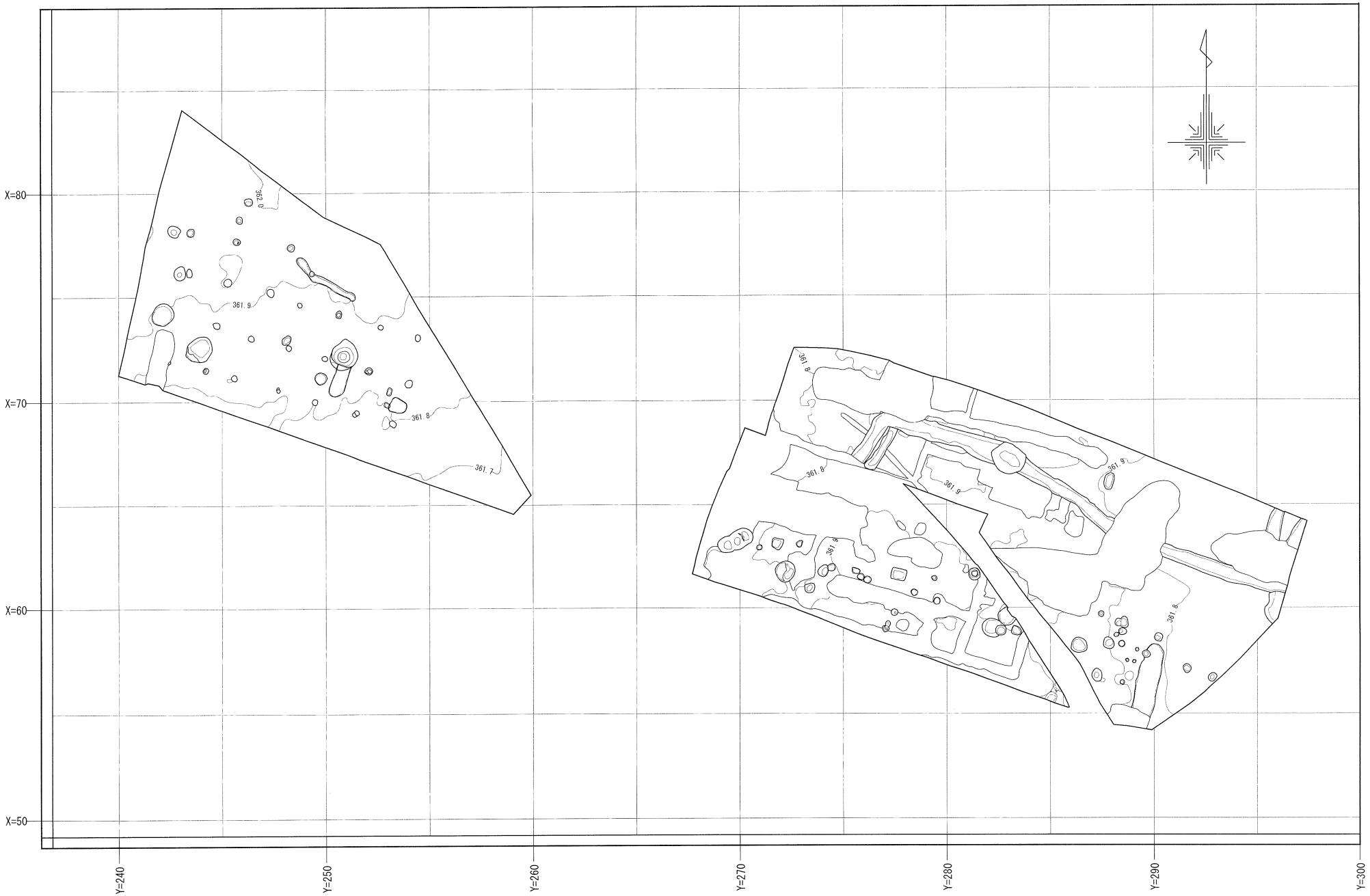
第２図　三ヶ所遺跡調査区配置図



第３図　三ヶ所遺跡全体図



第４図　三ヶ所遺跡1・3・5区全体図



第５図　三ヶ所遺跡2・4・6区全体図

0　(1:250)　10m

ト167基、焼土遺構１基、不明遺構２基が発見された。第１次調査同様に並行する溝が確認されたことから、道路状遺構に伴う溝であると判断された。

第３次調査は、平成22年８月から10月にかけて第１次調査区の東側ならびに第２次調査区の西側の発掘調査を実施している。東側の調査区では、平安時代の竪穴住居２軒、掘立柱建物跡５棟などが発見された。竪穴住居は一辺７ｍほどの大型住居で、柱穴底には礎板石をもつ。また、掘立柱建物のうち２棟は、三間×四間の規模で南面に廂をもつもので、柱穴の規模も大きく径１ｍほどもあった。出土遺物もほとんどなく、遺構の性格を断定することは出来なかったが、清白寺に近いことから、前身寺院または村落内寺院などの可能性も指摘されている（山梨市教育委員会2010）。

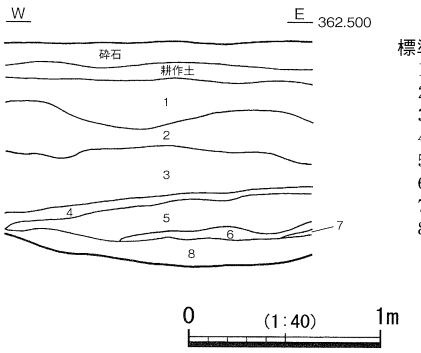
現況道路は、「オミユキミチ」とも呼ばれ、八幡北の窪八幡神社の神輿が西広門田の熊野神社まで巡行されていたといい、この道を通っていたという。５区北側には、「お神輿さんの休み石」「神輿石」などと呼ばれる細長い自然石が建てられていた。近世の村絵図にもこの石が横倒しの状態で描かれおり、「八幡宮腰掛石」と記されている。いつごろからこの場に建てらえていたのか明らかではないが、神輿が休憩した場所だと伝えられている。

第５節　基本層序

本遺跡は、扇状地上の緩斜面上に位置しており、表土から遺構確認面の深さは0.2ｍ～0.5ｍほどであるが、地点によっては道路として砕石を敷設するなどして造成されており、0.7ｍを超える地点もあった。

基本的には、耕作土直下の暗褐色土層が遺物包含層となり、赤褐色粒子・白色砂粒を含む褐色土層が遺構確認面となる。遺構確認面は、やや砂質の安定した土層であるが、地点によっては、礫を多量に包含する土層もみられた。

遺構内には、暗褐色土、黒褐色土などが堆積しており、遺構確認作業は比較的容易であった。



標準土層
１層　暗褐色土層(7.5YR3/4)　多くのカーボン、暗褐色粒子を含む（遺物包含層）
２層　褐色土層(10YR4/6)　赤褐色粒子と白色砂粒を少量含む（遺構確認面）
３層　褐色土層(10YR4/6)　酸化ブロック土を多く含む　２層より粘質
４層　褐色土層(7.5YR4/6)　酸化土層
５層　褐色土層(7.5YR4/4)　白色砂粒を多量に含む　砂質土
６層　褐色土層(7.5YR4/6)　酸化土層
７層　褐色土層(7.5YR4/4)　白色砂粒を多く含む
８層　にぶい黄褐色土層(10YR4/3)　灰黄褐色土ブロックを多く含む

第６図　遺跡基本土層

第２章　遺跡の立地と環境

第１節　遺跡の地理的位置

山梨市は、山梨県のほぼ中央、甲府盆地の北東部に位置する。平成17年に東山梨郡牧丘町、三富村と合併し、現在の山梨市となる。北側は甲武信岳、雁坂峠などを境として埼玉県と接する。市域の北側は、山腹の傾斜地ならびに丘陵地帯となっているが、南側は、市域を南流する笛吹川および南側を流れる重川や日川によって形成された扇状地が広がっている。

本遺跡の所在する三ケ所地区は、市域東端、笛吹川と重川に挟まれたほぼ平坦な複合扇状地扇端部に位置する。遺跡周辺は、水に恵まれなかった地域であるが、笛吹川を取水口とし、甲州市清水寺付近から甲州市との市境を南流する五箇村堰の開削によって、水田が営まれるようになったとされる。

昭和32年、市の農業構造改善計画によって、水田や桑園からモモやブドウを主体とする果樹栽培に転換が図られ、周辺は一大果樹地帯として知られるようになり、現在に至っている。

遺跡は、緩やかな南西傾斜の平坦地にあり、周辺にはブドウ畑が広がるが、一方、西側にJR中央線東山梨市駅があり、東側の甲州市域には商業施設が広く展開していることから、宅地化が進行している地域でもある。

第２節　遺跡の歴史的環境

市の遺跡分布図によると、三ケ所遺跡の範囲は東西550m、南北500mの広範囲に及ぶ。遺跡内やその周辺には、山梨県史跡である連方屋敷、国宝の仏殿をもつ清白寺、八日市場などが存在し、甲府盆地東部地域において中世以来重要な地として認識されてきたが、前代の古代においても重要な遺跡が分布する。

本遺跡の北西約１Kmのところには日下部遺跡がある（第７図42）。戦後間もない昭和24年、日下部中学校(現山梨北中学校)の校舎建設に伴って発掘調査が実施された。調査は、昭和48年まで５次にわたり行われ、竪穴住居28軒、倉庫１棟、溝４条などが発見され、古代集落遺跡の先駆的な調査例となった。竪穴住居からは、土師器・須恵器などの日常雑器とともに銙帯（丸鞆、鉸具、巡方）が出土しており、有力者が居住したことが考えられる。また、特殊遺物としてクルリ鉤が出土している。クルリ鉤は、倉庫などの扉に付けられた施錠装置をあける鍵であり、集落内に倉などが存在したことになり、銙帯金具の出土とともに遺跡が拠点的な集落であったことがうかがえる（山梨市教育委員会1987）。

宮の前（旧七日子）遺跡は本遺跡から北へ２Kmのところにある（同24）。縄文時代中期から平安時代にかけての複合遺跡であるが、昭和22年から24年にかけて数度の調査が実施されている。平安時代の竪穴住居跡は４軒が調査され、土師器坏・甕、土錘、金属製品では鎌・刀子などが出土している。その中で、カマド構築材に用いられたと思われる円筒形土製品が出土し、注目される（山梨市教育委員会1987）。

宮ノ前遺跡の一角には、七日子廃寺が所在する。戦後間もなくまでは布目瓦が採集でき、礎石と思われる石も確認できたというが、現在は確認することが出来ない。山梨県埋蔵文化財センターによって、平成４年に試掘調査が実施されたが、寺院の痕跡を確認することは出来なかった。周辺に展開する集落の村落内寺院であった可能性も指摘されているが、詳細は明らかではない。

これらの遺跡を中心として、古代の加美郷が形成されていたと考えられる。

古代における遺跡周辺の土地利用の在り方については、地割にその一端をみることが出来る。

市域の条里制について考察した中山誠二氏によれば、市域には軸線の異なる二つの条里地割が確認されるという（中山2005）。市域南部にみられる峡東条里と八幡地区に起源をもつ八幡条里である。

峡東条里は、地割の南北軸を東に約12度振るもので、甲府盆地東部地域に広くみられる条里プランで、市域では一町田中、歌田、下栗原、上栗原など南東部地域に広くみられる。

一方、八幡条里は、地割の南北軸を東に24度振るプランで、下神内川、下石森、上石森、鴨居寺、三ケ所、小原東、小原西、下井尻、七日市場、甲州市域の三日市場、上井尻、藤木などを含む地域で確認されている。

本遺跡周辺における両条里プランの接する地域は、清白寺東の小路辺りとなっており、調査によって発見された溝などからすれば、調査区は八幡条里に属していたことが考えられ、連方屋敷の南側を東西に走る道路ならびに南へ延びる道路もこの軸線上に乗っている。

本遺跡の範囲内にある連方屋敷は、四方に高さ２～３ｍの土塁と堀を巡らす不整方形居館で、東西 117 ～ 130 m、南北 120 ｍの規模をもつ。北東隅の土塁が欠けており、鬼門除けの折邪だとする説もある。

この居館については、『甲斐国志』に「是モ古屋氏也今同族ノ者三人居之四囲ニ土手ヲ巡ラシ三四町歩ニ堺セリ里人今ニ蓮方屋敷ト呼　軍艦に蔵前衆ノ頭四人ノ内古屋道忠・同内匠・同文六郎モ同衆ナリ　起請文所載諸手同心古屋氏ノ者甚多シ　此辺ニ散在シテ同氏居址又少カラザレバ其党タル人モ多カルベキナレドモ凡明拠ナキトコトハ闕テ記セズ」とあり、国志編纂時に屋敷内に古屋氏が居住し、『甲陽軍艦』にみえる「蔵前衆ノ頭四人」のうち二氏が古屋姓であることなどから、上記のような記述となっているものと思われる。

上野晴朗氏は、国志の記述に加え、八日市場の存在などから、「蔵前の庁所」と推定している。また、連方屋敷の由来については、八日市場名主文書の中に安田義定の九世安田孫左衛門尉光泰が蓮峯入道と名乗り、足利尊氏に仕え、この屋敷に居住したため蓮峯屋敷と呼ばれたという記録があることを指摘している（上野 1983）。

連方屋敷は、平成６年に敷地内の住宅建設に伴い南東隅の発掘調査を実施した。調査の結果、集石遺構に伴って常滑甕、内耳土器などが出土している。

また、屋敷内北側の土地の寄贈を受けた山梨市では、教育委員会が、平成 16 年から継続的に整備を目的とした発掘調査を実施している。屋敷のほぼ中央において、掘立柱建物１棟、礎石建物２棟などの一部が発見された。建物跡と同じ確認面から 13 世紀中頃の高麗青磁梅瓶、中国竜泉窯青磁蓮弁文碗などが出土している。また、かわらけ類は 14 世紀中頃から 15 世紀前半に比定されるものである。また、屋敷南側からは近世の陶磁器類が出土している（三澤 2007）。

以上のことから、屋敷は14世紀中頃に築造されたものの、15 世紀後半から 16 世紀代には使用の痕跡を確認することが出来ず、近世になって以降、再び使用されたことが想定される。現状では、上野氏が想定した武田時代の庁所説は成立し難い状況となっているが、屋敷の性格を決定づけるには至っていない。

数野雅彦氏は、上記の発掘調査成果を踏まえ、連方屋敷を清白寺と密接な関係を築いた権力者の館であるとし、甲斐守護武田信武やその系譜に連なる信成・信春・信満クラスの人物をあてる。とくに信武は足利尊氏の信任が厚かったことからその可能性が高いものと指摘した（数野 2007）。

屋敷の南のほぼ中央から下新町の交差点まで南に向かって一直線に道路が延びており、その両脇には町割り地形を遺している。数野氏はこの地割について、近世以降に一般的にみられる短冊形地割ではなく、正方形に近い地割がみられることから、短冊形地割が一般化する以前に設けられた地割を継承しているものと理解している。

遺跡の東寄りに位置する清白寺は、臨済宗妙心寺派の寺院である。甲斐国志や寺伝によれば、正慶２（1333）年または観応２（1351）年の創建とされ、足利尊氏を開基、夢窓国師を開山とするが、実際の開山は二世清渓通徹であった。

天和２（1682）年に火災があり、本堂、庫裏などを焼失したが、仏殿は難を逃れている。国宝の仏殿は、大正６年の解体修理の際発見された墨書銘により、応永22（1415）年に再興されたことが明らかとなっている。仏殿は、千手観音を祀ることから観音堂とも称され、唐様建築の典型と言われ、石積基壇をもち桁行３間、梁間３間、一重もこし付入母屋造り、檜皮葺の小規模仏殿の代表とされている。

本遺跡の西側には、青梅街道と秩父往還とが合流する地点があり、八日市場の地名が残る。原八日市場とも呼ばれ、３と８のつく日に市が開催されたという。

八日市場の起源については明らかではないが、天正10（1582）年武田氏が滅亡すると、甲斐は徳川氏の所領となり、武田の遺臣たちは徳川氏に重用された。天正 10 年から翌年にかけて家康によって発給された所領安堵状は多く、その中の天正10年発給の文書に、「甲州原八日市場七貫文・手作前拾三貫文・諸役西之原拾貫文」などとみえ、八日市場の古屋甚五兵衛に安堵していた（荻野ほか 1969）。

古屋氏とは連方屋敷の居住者であると推定され、市場と連方屋敷の関連を強く伺わせるものである。

第７図　遺跡の位置と周辺の遺跡

遺跡一覧（番号は第７図に対応）

No.	遺　跡　名	時　　代
1	三ヶ所遺跡	平安・中世
2	市川西遺跡	縄文
3	植田遺跡	縄文
4	市川東遺跡	縄文
5	神明前遺跡	平安
6	於北南遺跡	平安
7	江曽原遺跡	縄文・古墳
8	犬塚遺跡	平安
9	樋詰裏遺跡	平安・中世
10	西片山遺跡	中世・近世
11	大久保遺跡	縄文・平安
12	丸山遺跡	縄文
13	東田遺跡	中世・近世
14	中下西移籍	平安
15	荒神山窯跡	平安・中世
16	中島遺跡	縄文・平安
17	下河原遺跡	中世・近世
18	兄川河床遺跡	旧石器
19	上コブケ遺跡	縄文・平安
20	窪八幡神社社家坊中群	中世
21	清水陣屋跡	近世
22	窪八幡神社	中世
23	下弥勒遺跡	縄文・平安
24	宮ノ前（七日子）遺跡	縄文・古墳・奈良・平安
25	天神原北遺跡	縄文・平安
26	天神原南遺跡	平安
27	西ノ窪遺跡	縄文・平安
28	中沢遺跡	平安
29	十王堂遺跡	奈良・平安
30	阿弥陀堂遺跡	縄文・古墳・奈良・平安
31	宮ノ西遺跡	古墳・中世
32	権現窪経塚	中世・近世
33	神明遺跡	奈良・平安
34	御屋敷北遺跡	平安
35	御屋敷南遺跡	縄文・平安
36	天神原遺跡	平安
37	狐塚遺跡	平安
38	相畑北遺跡	古墳
39	相畑南遺跡	中世
40	飛沢遺跡	中世・近世
41	立石遺跡	縄文・奈良・平安
42	日下部遺跡	縄文・奈良・平安・中世
43	下ノ原遺跡	縄文
44	八王子遺跡	縄文
45	安田義定館跡	中世
46	大堀遺跡	奈良・平安
47	西久保遺跡	縄文・平安
48	安田義定館跡	中世
49	上之割八王子遺跡	平安
50	唐土遺跡	古墳・中世
51	三ヶ所梨木遺跡	平安
52	寺の下遺跡	縄文

No.	遺　跡　名	時　　代
53	樋口遺跡	古墳・平安・中世
54	連方屋敷	中世
55	梨木遺跡	平安
56	雁行堤	近世
57	日下部病院前遺跡	古墳
58	平塚遺跡	平安
59	塚越遺跡	古墳・中世
60	平塚古墳	古墳
61	稲荷塚古墳	古墳
62	松原遺跡	中世
63	宮ノ上遺跡	平安
64	城伊庵屋敷跡	中世
65	上手原遺跡	縄文
66	浅間遺跡	平安・中世
67	吉原遺跡	平安
68	大橋遺跡	平安・中世
69	河野氏屋敷	中世・近世
70	新町東遺跡	縄文
71	原遺跡	古墳
72	ふじ塚古墳	古墳
73	武田金吾屋敷跡	中世
74	東後屋敷遺跡	縄文・奈良・平安
75	鍛冶屋久弥遺跡	古墳
76	榎木遺跡	古墳
77	榎木田遺跡	平安
78	市道遺跡	平安
79	杉ノ木遺跡	古墳
80	前田遺跡	平安
81	宗高北遺跡	平安
82	屋敷添遺跡	縄文・平安・中世
83	宮ノ前遺跡	平安
84	上石森塚越遺跡	平安・中世
85	上黒木遺跡	奈良・平安・中世
86	堀ノ内遺跡	平安
87	金山林遺跡	古墳・平安
88	大野砦跡	中世
89	高畑遺跡	縄文・古墳・平安
90	天神前北遺跡	平安
91	天神前遺跡	縄文・平安
92	宗高西遺跡	古墳
93	宗高南遺跡	弥生・古墳
94	宗高東遺跡	縄文
95	雲林遺跡	古墳・平安
96	西条遺跡	平安
97	北川通遺跡	平安
98	西田遺跡	縄文・平安
99	上沼遺跡	古墳・平安
100	大林北遺跡	縄文・弥生・古墳・平安・中世
101	東小路遺跡	縄文・平安
102	栗原氏屋敷跡	中世
103	中堰無名墳	古墳
104	大林南遺跡	平安

第３章　遺構と遺物

第１節　掘立柱建物跡

１号掘立柱建物（第８図）
位　置　X＝71、Y＝251 グリット
主　軸　N－74°－W
遺構概要　西側に２号掘立柱建物跡が隣接する。攪乱等によって削平されていた柱穴もあったが、東西３間、南北２間の建物である。柱間は1.8ｍを基本とするが、中央の柱間のみ2.1～2.2ｍほどとなる。残存する柱穴は掘り込みが浅く、0.1～0.25ｍほどである。
　２号掘立柱建物とはやや軸を異にし、別の建物と判断した。
遺物出土状況（第８図）　柱穴内から土器、陶磁器類が数点出土しているが、小破片のため図示できるものはない。いずれも近代のものである。
時　期　近代

２号掘立柱建物（第９図）
位　置　X＝73、Y＝244 グリット
主　軸　N－77°－W
遺構概要　１号掘立柱建物跡の西側に位置し、南西端の柱穴は攪乱によって削平されている。中央列の西側の柱穴は確認することが出来なかった。
　東西２間、南北２間の建物と判断されるが、北列、南列の柱穴主軸がN－77°－Wとなるのに対し中央列はN－70°－Wとなり、東西の中央柱穴列のみ主軸を異にする。西側の柱穴が未確認のため断定はできないが、中央列東側の柱穴が本遺構のものではない可能性もある。柱穴の深さは、0.08～0.18ｍと残存状況は良好ではない。
遺物出土状況（第９図）　確認された８本の柱穴のうち、北西側の２つの柱穴より陶磁器、鉄製品、ガラス、碁石などが出土している。
出土遺物（第32・33図）　第32図１～４は鉄釘、５は銅版を折り曲げ、皮革などの有機物を挟んだものと思われる。両端には釘を打ち込むために円孔が開けられており、片側には銅製の釘も遺る。第33図10は、石製の碁石である。
時　期　近代

第２節　土坑・ピット

　本調査によって、33基の土坑と167基のピットが発見された。土坑とピットの区分は、径50㎝ほどを境界として大きいものを土坑、小さい円形を基調としたものをピットとした。ただし、プラン確認の段階で遺構名称を付しているため、完掘状況が当初予想した規模と異なるものもあり、調査結果をもって厳密に区分したものではない。個々の遺構データについては、第１表にまとめたのでそちらを参照されたい。

土　坑
遺構の概要（第１表・第10～15図）
　発見された33基の土坑は、各調査区内において散在的にみられる。
　１号土坑は、径1.2ｍほどの円形を呈し、底部付近に偏平な礫を敷き詰めていた。また、礫は焼け焦げ、覆土中には炭化物が多くみられ、火を焚いた痕跡が認められた。出土遺物はまったく見られなかったため、時期、性格ともに不明である。
　13号土坑からは、19世紀から近代にかけての陶磁器、ガラス、金属器などが90点ほど出土した。調査区内

には、昭和30年代半ばまで民家が建っていたということであり、廃棄処分されたものの可能性が高い。

出土遺物（第28・32・33図）

土坑からは様々な遺物が出土しており、その多くは近代に属するものである。

７号土坑出土遺物のうち、第28図１は瀬戸・美濃産の片口鉢、同２は肥前系碗で18・19世紀代のもの。同３は８号土坑出土の筒型碗で、19世紀代のものである。同４は12号土坑出土の鉢で近代の所産。

13号土坑からは90点ほどの遺物が出土しており、瀬戸・美濃産の陶器や肥前系の磁器が主体を占める（第28図５～12）。いずれも、19世紀から近代にかけてのものである。金属製品では、鉄板を折り曲げた製品（第32図６）、フォーク（同７）、環状鉄製品（同８）、棒状鉄製品（同９）、「昭和二十三年」銘の五十銭硬貨（第33図１）などが出土している。

15号土坑からは、30点ほどの陶磁器が出土しているが、近代のものが主体を占める。

ピット

遺構の概要（第１表・第15～22図）

発見された167基のピットは、土坑同様に全調査区に広がっている。ピット状の遺構のうち、調査区６区に位置するものが建物配置を示すような配列であったことから、掘立柱建物跡として報告している。

５区北西で発見された149～154号ピットは、東西に約1.8ｍ間隔で３基が、南北は約0.9ｍ間隔で２列の配置となる。北側は調査区外になり、建物と断定するには至らず、ピット群として調査した。時期は不明である。

遺物を出土した遺構は少ないが、その中にあって93号ピットは径0.58ｍほどの円形を呈し、覆土中より、陶磁器類、鉄製品などが15点ほど出土している。陶器は瀬戸・美濃、京・信楽産、磁器は肥前系のもので、18～19世紀代に比定されるものである。

出土遺物（第28・29・32・33図）

93号ピット出土遺物には、瀬戸・美濃産の陶器碗で、17世紀代に比定されるもの（第28図25）、肥前系の磁器筒型碗で、19世紀に比定されるもの（第29図１・２）などが出土している。金属製品では、環状鉄製品（第32図19）、板状鉄製品（同18・20・21）などがある。

第３節　焼土遺構（第22図）

１号焼土遺構（第22図）

位　置　X＝61、Y＝277グリット

主　軸　N－86°－E

遺構概要　東側に94～96号ピット、西側に97～99号ピットが隣接する。

長径0.73ｍ、短径0.53ｍ、深さ0.03ｍの不整隅丸方形を呈する。覆土中に焼土の堆積がみられたことから、掘り窪めたあと、火を焚いたものと考えられる。

出土遺物はなく、性格不明である。

時　期　不明

第４節　溝　跡

１号溝（第23図）

位　置　X＝20、Y＝387グリット

主　軸　N－67°－W

遺構概要　北側には２号溝が隣接する。

長さ3.21ｍ、幅0.5ｍ、深さ0.13ｍほどを測る。溝底部には掘り起こされたような痕跡が多数みられ、耕作による掘り込みの可能性も残る。

遺物出土状況（第23図）　鉄製品が1点出土しているのみである。
出土遺物（第32図）　第32図23は鉄釘である。
時　期　不明

2号溝（第23図）
位　置　X＝22、Y＝390グリット
主　軸　N－68°　－W
遺構概要　南側には1号溝、北側には3号溝が隣接する。
　長さ4.58 m、幅1.07 m、深さ0.2 mほどを測る。1号溝同様に、溝底部には掘り起こされたような痕跡が多数みられ、耕作による掘り込みの可能性も残る。出土遺物はない。
時　期　不明

3号溝（第23図）
位　置　X＝23、Y＝389グリット
主　軸　N－70°　－W
遺構概要　南側には2号溝が隣接する。
　長さ3.1 m、幅0.41 m、深さ0.21 mを測る。1、2号溝同様に、溝底部には掘り起こされたような痕跡が多数みられ、耕作による掘り込みの可能性も残る。
遺物出土状況（第23図）
　土師器と瓦質土器の小破片が2点出土しているのみである。
出土遺物（第29図）　第29図4は、土師質土器の底部小破片であるが、時期は不明。
時　期　不明

4号溝（第23図）
位　置　X＝22、Y＝379～X＝26、Y＝384グリット
主　軸　N－48°　－E
遺構概要　西側に5号溝が隣接する。東側で16号ピットと重複し、切られる。南側は調査区外へと延びる。
　現在長7.05 m、幅1.33～2.79 m、深さ0.73 mを測る。南へ向かい徐々にその深さを増し、幅も広くなる。
遺物出土状況（第23図）　土師器の小破片が1点出土しているのみで、図示できない。
時　期　不明

5号溝（第23図）
位　置　X＝23、Y＝374～X＝26、Y＝377グリット
主　軸　N－55°　－E
遺構概要　東側に4号溝が隣接する。南寄りで上層が攪乱を受け、南側は調査区外へと延びる。
　現在長4.25 m、幅0.72 m、深さ0.19 mを測る。出土遺物はない。
時　期　不明

6号溝（第25図）
位　置　X＝29、Y＝373グリット
主　軸　N－64°　－W
遺構概要　北側に45～48号ピットが隣接する。そのうち48号ピットと重複し、48号ピットを切る。西側は攪乱によって削平されている。
　現在長2.45 m、幅0.3 m、深さ0.03 mを測る。底面は平坦で、断面は箱形を呈する。出土遺物はない。
時　期　不明

７号溝（第 24 図）
位　置　X = 28、Y = 363 ～X = 34、Y = 366 グリット
主　軸　N － 22°　－E
遺構概要　東側に１号不明遺構、10 号土坑、西側に３号土坑、65 号ピットが隣接する。北側は、調査区外に延びている。
　現存長 6.65 m、幅 0.92 m、深さ 0.18 mを測る。
遺物出土状況（第 24 図）　陶器碗の小破片が出土している。
出土遺物（第 29 図）　第 29 図５は、瀬戸・美濃産の陶器碗である。17 世紀代に比定できる。
時　期　近世か

８号溝（第 24 図）
位　置　X = 26、Y = 367 ～X = 30、Y = 367 グリット
主　軸　N － 7°　－E
遺構概要　東側に２号土坑、56・59・60号ピットが、西側に61号ピットが隣接する。南西で53号ピットと重複し、ピットを切る。北側では攪乱によって一部を掘削され、１号性格不明遺構に切られる。
　現存長 4.2 m、幅 0.55 m、深さ 0.19 mを測る。溝は直線ではなくやや弧状になる。出土遺物はない。
時　期　不明

９号溝（第 26 図）
位　置　X = 57、Y = 289 グリット
主　軸　N － 13°　－E
遺構概要　東側に 77 号ピット、北側に 78 号ピット、西側に 79 ～ 83 号ピットが位置する。そのうち、79 号ピットとは重複し、ピットに切られる。南側は攪乱により削平されている。
　現存長 3.28 m、幅 1.02 m、深さ 0.08 mを測る。出土遺物はない。
時　期　不明

10号溝（第 24 図）
位　置　X = 74、Y = 251 ～X = 76、Y = 248 グリット
主　軸　N － 59°　－W
遺構概要　北西に 115 号ピット、南側に１・２号掘立柱建物が隣接する。114 号ピットと重複し、切られる。
　長さ 3.45 m、幅 .031 m、深さ 0.04 mを測る。
遺物出土状況（第 24 図）
　土器、瀬戸・美濃産の陶磁器が５点ほど出土しているが、いずれも小破片で近代のものが多数を占める。
出土遺物（第 29 図）　第 29 図６は、土師質の焙烙である。
時　期　近代

11号溝（第 24 図）
位　置　X = 71、Y = 250 グリット
主　軸　N － 17°　－E
遺構概要　西側に 18 号土坑が隣接する。北側で 13 号土坑と重複し、切られる。
　現存長 1.35 m、幅 0.68 m、深さ 0.02 mほどを測る。
遺物出土状況（第 24 図）　陶磁器類が３点ほど出土している。
出土遺物（第 29 図）　第 29 図７は、瀬戸・美濃産の陶器碗である。18 世紀代に比定される。
時　期　近世

12号溝（第25図）
位　置　X＝35、Y＝374～X＝28、Y＝392グリット
主　軸　N－67°－W
遺構概要　北側に21・22号土坑、南側に1号土坑が隣接する。119・126・130～134号土坑と重複し、いずれにも切られる。西側は攪乱により削平され調査区外へ、東側も調査区外へと延びている。
　現存長21.17 m、幅2.93 m、深さ0.4 mを測る。
　北側に掘削されている13ないし14号溝とほぼ並行しており、道の脇に掘られた側溝と考えることが出来るかもしれない。
遺物出土状況（第25図）　土器、陶磁器類が40点ほど出土している。
出土遺物（第29図）　第29図8～15は土師質の坏ないし皿であると思われる。16は鍋、17は火鉢か。18は土師質の擂鉢。19は瀬戸・美濃産の磁器碗である。多くの遺物が近世であると思われるが、19は近代のものである。
時　期　近世

13号溝（第25図）
位　置　X＝40、Y＝375～X＝37、Y＝382グリット
主　軸　N－63°－W
遺構概要　南側には139～145号ピットが隣接する。溝上には121～124・127・146号ピットが掘られていた。西側では14号溝と交差し、切られている。北側の立ち上がりならびに東側は調査区外へと延びている。
　現存長19.2 m、現存幅0.45～1.29 m、深さ0.41 mを測る。東側では溝の掘り込みが深くなり、2段状の掘り込みとなる。
遺物出土状況（第25図）　中近世の陶磁器類が3点ほど出土している。
出土遺物（第29図）　出土遺物のうち、第29図20は、小破片ではあるが瀬戸・美濃産の天目茶碗の胴部破片で、16世紀代に比定されるものである。
時　期　中～近世

14号溝（第25図）
位　置　X＝39、Y＝373～X＝37、Y＝382グリット
主　軸　N－85°－W
遺構概要　南側に141～145号ピットが隣接する。東側で13号溝と交差し、切っている。東西とも調査区外へ延びている。
　現存長9.35 m、幅0.85 m、深さ0.16 mを測る。溝内からは10～20 cm大の礫が多量に発見された。
遺物出土状況（第25図）　土器、陶磁器類が6点ほど出土しているのみである。
出土遺物（第29図）　第29図21は、土師質の坏、同22は瀬戸・美濃産の徳利で18世紀代に比定されるものである。
時　期　近世

15号溝（第26図）
位　置　X＝66、Y＝276～X＝60、Y＝296グリット
主　軸　N－66°－W
遺構概要　北側には23号土坑が隣接する。西側で並行する16号溝に切られ、東側で直交する17号溝を切る。また、中央付近で34号土坑と重複する。東側は調査区外へ延び、西側で直角に折れ、南下する。
　現存長23.5 m、幅0.78 m、深さ0.25 mを測る。中央付近に34号土坑が掘られているが、土層観察からは切り合いの状況もなく、覆土にグライ土の堆積がみられたことから、同時に機能していたものと判断した。
遺物出土状況（第26図）　土器、陶磁器類が50点余り出土している。

出土遺物（第30・32図）　第30図1～5は、土師質の鍋。陶器碗には、瀬戸・美濃産と肥前系のものがある（同6～10）。磁器碗は肥前系のものである（同11～13）。同14は肥前系の皿。同15は京・信楽の碗、同16は肥前系の瓶である。いずれも17～18世紀の所産である。第32図24は鉄釘である。

時　期　近世

16号溝（第26図）

位　置　X＝66、Y＝275グリット

主　軸　N－34°　－E

遺構概要　15号溝の南北に主軸をとる部分と並行し、15号溝を切って掘削している。南北ともに攪乱を受け削平されているが、南側の攪乱は幅が狭く、それほど南側には延びていないようである。

現存長3.0 m、幅0.7 m、深さ0.3 mを測る。

遺物出土状況（第26図）　磁器の小破片がわずかに1点出土したのみである。

時　期　近世以降

17号溝（第26図）

位　置　X＝59、Y＝295～X＝64、Y＝297グリット

主　軸　N－24°　－E

遺構概要　西に18号溝が並行して掘削されている。中ほどを攪乱によって大きく削平され、南側で直交する15号溝に切られる。溝東側の立ち上がりは調査区外にあたり、北側も調査区外へ延びている。

現存長4.95 m、現存幅0.28 m、深さ0.29 mを測る。溝北側では、人頭大ほどの礫で隙間なく埋められていた。

出土遺物はない。

時　期　近世以前

18号溝（第26図）

位　置　X＝64、Y＝296グリット

主　軸　N－17°　－W

遺構概要　東側に17号溝が並行して掘削されている。北側は調査区外へ延び、南側は攪乱により削平されている。南側で東西に走る15号溝と重複していたかは不明。ただし、15号溝より南まで掘削はされていない。

現存長1.35 m、幅0.27 m、深さ0.09 mを測る。

出土遺物はない。

時　期　不明

19号溝（第24図）

位　置　X＝55、Y＝289～X＝58、Y＝290グリット

主　軸　N－72°　－W

遺構概要　南側に150・152・154号ピットが隣接する。5区北側に位置し、東西ともに調査区外へ延びている。

現存長11.05 m、幅0.68 m、深さ0.09 mを測る。

遺物出土状況（第25図）磁器1点、鉄釘1点が出土したのみである。

出土遺物（第32図）第32図25は鉄釘である。

時　期　不明

第５節　道路状遺構

１号道路状遺構（第 25 図）

位　置　X = 37、Y = 356 ～ X = 29、Y = 392 グリット

主　軸　N － 68°　－ W

遺構概要　12 号溝と 13 号溝ないし 14 号溝が幅 3.5 mほどをもって並行して掘削されており、その間に位置する平坦面を道路状遺構として調査した。前節で触れたとおり、13 号溝からは 16 世紀代の遺物が出土し、近世の遺物を出土した 14 号溝によって切られている。12 号溝からは近世の遺物が出土していることから、12・14 号溝が対をなすものかもしれない。

ただし、調査範囲も限られていたことから、これら並行する溝のほかに調査区北側に溝が存在することも考えられ、ここでは可能性のみを指摘するに留めておく。

遺物出土状況（第 25 図）　12・14 号溝に挟まれた平坦面からは、土器、陶磁器類が散在的にわずかながら出土している。

出土遺物（第 30 図）　第 30 図 17・18 は土師質土器、同 19 は瀬戸・美濃産の碗、同 20 は肥前系の皿、第 32 図 26 は板状鉄製品である。

時　期　近世

第６節　性格不明遺構

１号性格不明遺構（第 27 図）

位　置　X = 31、Y = 367 グリット

主　軸　N － 83°　－ W

遺構概要　西側には７号溝が隣接する。南側で８号溝と重複し、切っている。また、東側で 58 号ピットと重複し、切られる。

長径 3.29 m、短径 1.8 m、深さ 0.1 mを測る、不整形の掘り込みが確認された。

出土遺物もなく性格不明のため、性格不明遺構として調査した。

時　期　不明

２号性格不明遺構（第 27 図）

位　置　X = 42、Y = 359 グリット

主　軸　N － 15°　－ E

遺構概要　西側に 31 ～ 33 号土坑、160 ～ 164 号ピットが隣接する。

長径 5.85 m、短径 3.41、深さ 0.36 mを測り、隅丸長方形に近いプランを呈するが、南西側はやや突出する。南西側の底部は長軸 2.2 m、短軸 1.2 mほど地山を掘り残し、一段高くなっている。

遺物出土状況（第 27 図）　土器、陶磁器類が 10 点ほど出土している。図示できたものは近世の所産であるが、小破片の多くは近代のものである。

出土遺物（第 30 図）　第 30 図 21 は瀬戸・美濃産の擂鉢、同 22 は肥前系の磁器碗である。いずれも 18 世紀代に比定される。

時　期　近代

第４章　まとめ

今回の発掘調査は、山梨県史跡である連方屋敷南側に接して東西に延びる道路の拡幅工事に伴うものであった。

連方屋敷の前面を調査対象地としており、屋敷に関連する遺構の発見も期待された。連方屋敷は、四方に土塁と堀をもった方形単郭の居館であり、土塁外側まで含めると、東西117～130m、南北120ｍの規模をもつ。南側と北側の土塁は並行しているが、西側土塁は５度、東側土塁は13.5度偏西しており、菱形のような平面プランとなる。土塁の外側に巡る堀は、北側と西側に残存しており、現状で５～６ｍ、一部調査された堀底は、２～３ｍの幅をもつ。東側と南側は、水路として使用されており、現状では堀の痕跡を確認することは出来ない。

今回の調査では、屋敷南側において堀の痕跡が確認されることも期待されたが、なんら確認されなかった。屋敷に隣接して東西に敷設された道路は、生活道路でもあるため通行を遮断して調査を行うことが出来なかったために、調査の対象外とした。おそらく、南側の堀の立ち上がりは、道路下に存在するものと思われる。

また、屋敷前面の４・６区では、個人住宅が建てられており、昭和35年頃に火災にあったようである。特に４区では、火災に伴う建て替えや、今回の道路建設に伴う移転工事においても掘削がなされるなど、再三にわたり地下まで攪乱が及んでおり、調査状況は良好ではなかった。そのためか、中世段階の遺構・遺物を確認することは出来なかった。

しかし、４・６区において、中世段階に遡る遺物がまったくみられない状況からすれば、むしろ中世段階においては、土地利用されていない空間地であった可能性もあろう。

３区で発見された並行して掘削された12～14号溝は、掘削年代の特定も出来ない状態ではあるが、13号溝中から中世段階に遡る陶器片が出土しており、現況道路に先行する連方屋敷前面を貫く道路に関連した遺構であることも推察された。

本調査区の東側における第１次発掘調査においても、調査区西端で並行する溝跡が発見された。１号溝は、主軸をＮ－65°－Ｗにとり、幅0.9～1.9ｍ、深さ0.3ｍを測る。覆土中には礫を多く含んでいた。２号溝は、主軸をＮ－71°－Ｗにとり、幅１ｍ、深さ0.3ｍを測る。

本調査区で発見された12～14号溝は、主軸をそれぞれ、Ｎ－67°－Ｗ、Ｎ－63°－Ｗ、Ｎ－85°－Ｗにとる。

両調査区の溝は、主軸をほぼ同じくしているが、位置が異なるため同一の溝ではない。現況道路の主軸もＮ－70°－Ｗとなり、ほぼ同一である。溝の主軸にやや幅があるがこれらの溝は、南北の軸線を24度東に振る八幡条里の軸線に沿っているものとしてよい。

第１次調査区の溝は中世段階の掘削とされており、13号溝からも16世紀代に遡る陶器片が出土していることから、中世段階の道にかかわる遺構であることも十分考えられる。屋敷内の発掘調査では、14世紀代の遺物はみられるものの、15、16世紀代の遺物が全くみられず、近世になって再度使用されたような状況を示している。この空白期を埋める資料として重要な意味をもつ可能性もある。

今後の調査の進展によって、この問題が明らかにされることを期待したい。

参考文献

上野晴朗　1983『武田信玄　城と兵法』　新人物往来社
荻野三七彦・齋藤俊六　1969『新編　甲州古文書』　第３巻　角川書店
数野雅彦　2005「連方屋敷」『山梨市史』　資料編　考古・古代・中世　山梨市
数野雅彦　2007「連方屋敷と上野氏屋敷」『山梨市史』　通史編　上巻　山梨市
佐野勝広　1980「甲斐の古瓦の様相」『丘陵』　第８号　甲斐丘陵考古学研究会
中山誠二　2005「条里」『山梨市史』　資料編　考古・古代・中世　山梨市
三澤達也　2007「連方屋敷」『山梨考古』第106号　山梨県考古学協会
山下孝司　2007「奈良・平安時代」『山梨市史』　通史編　上巻　山梨市
山梨県教育委員会　1995『山梨県古代官衙・寺院詳細分布調査報告書』　山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第106集
山梨市ほか　2010『三ケ所遺跡　―市道小原東東後屋敷線改良に伴う発掘調査報告書―』　山梨市文化財調査報告書　第12集
山梨市教育委員会　1987『日下部　日下部遺跡調査報告書　付　七日子遺跡　江曽原遺跡』
山梨市教育委員会・財団法人山梨文化財研究所　2010『三ケ所遺跡現地説明会資料』
山梨市史編さん委員会　2000『山梨市史民俗調査報告書　―後屋敷の民俗―』

第１表　土坑一覧表

[　]の中の数値は残存値　単位：m

遺構名	グリッド	形態	上端 長径×短径	下端 長径×短径	深さ	主軸	出土遺物	備考
１号土坑	26-385	不整円	1.28×1.21	0.315×0.29	0.54	－		
２号土坑	29-368	不整楕円	0.595×0.4	0.255×0.25	0.235	N-62°-W		８号溝を切る
３号土坑	32-363	不整楕円	0.68×0.5	0.085×0.065	0.14	N-80°-W		65号ピットを切る
４号土坑	33-361	不整形	0.75×0.68	0.62×0.5	0.1	N-61°-E		
５号土坑	58-286	不整円	0.785×0.72	0.63×0.49	0.29	N-63°-W		
６号土坑	59-282	不整円	[0.825×0.6]	[0.7×0.55]	0.43	－		12号土坑を切る
７号土坑	61-272	円	1.02×0.945	0.545×0.27	0.295	－	土器１、陶器１、磁器１	
８号土坑	63-269	不整円	[0.88×0.68]	0.365×0.29	0.63	N-7°-E	磁器１	９号土坑に切られる・11号土坑を切る
９号土坑	63-269	不整円	0.78×0.77	0.41×0.35	0.56	N-71°-E	土器２、陶器１、磁器３	８号土坑を切る
10号土坑	32-366	不整長楕円	1.09×0.56	0.855×0.41	0.185	N-51°-W		
11号土坑	63-270	不整楕円	[0.82×0.575]	0.46×0.215	0.49	N-11°-W		８号土坑に切られる
12号土坑	58-282	不整円	[0.96×0.95]	0.835×0.63	0.21	－	土器３、磁器３、陶器１	６号土坑・116号ピットに切られる
13号土坑	72-250	不整円	1.3×1.265	0.3×0.285	0.55	－	土器７、陶器15、磁器38、古銭１、金属５、ガラス16、瓦５	35号土坑を切る
14号土坑	72-243	不整楕円	1.34×1.18	0.81×0.725	0.21	N-37°-E	陶器２、磁器４、瓦２	
15号土坑	74-241	円	1.11×0.965	0.94×0.855	0.25	N-46°-E	土器７、陶器５、磁器29、金属１、貝１、ガラス３、瓦８	
16号土坑	76-242	不整楕円	0.685×0.565	0.24×0.21	0.42	N-16°-E	土器３、陶器２、磁器５、金属１	
17号土坑	69-253	隅丸方形	0.83×0.685	0.77×0.635	0.02	N-70°-W	磁器１	109号ピットに切られる
18号土坑	71-249	円	0.58×0.57	0.5×0.48	0.04	－	磁器３	
19号土坑	78-242	不整円	0.585×0.545	0.275×0.255	0.285	N-63°-W	陶器２、磁器１、金属２、ガラス１、瓦４	
20号土坑	32-383	不整形	0.6×0.405	0.36×0.3	0.23	N-22°-E	土器１	
21号土坑	36-380	不整楕円	[0.915×0.81]	[0.815×0.71]	0.09	N-18°-W		南半は撹乱を受ける
22号土坑	32-385	不整形	0.55×0.485	0.455×0.335	0.155	N-25°-E	磁器１	
23号土坑	65-287	楕円	0.82×0.465	0.755×0.285	0.06	N-14°-E	土器４、磁器１	
24号土坑	45-399	長方形	1.56×0.59	1.485×0.39	0.95	N-72°-W		
25号土坑	46-341	不整方形	0.605×0.545	0.39×0.25	0.19	－	金属１	155号ピットを切る
26号土坑	46-341	不整楕円	0.92×0.55	0.64×0.31	0.155	N-58°-W		
27号土坑	45-346	不整隅丸方形	1.205×0.565	0.73×0.395	0.23	N-16°-W		
28号土坑	44-347	不整方形	1.265×0.545	0.885×0.41	0.57	N-16°-W		
29号土坑	42-344	長楕円	[1.18×0.595]	[1.06×0.43]	0.175	N-75°-W	土器１、陶器１、磁器１	西半は撹乱を受ける
30号土坑	42-353	不整円	0.665×0.615	0.45×0.22	0.145	－		
31号土坑	42-355	不整形	[0.595×0.55]	[0.45×0.395]	0.095	N-11°-W		32号土坑に切られる
32号土坑	43-355	不整楕円	0.835×0.675	0.68×0.48	0.105	N-47°-E		31号土坑を切る
33号土坑	42-355	不整形	0.95×0.6	0.765×0.31	0.11	N-5°-E		
34号土坑	66-282	不整形	1.73×1.72	1.085×0.46	0.71	N-56°-W		15号溝を切る
35号土坑	71-250	円	[0.96×0.24]	[－×0.14]	0.33	－		13号土坑に切られる・11号溝を切る

第２表　ピット一覧表

[　]の中の数値は残存値　単位：m

遺構名	グリッド	形態	上端 長径×短径	下端 長径×短径	深さ	出土遺物	備考
１号ピット	20-390	円	0.375×0.35	0.225×0.175	0.36		
２号ピット	23-389	円	0.38×0.325	0.18×0.17	0.235		
３号ピット	22-388	楕円	0.35×0.245	0.19×0.075	0.26		
４号ピット	27-388	円	0.355×0.335	0.195×0.175	0.345		
５号ピット	25-388	円	0.295×0.265	0.185×0.115	0.505		
６号ピット	22-386	不整楕円	0.435×0.335	0.345×0.235	0.055		
７号ピット	20-386	円	0.345×0.305	0.215×0.175	0.29		
８号ピット	21-385	円	0.525×0.475	0.39×0.305	0.08		
９号ピット	25-379	円	0.25×－	0.135×0.13	0.105		20号ピットと重複
10号ピット	28-372	楕円	0.34×0.265	0.215×0.115	0.13		42号ピットと重複
11号ピット	25-386	長楕円	0.305×0.21	0.14×0.115	0.05		
12号ピット	23-386	円	0.295×0.245	0.145×0.115	0.13		
13号ピット	23-385	円	0.435×0.425	0.305×0.285	0.075		
14号ピット	23-384	楕円	0.42×0.295	0.28×0.2	0.1		
15号ピット	21-383	円	0.445×0.395	0.35×0.315	0.06		
16号ピット	24-383	楕円	0.455×0.355	0.08×0.08	0.285		４号溝を切る
17号ピット	27-381	楕円	0.355×0.255	0.295×0.14	0.055		
18号ピット	26-381	楕円	0.25×0.19	0.175×0.085	0.06		
19号ピット	27-380	円	0.32×0.3	0.115×0.095	0.135		
20号ピット	24-379	円	0.305×－	0.115×0.11	0.095		９号ピットと重複
21号ピット	29-378	円	0.375×0.345	0.24×0.23	0.14		
22号ピット	28-377	円	0.425×0.385	0.21×0.065	0.135		
23号ピット	27-377	円	0.33×0.32	0.095×0.07	0.21		
24号ピット	30-377	隅丸方形	[0.405×0.395]	0.275×0.25	0.135		25号ピットに切られる
25号ピット	30-377	円	0.34×0.3	0.195×0.16	0.23		24号ピットを切る
26号ピット	27-376	不整形	0.51×0.355	0.2×0.15	0.145		
27号ピット	25-375	楕円	0.525×0.425	0.355×0.255	0.15		
28号ピット	25-374	円	0.28×0.265	0.08×0.045	0.185		
29号ピット	26-374	楕円	0.46×0.365	0.33×0.275	0.115		
30号ピット	25-374	円	0.305×0.25	0.27×0.22	0.01		
31号ピット	30-376	円	0.23×0.195	0.125×0.11	0.095		
32号ピット	30-375	楕円	0.39×0.295	0.215×0.115	0.17		
33号ピット	30-375	楕円	0.385×0.28	0.415×0.31	0.085		
34号ピット	29-375	円	0.275×0.26	0.195×0.155	0.07		
35号ピット	29-375	円	0.355×0.335	0.235×0.185	0.215		
36号ピット	27-374	不整形	0.415×0.35	0.265×0.105	0.15		

遺構名	グリッド	形態	上端	下端	深さ	出土遺物	備考
			長径×短径	長径×短径			
37号ピット	27-374	円	0.375×0.34	0.25×0.225	0.08		
38号ピット	27-373	円	0.325×0.285	0.24×0.205	0.025		
39号ピット	28-373	円	0.345×0.325	0.15×0.14	0.17		
40号ピット	28-373	不整楕円	0.275×0.205	0.195×0.135	0.06		
41号ピット	27-373	不整円	0.42×0.375	0.325×0.285	0.115		
42号ピット	28-372	不整形	0.685×0.405	0.105×0.06	0.22		10号ピットと重複
43号ピット	29-372	楕円	0.31×0.235	0.135×0.115	0.125		
44号ピット	31-374	楕円	0.525×0.395	0.415×0.305	0.15		
45号ピット	30-374	楕円	0.395×0.27	0.25×0.155	0.08		
46号ピット	29-374	円	0.375×0.32	0.265×0.245	0.17		
47号ピット	30-373	楕円	0.345×0.275	0.24×0.165	0.11		
48号ピット	30-372	隅丸方形	0.365×0.345	0.235×0.195	0.205		６号溝を切る
49号ピット	28-373	楕円	0.335×0.24	0.255×0.18	0.045		
50号ピット	26-372	不整楕円	0.3×0.23	0.15×0.1	0.085		
51号ピット	27-370	円	0.29×0.265	0.185×0.165	0.09		
52号ピット	26-370	楕円	0.305×0.24	0.2×0.135	0.07		
53号ピット	27-367	円	0.62×0.325	0.535×0.265	0.05		８号溝に切られる
54号ピット	27-369	不整円	0.445×0.435	0.245×0.195	0.04		55号ピットを切る
55号ピット	27-369	楕円	0.495×0.305	0.395×0.205	0.04		54号ピットに切られる
56号ピット	27-368	不整形	0.415×0.275	0.285×0.2	0.04		
57号ピット	30-369	円	0.355×0.335	0.095×0.06	0.16		
58号ピット	31-368	円	0.525×0.465	0.395×0.335	0.07		１号不明遺構を切る
59号ピット	29-368	不整円	0.355×0.335	0.175×0.145	0.1		
60号ピット	29-368	不整円	0.345×0.255	0.265×0.215	0.075		
61号ピット	27-367	円	0.295×0.255	0.235×0.195	0.03		
62号ピット	33-367	円	0.31×0.27	0.225×0.18	0.08		
63号ピット	33-367	円	0.505×0.475	0.32×0.27	0.135		
64号ピット	29-366	隅丸方形	0.345×0.305	0.255×0.205	0.14		
65号ピット	32-364	楕円	0.535×0.395	0.435×0.305	0.035		３号土坑に切られる
66号ピット	34-363	不整形	0.755×0.45	0.445×0.31	0.135		
67号ピット	33-362	不整形	0.545×0.485	0.185×0.115	0.18		
68号ピット	32-362	不整楕円	0.555×0.535	0.505×0.305	0.11		
69号ピット	31-363	隅丸方形	0.345×0.275	0.12×0.115	0.17		
70号ピット	30-362	楕円	0.55×0.435	0.315×0.235	0.12		
71号ピット	30-362	楕円	0.335×0.235	0.185×0.085	0.04		
72号ピット	30-362	不整楕円	0.3×0.235	0.165×0.135	0.05		
73号ピット	32-360	不整形	0.57×0.395	0.34×0.215	0.115		
74号ピット	32-356	楕円	0.53×0.435	0.365×0.235	0.160		
75号ピット	32-355	不整円	0.525×0.45	0.415×0.295	0.115		
76号ピット	56-292	楕円	0.425×0.345	0.235×0.175	0.195	土器２、金属１	
77号ピット	57-291	円	0.405×0.365	0.295×0.23	0.16		
78号ピット	58-290	円	0.385×0.375	0.255×0.18	0.17		
79号ピット	57-289	円	0.4×0.355	0.225×0.21	0.095	土器１、陶器１、磁器２	９号溝を切る
80号ピット	57-289	円	0.175×0.16	0.105×0.105	0.03		
81号ピット	57-289	円	0.17×0.165	0.115×0.11	0.025		
82号ピット	57-288	円	0.16×0.155	0.095×0.09	0.035		
83号ピット	56-288	円	0.23×0.22	0.155×0.145	0.115		
84号ピット	59-288	円	0.39×0.37	0.225×0.195	0.11		85号ピットを切る
85号ピット	59-288	楕円	[0.54×0.42]	[0.375×0.29]	0.165		84号ピットに切られる
86号ピット	58-288	楕円	0.385×0.305	0.18×0.15	0.225		
87号ピット	58-288	楕円	0.255×0.195	0.195×0.11	0.09		
88号ピット	58-288	円	0.315×0.305	0.245×0.24	0.03		
89号ピット	58-287	不整円	0.595×0.52	0.385×0.305	0.35	金属１、瓦１	
90号ピット	58-287	楕円	0.625×0.485	0.245×0.215	0.175	土器１	
91号ピット	59-287	円	0.265×0.255	0.135×0.115	0.075		
92号ピット	58-283	不整形	0.515×0.445	0.44×0.31	0.1		
93号ピット	61-281	円	0.58×0.535	0.265×0.25	0.245	土器１、陶器９、磁器２、金属３	
94号ピット	61-279	不整円	0.28×0.245	0.16×0.135	0.06		
95号ピット	60-279	円	0.335×0.305	0.275×0.25	0.055		
96号ピット	60-278	円	0.335×0.315	0.265×0.255	0.04		
97号ピット	61-276	円	0.365×0.345	0.3×0.265	0.06		98号ピットと接する
98号ピット	61-275	円	0.345×0.31	0.295×0.225	0.045		97号ピットと接する
99号ピット	61-275	不整楕円	0.425×0.255	0.355×0.225	0.07		
100号ピット	61-274	不整楕円	[0.365×0.345]	[0.35×0.265]	0.05		101号ピットに切られる
101号ピット	61-274	不整円	0.495×0.46	0.385×0.245	0.325		100号ピットを切る
102号ピット	63-272	不整楕円	0.35×0.245	0.285×0.165	0.07		
103号ピット	63-271	不整方形	0.505×0.495	0.365×0.355	0.075	金属１	
104号ピット	62-270	円	0.27×0.265	0.21×0.17	0.035		
105号ピット	59-277	円	0.315×0.305	0.1×0.085	0.4		
106号ピット	59-277	円	[0.26×0.235]	0.14×0.08	0.24		107号ピットに切られる
107号ピット	59-277	不整隅丸方形	0.345×0.335	0.135×0.115	0.215		106号ピットを切る
108号ピット	60-273	不整円	0.53×0.505	0.34×0.215	0.115		
109号ピット	69-252	楕円	0.295×0.22	0.195×0.145	0.02		17号土坑を切る
110号ピット	70-253	長楕円	0.38×0.215	0.295×0.135	0.035		
111号ピット	72-248	不整楕円	0.515×0.365	0.41×0.235	0.095	磁器３、ガラス１	
112号ピット	78-245	円	0.345×0.295	0.18×0.165	0.08	磁器３	
113号ピット	79-246	円	0.385×0.375	0.285×0.205	0.215	磁器１	
114号ピット	76-249	円	0.245×0.245	0.155×0.145	0.11	磁器１	10号溝を切る
115号ピット	77-248	円	0.355×0.35	0.235×0.165	0.085	ガラス１	
116号ピット	58-282	円	0.525×0.51	0.365×0.335	0.49		12号土坑を切る
117号ピット	77-245	円	0.36×0.315	0.235×0.195	0.17	土器１、陶器２、磁器１、水晶１	
118号ピット	78-243	円	0.38×0.35	0.295×0.245	0.185	瓦１	
119号ピット	29-388	円	0.315×0.295	0.205×0.195	0.04		12号溝を切る

遺構名	グリッド	形態	上端	下端	深さ	出土遺物	備考
			長径×短径	長径×短径			
120号ピット	30-388	不整円	0.325×0.305	0.215×0.16	0.105		
121号ピット	33-389	不整形	0.435×0.35	0.295×0.2	0.165		13号溝を切る
122号ピット	33-390	円	0.335×0.285	0.245×0.185	0.04		13号溝を切る
123号ピット	34-389	楕円	0.365×0.295	0.2×0.165	0.13		13号溝を切る
124号ピット	33-389	楕円	0.455×0.335	0.335×0.15	0.22		13号溝を切る
125号ピット	31-388	不整円	0.315×0.275	0.175×0.155	0.05		
126号ピット	30-387	隅丸方形	0.395×0.27	0.255×0.165	0.05		12号溝を切る
127号ピット	34-388	円	0.335×0.325	0.175×0.145	0.2		13号溝を切る
128号ピット	33-388	不整楕円	0.425×0.345	0.26×0.195	0.155		13号溝を切る
129号ピット	31-387	円	0.335×0.285	0.265×0.185	0.05		
130号ピット	30-387	不整楕円	0.325×0.25	0.185×0.135	0.08		
131号ピット	31-386	円	0.405×0.335	0.155×0.145	0.14		12号溝を切る
132号ピット	32-385	円	0.365×0.315	0.18×0.15	0.15		12号溝を切る
133号ピット	31-382	円	0.275×0.24	0.165×0.135	0.05		
134号ピット	31-381	不整形	0.395×0.295	0.185×0.135	0.155	陶器1	12号溝を切る
135号ピット	30-380	円	0.445×0.365	0.255×0.195	0.19		
136号ピット	31-378	円	0.385×0.375	0.255×0.215	0.13		
137号ピット	31-377	円	0.385×0.335	0.21×0.205	0.115		
138号ピット	32-375	不整形	0.37×0.325	0.195×0.185	0.17		
139号ピット	36-382	円	0.325×0.29	0.235×0.175	0.08		
140号ピット	36-381	不整形	0.39×0.305	0.265×0.15	0.06		
141号ピット	37-379	円	0.335×0.285	0.2×0.165	0.9		
142号ピット	38-378	不整円	0.315×0.265	0.185×0.145	0.1		
143号ピット	37-378	円	0.25×0.245	0.175×0.155	0.07		
144号ピット	38-377	不整形	0.365×0.22	0.25×0.19	0.14		
145号ピット	38-377	円	0.355×0.295	0.185×0.155	0.095		
146号ピット	39-377	不整形	0.405×0.25	0.27×0.2	0.175		13号溝を切る
147号ピット	欠番						
148号ピット	33-386	円	0.475×0.425	0.405×0.38	0.08		
149号ピット	48-347	不整楕円	0.41×0.295	0.235×0.155	0.12		
150号ピット	49-347	不整形	0.475×0.405	0.28×0.15	0.12		
151号ピット	47-349	楕円	0.43×0.345	0.245×0.285	0.185		
152号ピット	48-349	不整円	0.53×0.505	0.28×0.12	0.2		
153号ピット	47-350	不整形	0.61×0.585	0.3×0.195	0.235		
154号ピット	48-351	不整楕円	0.54×0.45	0.275×0.195	0.22	磁器1	
155号ピット	46-341	楕円	[0.41×0.345]	0.305×0.21	0.05		25号土坑に切られる
156号ピット	44-347	円	0.385×0.365	0.205×0.135	0.08		157号ピットと接する
157号ピット	44-347	不整形	0.27×0.22	0.085×0.065	0.08	磁器1	156号ピットと接する
158号ピット	43-353	円	0.645×0.435	0.145×0.135	0.13		
159号ピット	43-354	不整形	0.715×0.565	0.325×0.255	0.175		
160号ピット	43-354	不整楕円	0.555×0.455	0.44×0.345	0.12		
161号ピット	41-354	不整形	0.52×0.385	0.325×0.21	0.245		
162号ピット	41-355	不整方形	0.38×0.295	0.29×0.185	0.05		

第３表　出土遺物観察表(土器)

１．法量(　　)は復元実測値、[　　]は現存値である。
２．残存率は、図示されたうちのもの／個体全体のうちのものを示す。また、これらの数値は目測によるものである。

遺構名	図版番号	種類	器形	法量(cm)			整形			色調	胎土	含有物	焼成	残存率	産地	時代	備考
				口径	底径	器高	内面	外面	底部								
7号土坑	28-1	陶器	碗	(14.0)	-	[3.3]	ロクロナデ	ロクロナデ		浅黄橙(10YR8/4) 釉-黄褐(10YR5/6)	蜜		良	20/-	瀬戸・美濃	18C	片口　鉄釉
7号土坑	28-2	磁器	碗	-	-	[1.6]	ロクロナデ	ロクロナデ		乳白色	緻密		良	20/-	肥前	19C	筒型　染付け　手書き
8号土坑	28-3	磁器	碗	-	-	[3.3]	ロクロナデ	ロクロナデ		乳白色	緻密		良	15/-	肥前	19C	筒型　染付け
12号土坑	28-4	磁器	鉢	(14.8)	高台径6.6	6.7	ロクロナデ	ロクロナデ		乳白色	緻密		良	40/40	瀬戸・美濃	近代	片口　染付け　手書き
13号土坑	28-5	陶器	甕	(11.0)	-	[7.3]	ロクロナデ	ロクロナデ、 カキメ		黄灰(2.5Y6/2) 釉-暗褐(7.5YR3/4)	やや粗		良	10/-	瀬戸・美濃	19C	鉄釉
13号土坑	28-6	陶器	土瓶	-	-	[5.7]	ロクロナデ	ロクロナデ		灰黄(2.5Y6/2) 釉-灰黄(2.5Y6/2)	緻密		良	10/-	不明	近代	灰釉
13号土坑	28-7	陶器	土瓶	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ		黄褐(2.5Y5/3)	蜜	白色粒子	良	-	不明	19C	
13号土坑	28-8	磁器	碗	(7.0)	高台径3.0	5.1	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	乳白色	緻密		良	20/20	不明	近代	
13号土坑	28-9	磁器	坏	(6.6)	高台径2.6	3.2	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	灰白(10Y7/1)	緻密		良	40/-	肥前	19C	硅砂敷あり　トチンあと　手書き
13号土坑	28-10	磁器	碗	(11.0)	-	[3.2]	ロクロナデ	ロクロナデ		乳白色	緻密		良	20/-	瀬戸・美濃	近代	染付け　手書き
13号土坑	28-11	磁器	碗	(8.0)	-	[4.0]	ロクロナデ	ロクロナデ		乳白色	緻密		良	10/-	瀬戸・美濃	近代	
13号土坑	28-12	磁器	碗	(7.0)	-	[3.9]	ロクロナデ	ロクロナデ		乳白色	緻密		良	25/-	瀬戸・美濃	19C	染付け　手書き
15号土坑	28-13	磁器	碗	(8.0)	-	[3.8]	ロクロナデ	ロクロナデ		乳白色	蜜		良	40/-	瀬戸・美濃	近代	染付け　手書き
15号土坑	28-14	磁器	碗	(10.0)	-	[5.6]	ロクロナデ	ロクロナデ		乳白色	蜜		良	10/-	瀬戸・美濃	近代	
15号土坑	28-15	磁器	碗	(7.2)	-	[4.4]	ロクロナデ	ロクロナデ		乳白色	蜜		良	50/-	瀬戸・美濃	近代	
15号土坑	28-16	磁器	碗	(7.0)	-	[3.6]	ロクロナデ	ロクロナデ		乳白色	蜜		良	25/-	瀬戸・美濃	近代	
15号土坑	28-17	磁器	碗	-	-	[2.9]	ロクロナデ	ロクロナデ		乳白色	蜜	黒色粒子	良	10/-	肥前	19C	染付け　手書き
15号土坑	28-18	磁器	皿	(26.0)	高台径22.4	[2.5]	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	乳白色	蜜		良	10/10	瀬戸・美濃	近代	染付け　手書き
15号土坑	28-19	磁器	碗	(10.0)	高台径2.8	[4.6]	ロクロナデ	ロクロナデ		乳白色	蜜		良	20/-	瀬戸・美濃	近代	
16号土坑	28-20	磁器	坏	(4.8)	高台径(2.0)	3.0	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	乳白色	蜜		良	20/20	九谷	近代	染料-赤褐(2.5YR4/6)　内面-更に金をかけている 底部(谷)
18号土坑	28-21	磁器	碗	(8.8)	高台径3.4	5.0	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	乳白色	蜜		良	50/50	肥前	18C	
19号土坑	28-22	陶器	チリレンゲ	-	-	-				灰白(2.5Y8/2) 釉-緑色(2.5G5/10)	蜜		良	-	淡路焼	近代	
23号土坑	28-23	瓦質	火鉢	-	-	-	ナデ			にぶい橙(7.5YR6/4)	蜜	白・赤・黒色粒子、雲母	良	-			把手
93号ピット	28-24	土器	焙烙	-	(16.0)	[1.5]	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ	褐(10YR4/6)	蜜	白・黒・赤色粒子、雲母	良	5/-			
93号ピット	28-25	陶器	碗	(7.0)	-	[3.8]	ロクロナデ	ロクロナデ		灰黄(2.5Y7/2)	やや粗		良	20/-	瀬戸・美濃	17C	貫入あり
93号ピット	29-1	磁器	碗	6.9	高台径3.4	5.7	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	乳白色	蜜		良	80/80	肥前	19C	
93号ピット	29-2	磁器	碗	7.0	3.3	5.3	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	乳白色	蜜		良	95/95	肥前	19C	染付け　手書き
114号ピット	29-3	磁器	碗	(6.4)	-	[5.5]	ロクロナデ	ロクロナデ		乳白色	蜜	黒色粒子	良	25/-	瀬戸・美濃	近代	
3号溝	29-4	土師器	坏	-	(6.0)	[0.7]	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	にぶい橙(7.5YR6/4)	蜜	赤・黒色粒子	良	5/-			
7号溝	29-5	陶器	碗	-	高台径(5.0)	[1.6]	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	灰白(2.5Y8/2) 釉-黒褐(2.5Y3/2)	やや粗	黒色粒子	ややあまい	40/-	瀬戸・美濃	17C？	鉄釉
10号溝	29-6	土器	焙烙	(23.8)	(23.0)	4.3	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ	にぶい褐(7.5YR5/3)	やや蜜	白・黒色粒子、雲母	良	10/-			
11号溝	29-7	陶器	碗	(8.0)	-	[2.5]	ロクロナデ	ロクロナデ		灰白(2.5Y7/1) 釉-にぶい黄(2.5Y6/4)	蜜		良	10/-	瀬戸・美濃	18C	灰釉
12号溝	29-8	土師器	坏	(11.0)	-	[2.4]	ロクロナデ	ロクロナデ		橙(7.5YR6/6)	蜜	白・赤色粒子	良	5/-			
12号溝	29-9	土師器	坏	(9.0)	-	[1.1]	ロクロナデ	ロクロナデ		明黄褐(10YR7/6)	蜜	黒色粒子	良	10/-			
12号溝	29-10	土師器	坏	-	(6.0)	[0.8]	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	明黄褐(10YR7/6)	蜜	赤色粒子	良	5/-			
12号溝	29-11	土師器	坏	-	(7.0)	[1.4]	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	橙(7.5YR6/6)	蜜	赤・黒・白色粒子	良	20/-			
12号溝	29-12	土師器	坏	-	6.0	[0.9]	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	明褐(7.5YR5/6)	蜜	白・黒色粒子	良	40/-			
12号溝	29-13	土師器	坏？	-	(6.0)	[1.3]	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	明褐(7.5YR5/6)	蜜	赤・白・黒色粒子	良	10/-			
12号溝	29-14	土師器	皿	(11.0)	-	[2.2]	ロクロナデ	ロクロナデ		橙(7.5YR6/6)	蜜	黒・白色粒子、雲母	良	20/-			スス痕
12号溝	29-15	土師器	壺	(15.0)	-	[1.5]	ロクロナデ	ロクロナデ		橙(7.5YR6/6)	蜜	白・赤・黒色粒子	良	10/-			
12号溝	29-16	土器	焙烙	(30.0)	-	[4.8]	ロクロナデ	ロクロナデ		にぶい黄橙(10YR6/4)	やや蜜	白・黒色粒子、雲母	良	5/-			
12号溝	29-17	瓦質	火鉢？	-	-	[5.4]	ロクロナデ	ロクロナデ		にぶい褐(7.5YR5/4)	蜜	白・黒・赤色粒子、雲母	良	10/-			
12号溝	29-18	土器	擂鉢	(15.0)	-	[5.0]	ロクロナデ、 櫛歯	ロクロナデ		にぶい黄橙(10YR6/4)	蜜	白・赤・黒色粒子、雲母	良	5/-			
12号溝	29-19	磁器	碗	-	高台径[4.0]	[2.6]	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	乳白色	蜜		良	10/-	瀬戸・美濃	近代	染付　印判
13号溝	29-20	陶器	碗	-	-	[2.0]	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	にぶい黄橙(10YR7/3) 釉-灰黄褐(10YR4/2)	蜜	白色粒子	良	-	瀬戸・美濃	16C	天目茶碗
14号溝	29-21	土師器	坏	-	(6.0)	[1.3]	ロクロナデ	ロクロナデ	鮮明でない	橙(7.5YR6/6)	蜜	赤・白色粒子	良	5/-			
14号溝	29-22	陶器	徳利	-	高台径6.7	[5.9]	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ、 回転糸切り	灰白(2.5Y7/1)	蜜		良	50/-	瀬戸・美濃	18C	全体に釉がうすくかかっている
15号溝	30-1	土器	内耳	(32.6)	(11.0)	[5.3]	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ	褐(10YR4/6)	蜜	白・黒・赤色粒子、雲母	良	40/40			
15号溝	30-2	土器	焙烙	(23.6)	(20.0)	6.2	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ	にぶい褐(7.5YR5/4)	蜜	白・黒色粒子、雲母	良	10/-			
15号溝	30-3	土器	焙烙	(24.0)	-	[3.9]	ロクロナデ	ロクロナデ		にぶい黄橙(10YR7/4)	蜜	白・黒色粒子、雲母	良	10/-			
15号溝	30-4	土器	焙烙	(20.0)	-	[5.6]	ロクロナデ	ロクロナデ		にぶい黄橙(10YR5/4)	蜜	白・赤・黒色粒子、雲母	良	10/-			
15号溝	30-5	土器	焙烙	(19.0)	-	[6.4]	ロクロナデ	ロクロナデ		にぶい黄褐(10YR5/4)	蜜	白・黒色粒子、雲母	良	10/-			
15号溝	30-6	陶器	碗	(10.8)	-	[6.4]	ロクロナデ	ロクロナデ		浅黄(2.5Y8/3) 釉-黄褐(2.5Y5/6)	蜜	黒色粒子	良	10/-	瀬戸・美濃	18C	灰釉
15号溝	30-7	陶器	碗	(10.8)	-	[4.8]	ロクロナデ	ロクロナデ		にぶい黄(2.5Y6/3)	蜜		良	25/-	肥前	17C	貫入あり　灰釉
15号溝	30-8	陶器	碗	-	高台径(5.0)	[3.7]	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	浅黄(2.5Y7/3) 釉-灰黄(2.5Y6/2)	蜜	黒色粒子	良	30/-	肥前	17C	貫入あり
15号溝	30-9	陶器	碗	-	高台径(4.8)	[1.8]	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	にぶい黄(2.5Y6/3) 釉-オリーブ褐	蜜		良	80/-	瀬戸・美濃	18C	トチンあり

遺構名	図版番号	種類	器形	法量(cm)			整形			色調	胎土	含有物	焼成	残存率	産地	時代	備考
				口径	底径	器高	内面	外面	底部								
15号溝	30-10	陶器	碗	-	高台径4.3	[2.0]	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	灰白(2.5Y8/2) 釉-灰白(5Y8/2)	蜜		良	60/-	瀬戸・美濃	18C	灰釉　内面-貫入あり　付高台
15号溝	30-11	陶器	碗	-	高台径(5.0)	[3.2]	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	灰(10Y6/1)	蜜		良	40/-	肥前	18C	貫入あり
15号溝	30-12	陶器	碗	-	高台径4.4	[2.1]	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	灰黄(2.5Y7/2) 釉-にぶい黄橙	蜜	黒色粒子	良	90/-	肥前	17C	貫入
15号溝	30-13	磁器	碗	(6.8)	-	[4.8]	ロクロナデ	ロクロナデ		乳白色	蜜		良	20/-	肥前	18C後半	染付け　手書き
15号溝	30-14	磁器	皿	(9.8)	高台径6.2	1.9	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	乳白色	蜜		良	40/40	肥前	18C後半	染付け　手書き
15号溝	30-15	磁器	碗	(7.8)	-	[4.7]	ロクロナデ	ロクロナデ		灰白(2.5Y8/1) 釉-灰白(7.5Y7/1)	蜜		良	40/-	京・信楽	18C後半	貫入あり　灰釉
15号溝	30-16	磁器	瓶	-	高台径4.2	[4.0]	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	乳白色	蜜		良	60/-	肥前	18C	
道路状遺構	30-17	土師器	坏	-	(7.0)	[1.1]	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	にぶい橙(7.5YR7/4)	蜜	赤・白色粒子、雲母	良	25/-			
道路状遺構	30-18	土器	皿	(7.0)	(4.0)	1.6	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	にぶい黄橙(10YR7/3)	蜜	黒・白色粒子、雲母	良	25/25			
道路状遺構	30-19	磁器	碗	(9.0)	-	[1.8]	ロクロナデ	ロクロナデ		乳白色	蜜		良	0.5/-	瀬戸・美濃	近代	染付け　手書き
道路状遺構	30-20	磁器	皿	-	高台径(7.0)	[2.0]	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	乳白色	蜜		良	10/-	肥前	19C	染付け　手書き　焼き継ぎ痕
2号不明	30-21	陶器	擂鉢	(19.0)	-	[3.2]	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	浅黄(2.5Y7/3) 釉-褐(7.5YR4/3)	やや蜜	黒色粒子	良	5/-	瀬戸・美濃	18C	
2号不明	30-22	磁器	碗	-	-	[2.5]	ロクロナデ	ロクロナデ		乳白色	蜜		良	20/-	肥前	18C	染付け　手書き
遺構外 21-383	30-23	縄文	深鉢	-	-	-	ナデ			にぶい褐(7.5YR5/4)	やや蜜	白・黒色粒子、雲母	良			五領ヶ台式	
遺構外 24-387	30-24	縄文	深鉢	-	-	-	ナデ			褐(7.5YR4/3)	やや蜜	白・黒色粒子、雲母	良			五領ヶ台式	
遺構外 67-274	31-1	土器	内耳	(23.6)	(22.4)	5.2	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ	にぶい黄褐(10YR5/4)	蜜	白・赤色粒子、雲母	良	10/10			
遺構外 67-286	31-2	瓦質	敷輪	(22.0)	(11.0)	5.5	ロクロナデ	ロクロナデ		にぶい褐(7.5YR5/4)	蜜	赤・黒・白色粒子、雲母	良	5/-			
遺構外 47-345	31-3	瓦質	鉢	-	(12.0)	[2.7]	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	灰黄(2.5Y6/2)	蜜	白色粒子	良	10/-			
遺構外 66-283	31-4	瓦質	五徳か？	-	(16.0)	[10.2]	ロクロナデ	ロクロナデ、 指ナデ		橙(7.5YR6/6)	蜜	白・黒色粒子、雲母	良	40/-			指頭圧痕
遺構外 76-247	31-5	陶器	擂鉢	-	-	-	櫛歯痕	ロクロナデ		にぶい赤褐(2.5YR5/4)	蜜	白色粒子	良				
遺構外 61-278	31-6	陶器	碗	(11.0)	-	[4.2]	ロクロナデ	ロクロナデ			蜜		良	5/-	瀬戸・美濃	17C？	鉄釉
遺構外 75-245	31-7	陶器	擂鉢	(26.0)	-	[3.8]	ロクロナデ	ロクロナデ		浅黄(2.5Y7/3) 釉-暗褐(7.5YR3/4)	蜜		良	5/-	瀬戸・美濃	19C	
遺構外 69-279	31-8	磁器	碗	10.8	3.4	4.6	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	乳白色	蜜		良	70/70	瀬戸・美濃	近代	染付け　印判
遺構外 80-242	31-9	磁器	碗	10.9	高台径3.6	5.8	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	乳白色	蜜	黒色粒子	良	50/50	瀬戸・美濃	近代	染付け　印判（摺絵）
遺構外　2区	31-10	磁器	碗	(6.0)	-	[3.6]	ロクロナデ	ロクロナデ		乳白色	蜜		良	15/-	瀬戸・美濃	近代	染付け　手書き
遺構外 57-282	31-11	陶器	土瓶	(13.4)	10.5	4.2	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	にぶい黄橙(10YR7/3) 釉-灰白(2.5Y8/2)	蜜		良	70/70	益子	近代	蓋
遺構外 38-381	31-12	磁器	碗	(9.6)	高台径(3.0)	4.6	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	乳白色	蜜		良	10/-	肥前	18C	染付け　手書き
遺構外 80-242	31-13	磁器	碗	(8.0)	高台径(3.6)	4.6	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	乳白色	蜜	黒色粒子	良	50/50	瀬戸・美濃	近代	印判
遺構外 74-244	31-14	磁器	碗	(8.0)	高台径5.2	4.6	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	乳白色	蜜	黒色粒子	良	50/50	瀬戸・美濃	近代	硅砂敷　染付け　印判
遺構外 74-253	31-15	磁器	碗	(9.0)	高台径(3.4)	4.7	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	乳白色	蜜	黒色粒子	良	30/30	瀬戸・美濃	19C	染付け　手書き　焼き継ぎ
遺構外 67-254	31-16	磁器	碗	(11.0)	-	[3.4]	ロクロナデ	ロクロナデ		乳白色	蜜		良	10/-	瀬戸・美濃	近代	印判
遺構外 67-286	31-17	磁器	碗	(11.0)	-	[3.3]	ロクロナデ	ロクロナデ		乳白色	蜜		良	10/-	瀬戸・美濃	近代	印判
遺構外 45-364	31-18	磁器	碗	-	(6.0)	[2.3]	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	乳白色	蜜		良	5/-	瀬戸・美濃	19C	染付け　手書き
遺構外 41-361	31-19	磁器	碗	(7.0)	-	[3.5]	ロクロナデ	ロクロナデ		乳白色	蜜		良	10/-	肥前	19C	
遺構外 74-243	31-20	磁器	碗	(6.0)	-	[4.5]	ロクロナデ	ロクロナデ		乳白色	蜜		良	25/-	瀬戸・美濃	近代	染付け　手書き
遺構外 42-350	31-21	磁器	碗	-	-	[2.7]	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	灰白(10Y7/1)	蜜		良	10/-	肥前	19C	染付け　手書き
遺構外 59-276 67-285	31-22	磁器	皿	(16.0)	(7.0)	(3.5)	ナデ	ナデ	格目痕	灰白(2.5Y8/1) 釉-緑灰(10BG6/1)	蜜		良	20/-	瀬戸・美濃	近代	
遺構外 58-287	31-23	磁器	碍子	-	高台径(6.0)	2.5	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	乳白色	蜜		良	25/25	瀬戸・美濃	近代	
遺構外 67-283	31-24	陶器	鉢	(27.0)	-	[6.7]	ロクロナデ	ロクロナデ		にぶい褐(7.5YR5/4) 釉-褐灰(7.5YR6/1)	蜜		良	20/-	肥前	18C	
遺構外 78-245	31-25	磁器	皿	(16.0)	(8.0)	2.5	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	乳白色(断面)	蜜		良	20/20	瀬戸・美濃	近代	
遺構外 77-250	31-26	磁器	鉢	-	高台径(9.0)	[2.9]	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	乳白色	蜜		良	40/-	肥前	19C	焼き継ぎあり
遺構外 72-241	31-27	磁器	段重	(16.0)	(6.2)	6.6	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	乳白色	蜜		良	10/10	肥前	近代	染付け　手書き　印判
遺構外 46-359	31-28	磁器	色絵瓶	-	-	[3.3]	ロクロナデ	ロクロナデ		乳白色	蜜		ややあまい	5/-	肥前	17C	
遺構外 43-351	31-29	磁器	徳利	-	-	[4.2]	ロクロナデ	ロクロナデ		乳白色	蜜		良	10/-	瀬戸・美濃	近代	胴部（亀屋）
遺構外 77-250	31-30	磁器	仏飯器	-	高台径4.4	[3.9]	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	乳白色	蜜	黒色粒子	良	80/-	瀬戸・美濃	19C	
遺構外 69-279	31-31	磁器	急須	-	(6.2)	[2.2]	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	乳白色	蜜		良	40/-	瀬戸・美濃	近代	染付け　手書き

第４表　出土遺物観察表（金属製品）

法量（　　）は復元実測値、［　　］は現存値である。

遺構名	図版番号	種別	法量			重量（ｇ）	備考
			長さ・径(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		
２号掘立	32-１	鉄釘	[6.7]	0.4	0.4	[4.5]	
２号掘立	32-２	鉄釘	[5.1]	0.4	0.4	[2.3]	
２号掘立	32-３	棒状鉄製品	[2.9]	0.4	0.4	[1.7]	
２号掘立	32-４	棒状鉄製品	[2.1]	0.2	0.2	[0.3]	
２号掘立	32-５	不明銅製品	1.6	4.1	3	5.4	
13号土坑	32-６	板状鉄製品	4.4	5.4	−	40.8	
13号土坑	32-７	フォーク	18	0.5	2	21.7	
13号土坑	32-８	環状鉄製品	3.5	0.5	1.0	20.4	
13号土坑	32-９	棒状鉄製品	[7.6]	0.5	0.5	[5.1]	
15号土坑	32-10	板状鉄製品	[4.6]	1.4	0.2	[7.4]	
16号土坑	32-11	棒状鉄製品	[4.1]	0.4	0.4	[1.9]	
19号土坑	32-12	鉄釘	8.9	0.5	0.5	11.3	
19号土坑	32-13	鉄釘	7.7	0.4	0.4	4.8	
25号土坑	32-14	棒状鉄製品	[6.3]	0.6	0.6	[12.5]	
76号ピット	32-15	棒状鉄製品	[15]	0.5	0.5	[14.7]	
76号ピット	32-16	棒状鉄製品	[12.7]	0.5	0.5	[10.9]	
89号ピット	32-17	棒状鉄製品	5	1.2	1.2	31	
93号ピット	32-18	板状鉄製品	[5]	[3.6]	0.3	[15.5]	
93号ピット	32-19	環状鉄製品	3	3	1	8.7	
93号ピット	32-20	板状鉄製品	[3.3]	[1.8]	0.3	[4.3]	
93号ピット	32-21	板状鉄製品	[2.8]	[2]	0.3	[5.5]	
103号ピット	32-22	銅製飾り金具	1.5	1.5	0.3	0.3	
１号溝	32-23	鉄釘	[5.8]	0.3	0.3	[4.2]	
15号溝	32-24	鉄釘	[2.4]	0.5	0.5	[2.0]	
19号溝	32-25	鉄釘	[6.5]	0.5	0.5	[7.7]	
道路状遺構	32-26	板状鉄製品	[2.7]	[2.6]	1	[1.2]	
遺構外　69-280	32-27	釘状鉄製品	[6.2]	0.5	0.5	[12.7]	
遺構外　45-345	32-28	棒状鉄製品	[6.1]	0.7	0.7	[13.4]	
遺構外　46-345	32-29	棒状鉄製品	[4.8]	0.5	0.5	[5.3]	
遺構外　47-345	32-30	棒状鉄製品	[4.8]	0.3	0.3	[2.8]	
遺構外　47-343	32-31	棒状鉄製品	[4]	0.8	0.8	[9.0]	
遺構外　74-249	32-32	棒状鉄製品	[24.5]	1.3	8	[100.0]	
遺構外　77-247	32-33	円盤状鉄製品	6.1	6.1	1.3	75.8	
13号土坑	33-１	銅銭	0.8	0.8	0.2	2.7	
13号土坑	33-２	円盤状銅製品	(3.6)	(3.6)	0.2	[2.9]	
遺構外　74-241	33-３	銅銭	2.3	2.3	0.2	4.1	五十銭
遺構外　73-245	33-４	銅銭	2.3	2.3	0.1	4.4	光緒元寶
遺構外　46-345	33-５	金銅製メダル	2	2	0.3	5.3	

第５表　出土遺物観察表（ガラス製品）

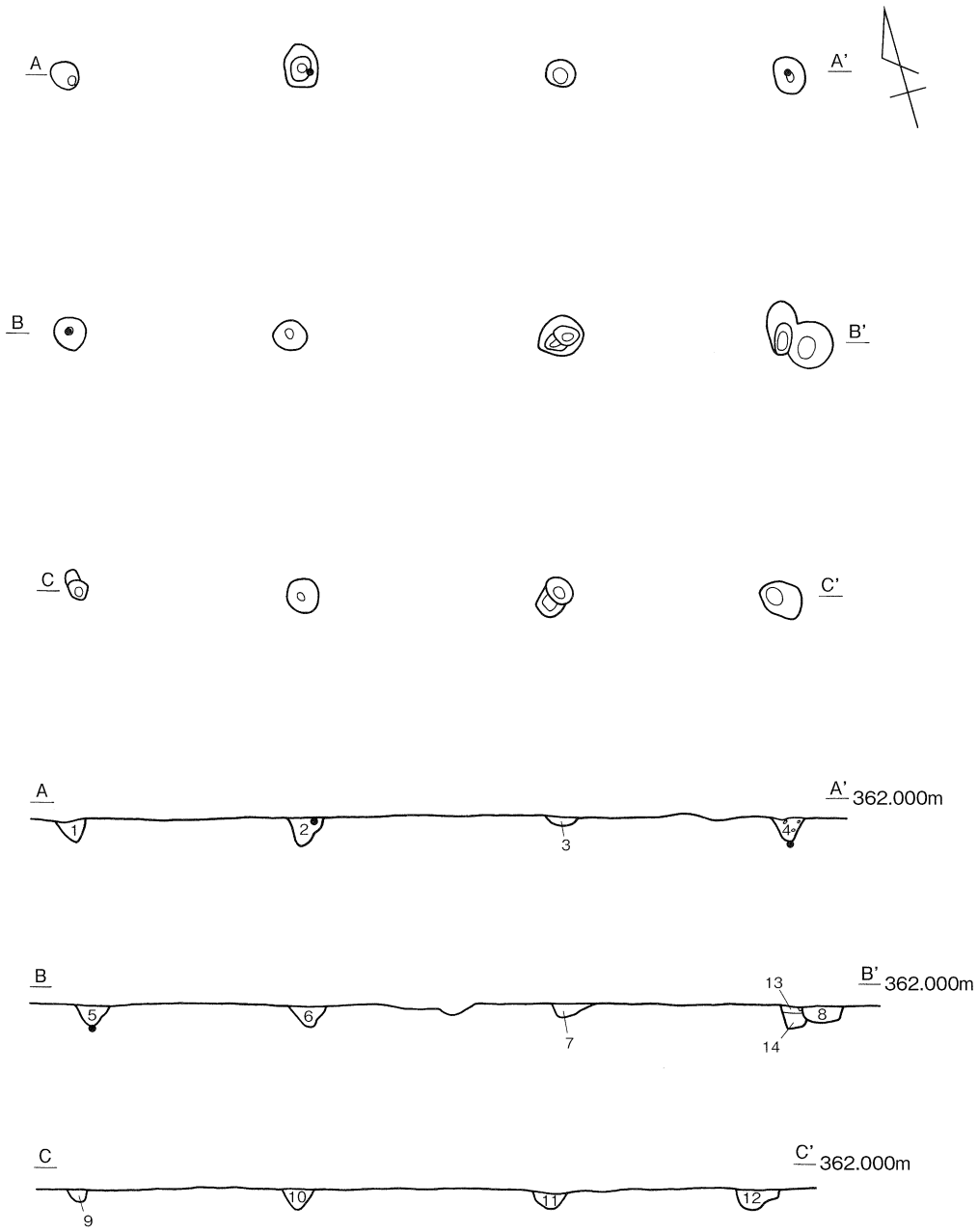
法量（　　）は復元実測値、［　　］は現存値である。

遺構名	図版番号	種別	法　量(cm)				整形	重量（ｇ）	色調	備考
			口径・直径	器高	底径	厚さ				
15号土坑	33-6	瓶	1.8	5.6	3.2		吹型成形	34.0	無色透明	
遺構外 78-248	33-7	瓶	1.3	5.0	1.9		吹型成形	10.4	ブルシャンブルー	胴部（ニチヲ、歯薬、喜香堂）
遺構外 75-252	33-8	おはじき	長2.0短1.8			0.27	押型成形	1.5	山鳩色	
115号ピット	33-9	おはじき	長1.8短1.7			0.41	押型成形	2.3	山葵色	

第６表　出土遺物観察表（石製品）

法量（　　）は復元実測値、［　　］は現存値である。

遺構名	図版番号	種別	材質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(ｇ)	備考
２号掘立	33-10	碁石	粘板岩	2.2	2.2	0.6	4.0	
117号ピット	33-11	水晶	水晶	[4.4]	2.2		[38.2]	
遺構外 49-344	33-12	石筆	ろう石	[3.8]	0.9		[5.0]	灰白(2.5Y8/2)
４区表採	33-13	石臼	輝石安山岩	[15.7]	[20.1]	8.5	[5200]	灰(N4/0)

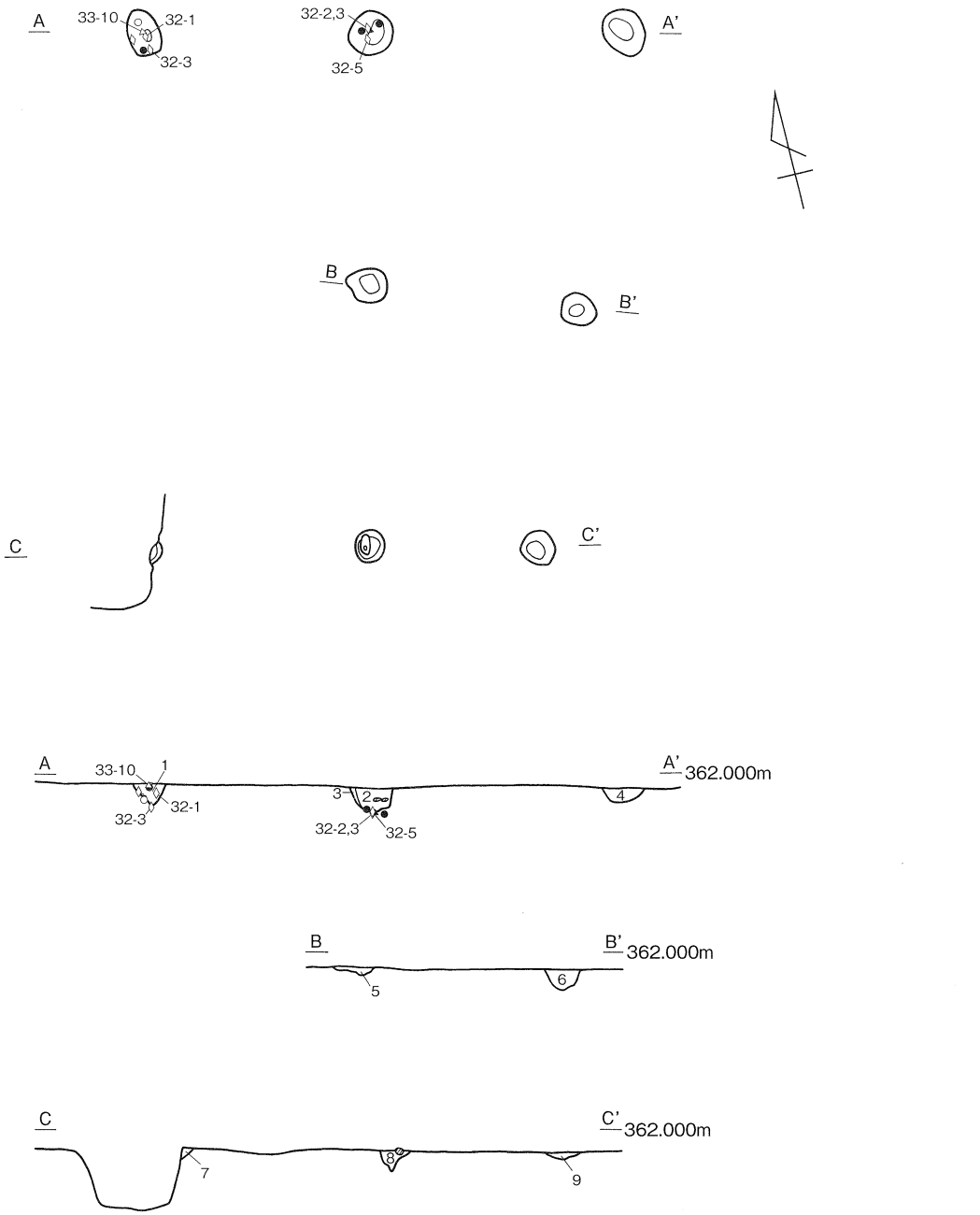


1号掘立柱穴

1層　暗褐色土層(10YR3/4)　多量のカーボン、褐色土ブロックを含む5～2mm大の礫を含む
2層　暗褐色土層(10YR3/3)　少量のカーボン、白色粒子および5mm大の小礫を多量に含む
3層　黒褐色土層(10YR2/3)　カーボン、5mm大の礫を多量に含む
4層　黒褐色土層(10YR2/3)　カーボンをわずかに、5～2cm大の礫を多量に含む
5層　黒褐色土層(10YR2/3)　多くのカーボンおよび白色粒子、褐色土ブロックを多く含む
6層　黒褐色土層(10YR2/3)　少量のカーボン、多くの褐色土ブロックを含む
7層　暗褐色土層(10YR3/4)　少量のカーボン、赤褐色粒子および多量の褐色土ブロックを含む
8層　黒褐色土層(10YR2/3)　多量のカーボン、褐色土ブロックを含む
9層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)　多くのカーボン、5mm大の小礫を含む
10層　黒褐色土層(10YR2/3)　多量のカーボン、褐色土ブロックを含む
11層　暗褐色土層(10YR3/4)　多量のカーボンを含む
12層　黒褐色土層(10YR2/3)　少量のカーボンおよび多量の褐色土ブロックを含む
13層　黒褐色土層(10YR2/3)　少量のカーボン、赤褐色粒子を含む
14層　黒褐色土層(10YR2/2)　褐色土ブロックを多く含む　しまりはない

0　(1:60)　2m

第８図　１号掘立柱建物平面図

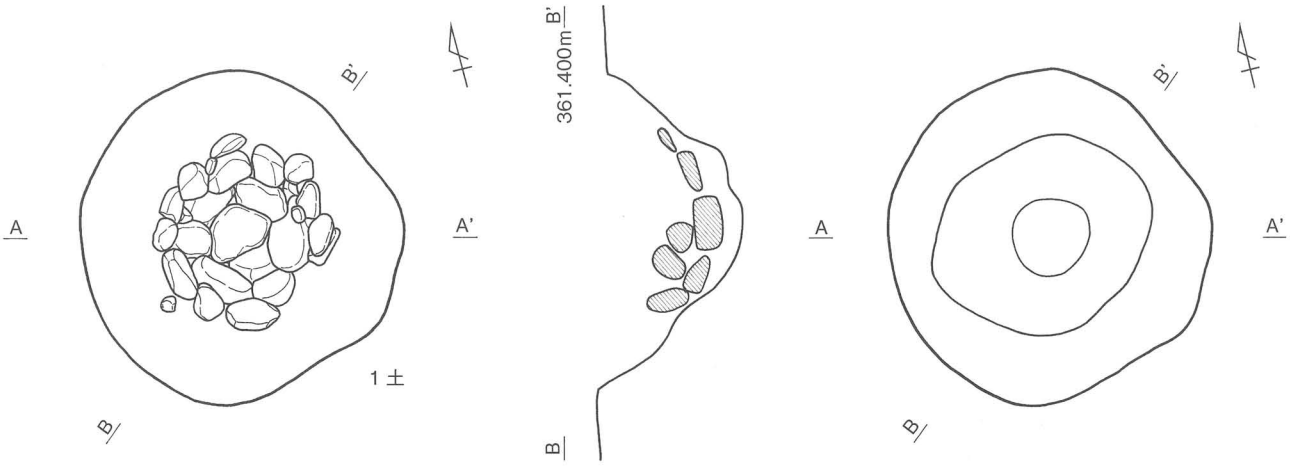


2号掘立柱穴

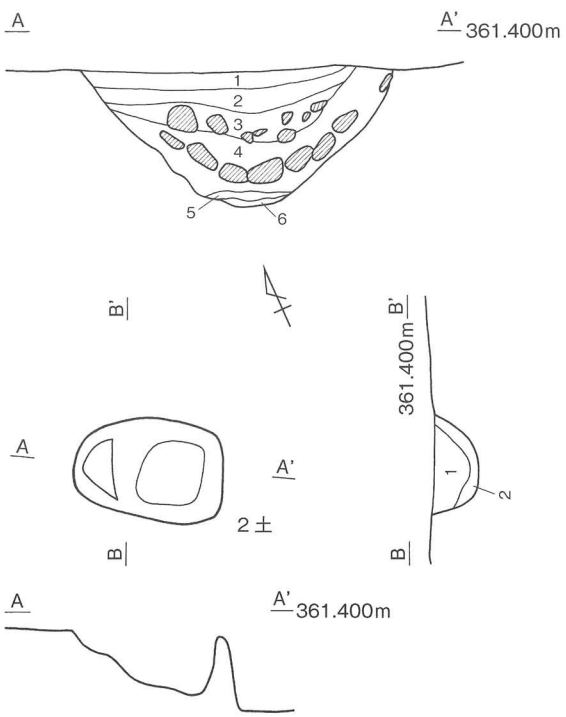
1層　暗褐色土層(10YR3/4)　多量のカーボンを含む
2層　暗褐色土層(10YR3/4)　白色粒子をわずかに含む
3層　黒褐色土層(10YR2/3)　少量のカーボンおよび拳大の礫を含む
4層　暗褐色土層(7.5YR3/3)　少量のカーボン、赤褐色粒子を含む
5層　暗褐色土層(7.5YR3/4)　多量のカーボン、焼土ブロックを含む
6層　黒褐色土層(10YR2/3)　少量のカーボン、褐色土ブロックを含む
7層　黒褐色土層(10YR2/3)　多量のカーボン、白色粒子を含む
8層　黒褐色土層(10YR2/3)　多量のカーボン、5mm大の小礫を少量含む
9層　暗褐色土層(10YR3/4)　少量のカーボン、赤褐色粒子を含む

0　(1:60)　2m

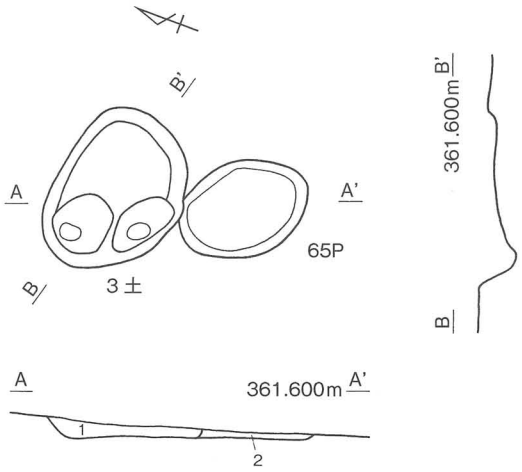
第９図　２号掘立柱建物平面図



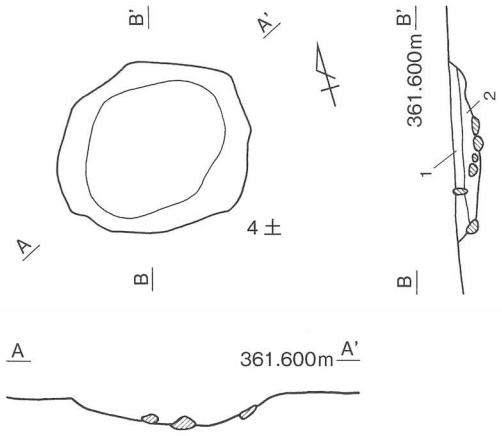
1号土坑
1層　暗褐色土層(7.5YR3/4)　少量のカーボン、褐色土小ブロックを含む
2層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)　多くのカーボン、褐色土小ブロックを含む
3層　黒褐色土層(7.5YR2/2)　10～5cm大の礫を多量に、褐色土ブロックを少量含む
4層　黒色土層(7.5YR1.7/1)　カーボンを多量に含む



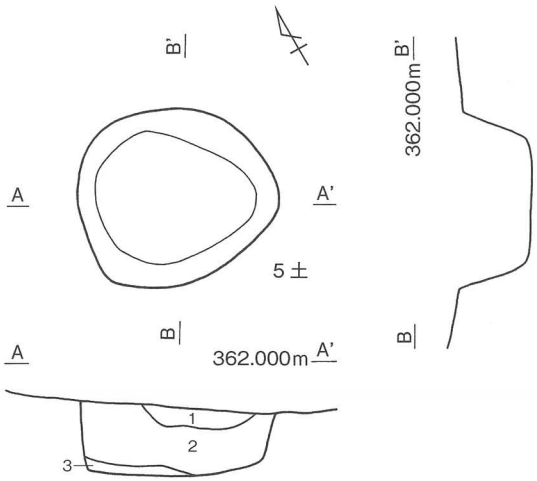
2号土坑
1層　黒褐色土層(10YR2/3)　赤褐色粒子、白色粒子を多く含む
2層　暗褐色土層(7.5YR3/4)　白色粒子をわずかに含む



3号土坑
1層　暗褐色土層(7.5YR3/4)　わずかなカーボン、5mm大の小礫、赤褐色粒子を含む
65号ピット
1層　暗褐色土層(7.5YR3/3)　褐色土ブロック、白色粒子を多く含む



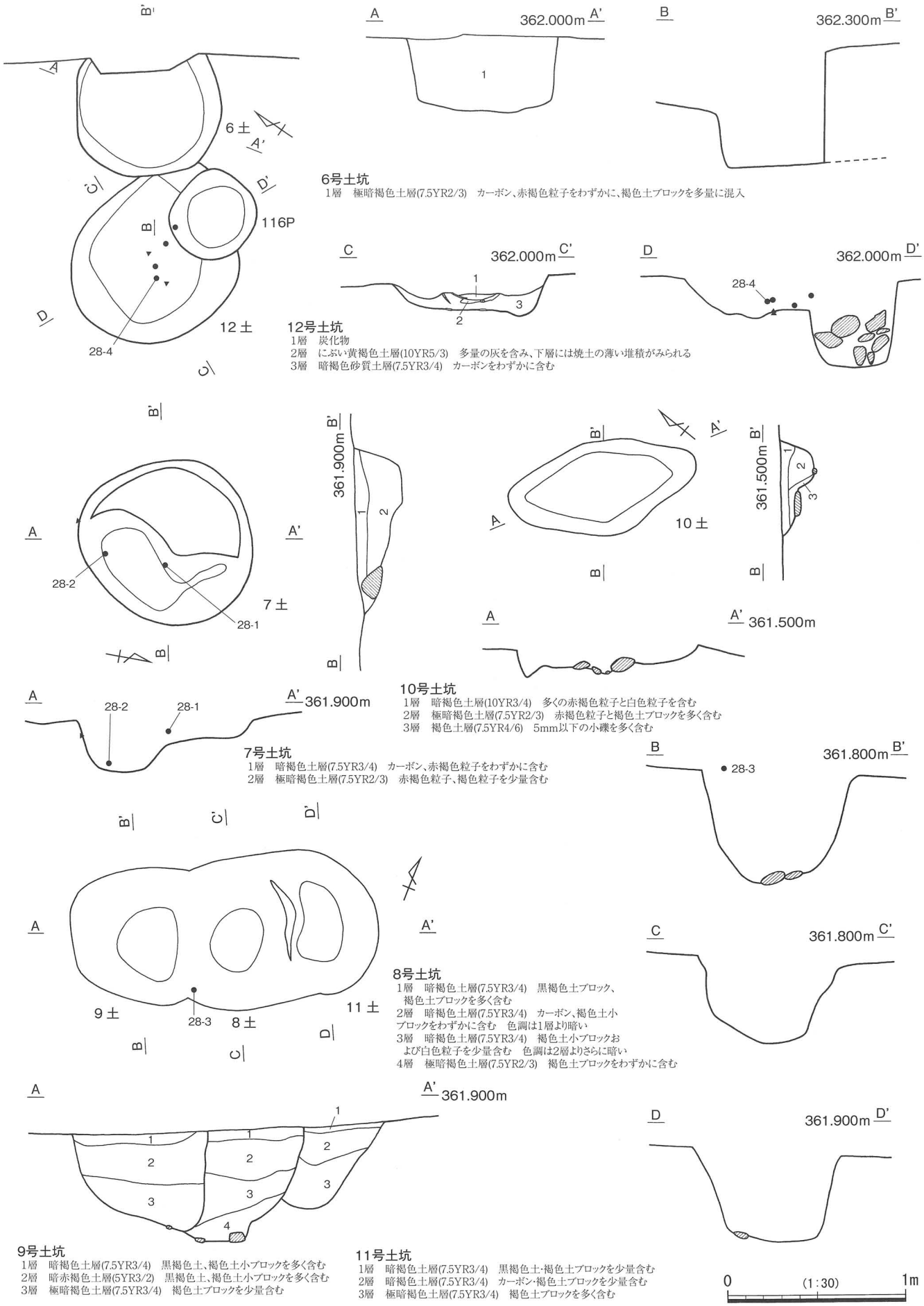
4号土坑
1層　暗褐色土層(7.5YR3/4)　多量の炭化物、5mm以下の小礫を含む
2層　褐色土層(7.5YR4/6)　5～2cm大の礫を多く含む



5号土坑
1層　黒褐色土層(7.5YR2/2)　少量のカーボン、黄褐色粒子を含む
2層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)　赤褐色粒子を多く含む　粘質土
3層　黒褐色土層(7.5YR3/2)　金色雲母を多量に含む

0　(1:30)　1m

第10図　土坑平面図(1)



6号土坑
1層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)　カーボン、赤褐色粒子をわずかに、褐色土ブロックを多量に混入

12号土坑
1層　炭化物
2層　にぶい黄褐色土層(10YR5/3)　多量の灰を含み、下層には焼土の薄い堆積がみられる
3層　暗褐色砂質土層(7.5YR3/4)　カーボンをわずかに含む

10号土坑
1層　暗褐色土層(10YR3/4)　多くの赤褐色粒子と白色粒子を含む
2層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)　赤褐色粒子と褐色土ブロックを多く含む
3層　褐色土層(7.5YR4/6)　5mm以下の小礫を多く含む

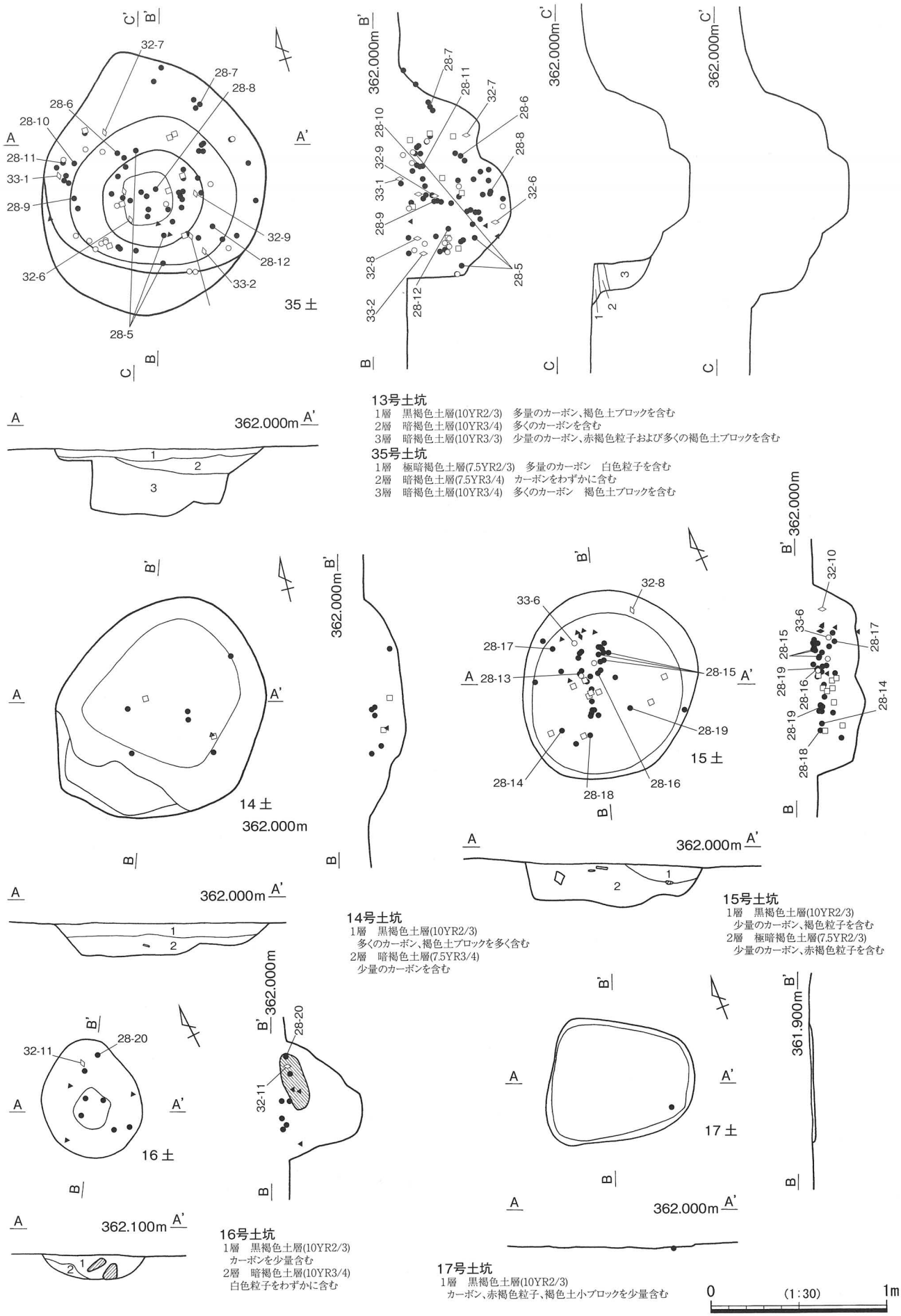
7号土坑
1層　暗褐色土層(7.5YR3/4)　カーボン、赤褐色粒子をわずかに含む
2層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)　赤褐色粒子、褐色粒子を少量含む

8号土坑
1層　暗褐色土層(7.5YR3/4)　黒褐色土ブロック、褐色土ブロックを多く含む
2層　暗褐色土層(7.5YR3/4)　カーボン、褐色土小ブロックをわずかに含む　色調は1層より暗い
3層　暗褐色土層(7.5YR3/4)　褐色土小ブロックおよび白色粒子を少量含む　色調は2層よりさらに暗い
4層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)　褐色土ブロックをわずかに含む

9号土坑
1層　暗褐色土層(7.5YR3/4)　黒褐色土、褐色土小ブロックを多く含む
2層　暗赤褐色土層(5YR3/2)　黒褐色土、褐色土小ブロックを多く含む
3層　極暗褐色土層(7.5YR3/4)　褐色土ブロックを少量含む

11号土坑
1層　暗褐色土層(7.5YR3/4)　黒褐色土・褐色土ブロックを少量含む
2層　暗褐色土層(7.5YR3/4)　カーボン・褐色土ブロックを少量含む
3層　極暗褐色土層(7.5YR3/4)　褐色土ブロックを多く含む

第11図　土坑平面図(2)



13号土坑
1層　黒褐色土層(10YR2/3)　多量のカーボン、褐色土ブロックを含む
2層　暗褐色土層(10YR3/4)　多くのカーボンを含む
3層　暗褐色土層(10YR3/3)　少量のカーボン、赤褐色粒子および多くの褐色土ブロックを含む

35号土坑
1層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)　多量のカーボン　白色粒子を含む
2層　暗褐色土層(7.5YR3/4)　カーボンをわずかに含む
3層　暗褐色土層(10YR3/4)　多くのカーボン　褐色土ブロックを含む

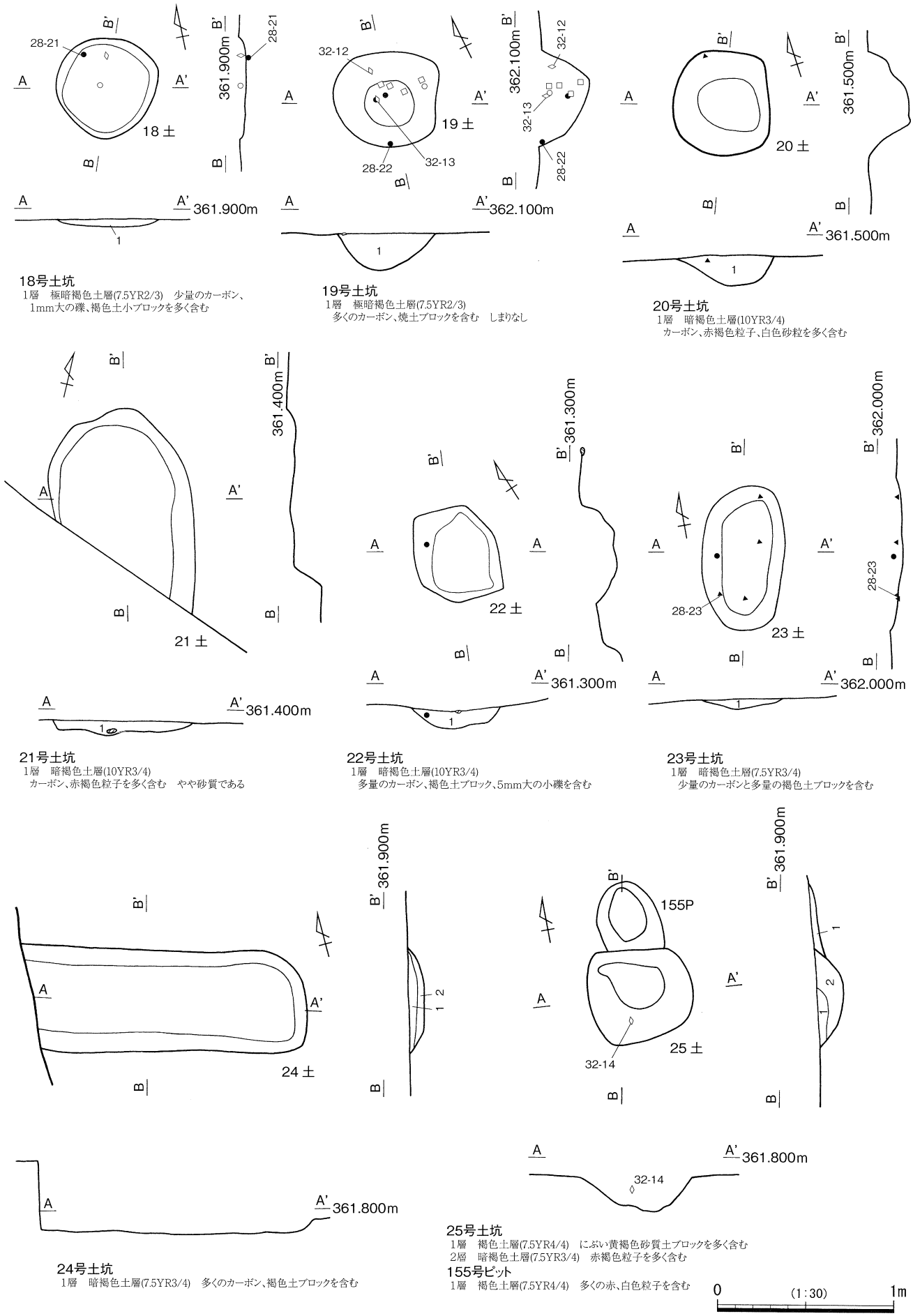
14号土坑
1層　黒褐色土層(10YR2/3)
多くのカーボン、褐色土ブロックを多く含む
2層　暗褐色土層(7.5YR3/4)
少量のカーボンを含む

15号土坑
1層　黒褐色土層(10YR2/3)
少量のカーボン、褐色粒子を含む
2層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)
少量のカーボン、赤褐色粒子を含む

16号土坑
1層　黒褐色土層(10YR2/3)
カーボンを少量含む
2層　暗褐色土層(10YR3/4)
白色粒子をわずかに含む

17号土坑
1層　黒褐色土層(10YR2/3)
カーボン、赤褐色粒子、褐色土小ブロックを少量含む

第12図　土坑平面図（3）



18号土坑
1層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)　少量のカーボン、1mm大の礫、褐色土小ブロックを多く含む

19号土坑
1層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)
多くのカーボン、焼土ブロックを含む　しまりなし

20号土坑
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
カーボン、赤褐色粒子、白色砂粒を多く含む

21号土坑
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
カーボン、赤褐色粒子を多く含む　やや砂質である

22号土坑
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
多量のカーボン、褐色土ブロック、5mm大の小礫を含む

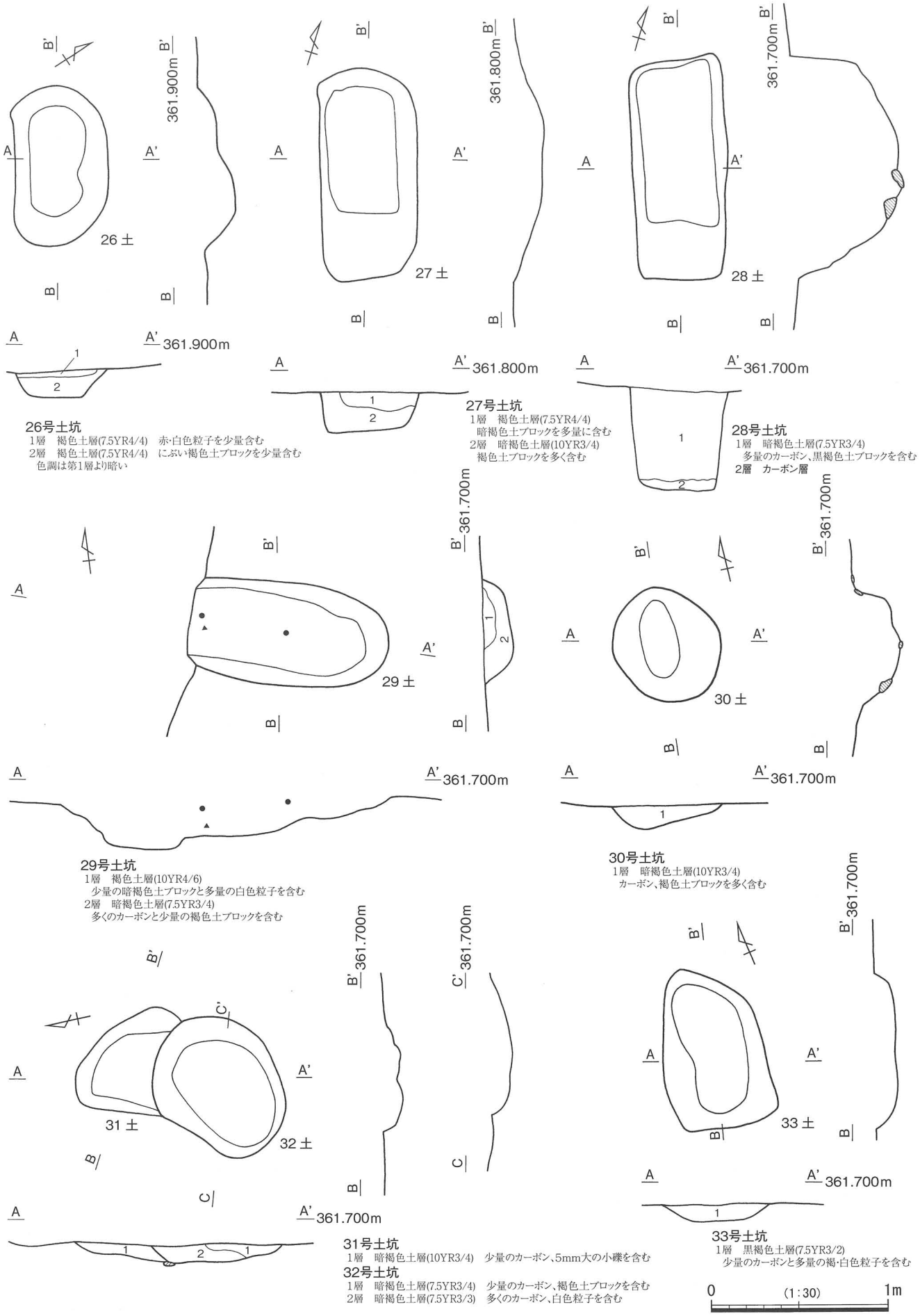
23号土坑
1層　暗褐色土層(7.5YR3/4)
少量のカーボンと多量の褐色土ブロックを含む

24号土坑
1層　暗褐色土層(7.5YR3/4)　多くのカーボン、褐色土ブロックを含む

25号土坑
1層　褐色土層(7.5YR4/4)　にぶい黄褐色砂質土ブロックを多く含む
2層　暗褐色土層(7.5YR3/4)　赤褐色粒子を多く含む

155号ピット
1層　褐色土層(7.5YR4/4)　多くの赤、白色粒子を含む

第13図　土坑平面図（4）



26号土坑
1層　褐色土層(7.5YR4/4)　赤･白色粒子を少量含む
2層　褐色土層(7.5YR4/4)　にぶい褐色土ブロックを少量含む
色調は第1層より暗い

27号土坑
1層　褐色土層(7.5YR4/4)
暗褐色土ブロックを多量に含む
2層　暗褐色土層(10YR3/4)
褐色土ブロックを多く含む

28号土坑
1層　暗褐色土層(7.5YR3/4)
多量のカーボン、黒褐色土ブロックを含む
2層　カーボン層

29号土坑
1層　褐色土層(10YR4/6)
少量の暗褐色土ブロックと多量の白色粒子を含む
2層　暗褐色土層(7.5YR3/4)
多くのカーボンと少量の褐色土ブロックを含む

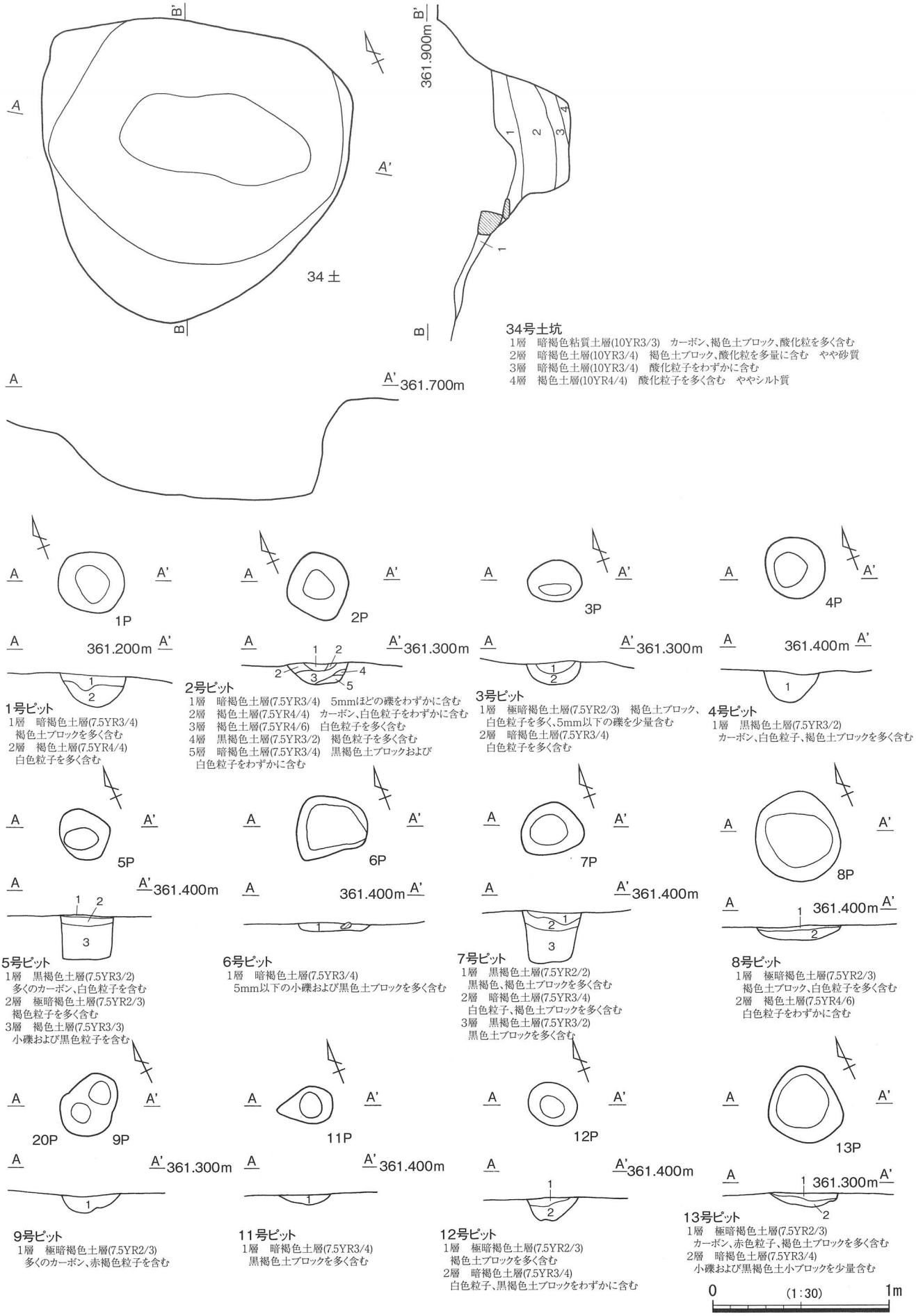
30号土坑
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
カーボン、褐色土ブロックを多く含む

31号土坑
1層　暗褐色土層(10YR3/4)　少量のカーボン、5mm大の小礫を含む

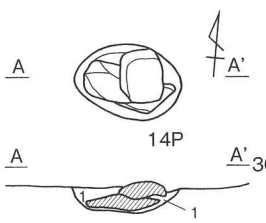
32号土坑
1層　暗褐色土層(7.5YR3/4)　少量のカーボン、褐色土ブロックを含む
2層　暗褐色土層(7.5YR3/3)　多くのカーボン、白色粒子を含む

33号土坑
1層　黒褐色土層(7.5YR3/2)
少量のカーボンと多量の褐･白色粒子を含む

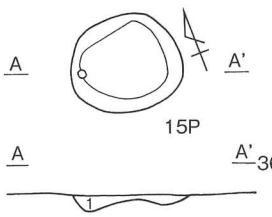
第14図　土坑平面図(5)



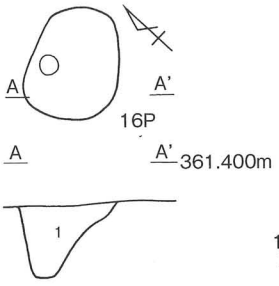
第15図　土坑平面図(6)・ピット平面図(1)



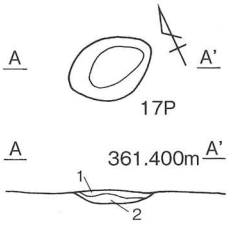
14号ピット
1層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)
黒褐色土小ブロックおよび褐色土ブロックを少量含む



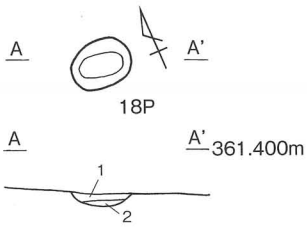
15号ピット
1層　暗褐色土層(7.5YR3/4)
黒褐色、褐色土ブロックを多く含む



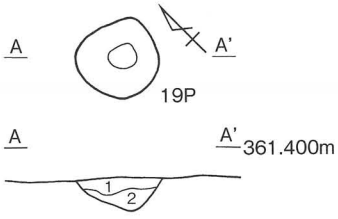
16号ピット
1層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)
褐色ロームブロックを多量に含む



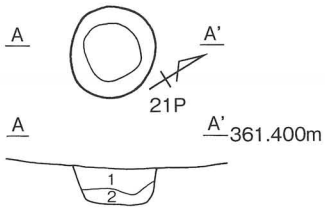
17号ピット
1層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)
黒褐色土小ブロック、褐色粒子を多く含む
2層　暗褐色土層(7.5YR3/4)
白色粒子をわずかに含む



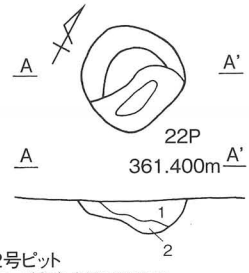
18号ピット
1層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)
黒褐色土小ブロック、褐色粒子を多く含む
2層　暗褐色土層(7.5YR3/4)
白色粒子をわずかに含む



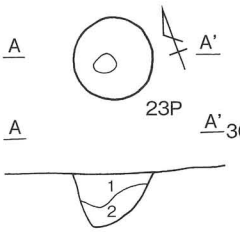
19号ピット
1層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)
黒褐色土小ブロック、褐色粒子を多く含む
2層　暗褐色土層(7.5YR3/4)
白色粒子をわずかに含む



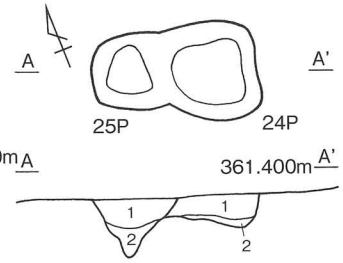
21号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
5mm大の礫、白色、赤褐色粒子を多く含む
2層　暗赤褐色土層(5YR3/6)
黒褐色土小ブロックをわずかに含む



22号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
5mm大の礫、白色、赤褐色粒子を多く含む
2層　暗赤褐色土層(5YR3/6)
黒褐色土小ブロックをわずかに含む

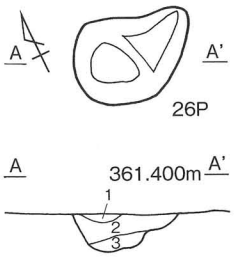


23号ピット
1層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)
2mm大の礫、黒色土小ブロックを多く含む
2層　暗褐色土層(7.5YR3/4)
黒褐色、褐色土小ブロックをわずかに含む

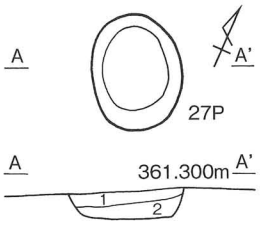


24号ピット
1層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)　少量のカーボンを含む
2層　暗褐色土層(7.5YR3/3)　白色粒子をわずかに含む

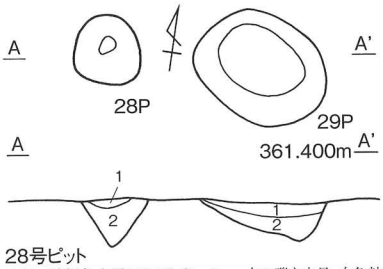
25号ピット
1層　暗褐色土層(7.5YR3/4)
1cm大の礫およびカーボンをわずかに含む



26号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
白色砂粒、褐色粒子を多く含む
2層　褐色土層(7.5YR4/6)
白色粒子を多量に含むわずかに含む
3層　暗褐色土層(7.5YR3/4)
黒色粒子をわずかに含む

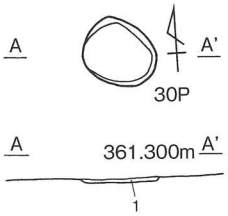


27号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/3)
白色粒子を多く含む
2層　褐色土層(7.5YR4/6)
5mm大の礫を少量含む

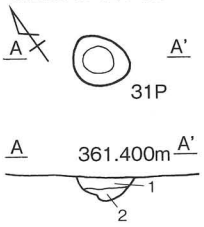


28号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/3)　5mm大の礫を少量、白色粒子を多量に含む
2層　暗褐色土層(7.5YR3/3)　黒褐色土小ブロックをわずかに含む

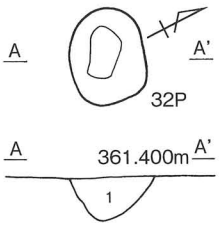
29号ピット
1層　暗褐色土層(7.5YR3/4)　黒色、褐色土小ブロックを多く含む
2層　褐色土層(7.5YR4/4)　明褐色土小ブロックをわずかに含む



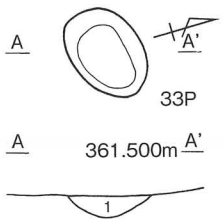
30号ピット
1層　暗褐色土層(7.5YR3/4)
黒色、赤褐色粒子をわずかに含む



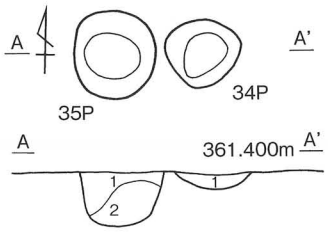
31号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
カーボン、白色粒子を含む
2層　暗褐色土層(7.5YR3/4)
白色粒子をわずかに含む



32号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
カーボン、白色粒子を含む

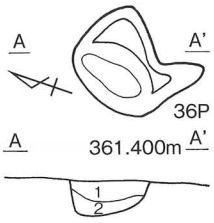


33号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
カーボン、白色粒子を含む

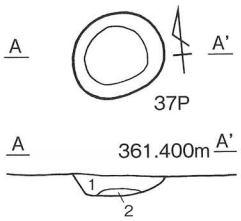


34号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)　カーボン、白色粒子を含む

35号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)　カーボン、白色粒子を含む
2層　暗褐色土層(7.5YR3/4)　白色粒子をわずかに含む



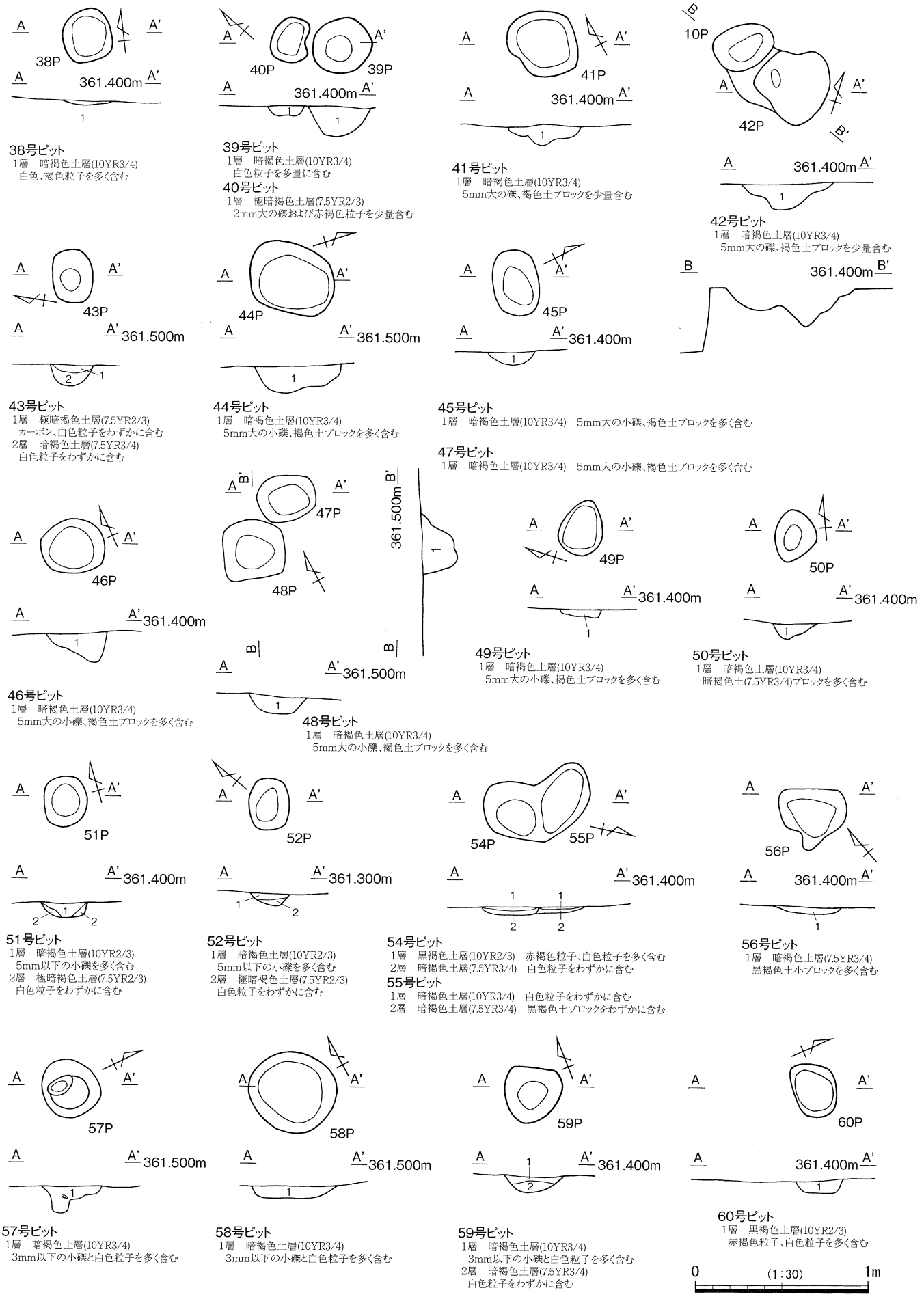
36号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
5mm大の礫、褐色土ブロックを少量含む
2層　暗褐色土層(7.5YR3/4)
黒褐色土小ブロックを少量含む



37号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
5mm大の礫、褐色土ブロックを少量含む
2層　暗褐色土層(7.5YR3/4)
黒褐色粒子を少量含む

0　(1:30)　1m

第16図　ピット平面図(2)



38号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
白色、褐色粒子を多く含む

39号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
白色粒子を多量に含む

40号ピット
1層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)
2mm大の礫および赤褐色粒子を少量含む

41号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
5mm大の礫、褐色土ブロックを少量含む

42号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
5mm大の礫、褐色土ブロックを少量含む

43号ピット
1層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)
カーボン、白色粒子をわずかに含む
2層　暗褐色土層(7.5YR3/4)
白色粒子をわずかに含む

44号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
5mm大の小礫、褐色土ブロックを多く含む

45号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)　5mm大の小礫、褐色土ブロックを多く含む

47号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)　5mm大の小礫、褐色土ブロックを多く含む

46号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
5mm大の小礫、褐色土ブロックを多く含む

48号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
5mm大の小礫、褐色土ブロックを多く含む

49号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
5mm大の小礫、褐色土ブロックを多く含む

50号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
暗褐色土(7.5YR3/4)ブロックを多く含む

51号ピット
1層　暗褐色土層(10YR2/3)
5mm以下の小礫を多く含む
2層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)
白色粒子をわずかに含む

52号ピット
1層　暗褐色土層(10YR2/3)
5mm以下の小礫を多く含む
2層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)
白色粒子をわずかに含む

54号ピット
1層　黒褐色土層(10YR2/3)　赤褐色粒子、白色粒子を多く含む
2層　暗褐色土層(7.5YR3/4)　白色粒子をわずかに含む

55号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)　白色粒子をわずかに含む
2層　暗褐色土層(7.5YR3/4)　黒褐色土ブロックをわずかに含む

56号ピット
1層　暗褐色土層(7.5YR3/4)
黒褐色土小ブロックを多く含む

57号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
3mm以下の小礫と白色粒子を多く含む

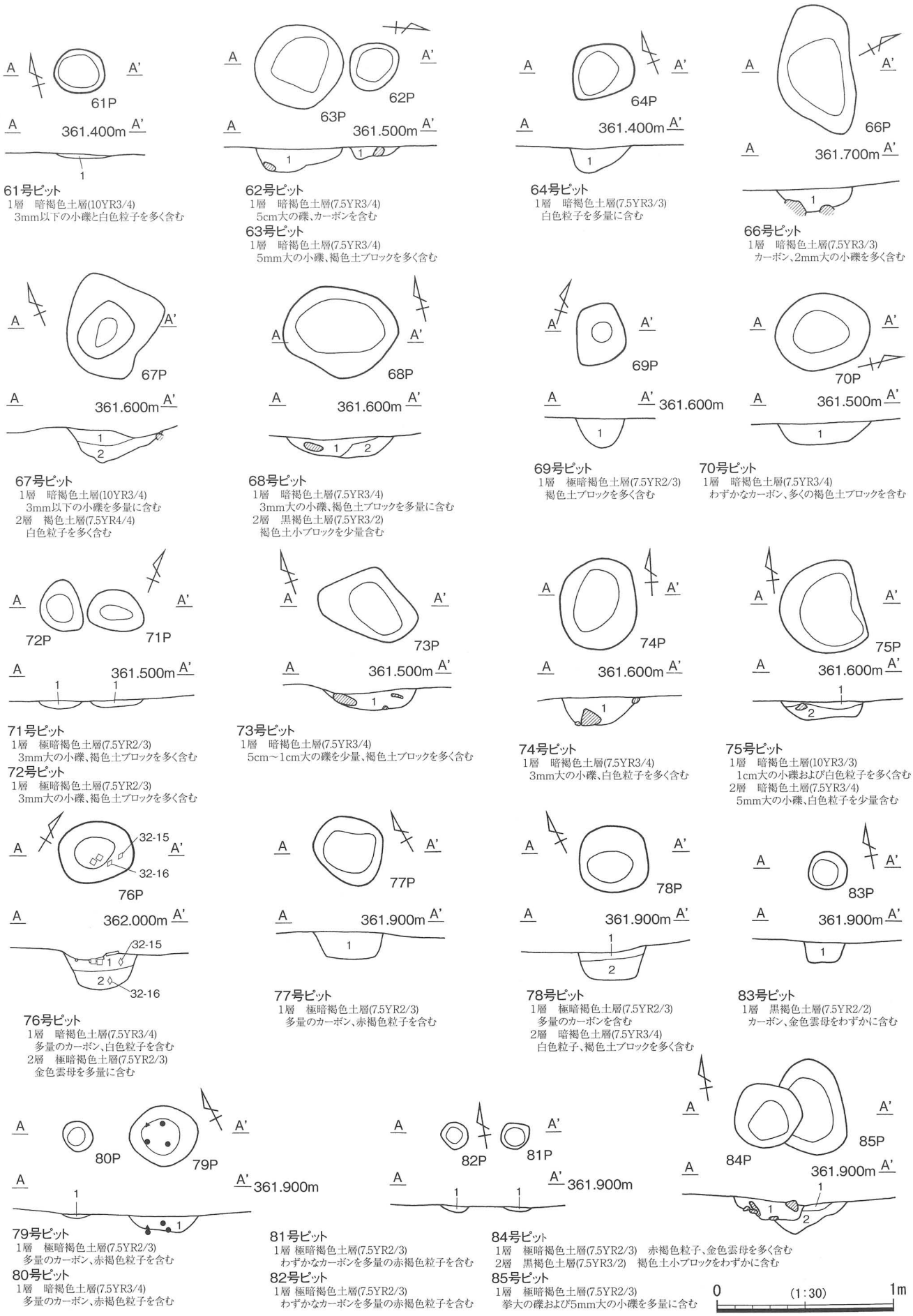
58号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
3mm以下の小礫と白色粒子を多く含む

59号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
3mm以下の小礫と白色粒子を多く含む
2層　暗褐色土層(7.5YR3/4)
白色粒子をわずかに含む

60号ピット
1層　黒褐色土層(10YR2/3)
赤褐色粒子、白色粒子を多く含む

0　(1:30)　1m

第17図　ピット平面図(3)



61号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
3mm以下の小礫と白色粒子を多く含む

62号ピット
1層　暗褐色土層(7.5YR3/4)
5cm大の礫、カーボンを含む

63号ピット
1層　暗褐色土層(7.5YR3/4)
5mm大の小礫、褐色土ブロックを多く含む

64号ピット
1層　暗褐色土層(7.5YR3/3)
白色粒子を多量に含む

66号ピット
1層　暗褐色土層(7.5YR3/3)
カーボン、2mm大の小礫を多く含む

67号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
3mm以下の小礫を多量に含む
2層　褐色土層(7.5YR4/4)
白色粒子を多く含む

68号ピット
1層　暗褐色土層(7.5YR3/4)
3mm大の小礫、褐色土ブロックを多量に含む
2層　黒褐色土層(7.5YR3/2)
褐色土小ブロックを少量含む

69号ピット
1層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)
褐色土ブロックを多く含む

70号ピット
1層　暗褐色土層(7.5YR3/4)
わずかなカーボン、多くの褐色土ブロックを含む

71号ピット
1層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)
3mm大の小礫、褐色土ブロックを多く含む

72号ピット
1層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)
3mm大の小礫、褐色土ブロックを多く含む

73号ピット
1層　暗褐色土層(7.5YR3/4)
5cm～1cm大の礫を少量、褐色土ブロックを多く含む

74号ピット
1層　暗褐色土層(7.5YR3/4)
3mm大の小礫、白色粒子を多く含む

75号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/3)
1cm大の小礫および白色粒子を多く含む
2層　暗褐色土層(7.5YR3/4)
5mm大の小礫、白色粒子を少量含む

76号ピット
1層　暗褐色土層(7.5YR3/4)
多量のカーボン、白色粒子を含む
2層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)
金色雲母を多量に含む

77号ピット
1層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)
多量のカーボン、赤褐色粒子を含む

78号ピット
1層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)
多量のカーボンを含む
2層　暗褐色土層(7.5YR3/4)
白色粒子、褐色土ブロックを多く含む

83号ピット
1層　黒褐色土層(7.5YR2/2)
カーボン、金色雲母をわずかに含む

79号ピット
1層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)
多量のカーボン、赤褐色粒子を含む

80号ピット
1層　暗褐色土層(7.5YR3/4)
多量のカーボン、赤褐色粒子を含む

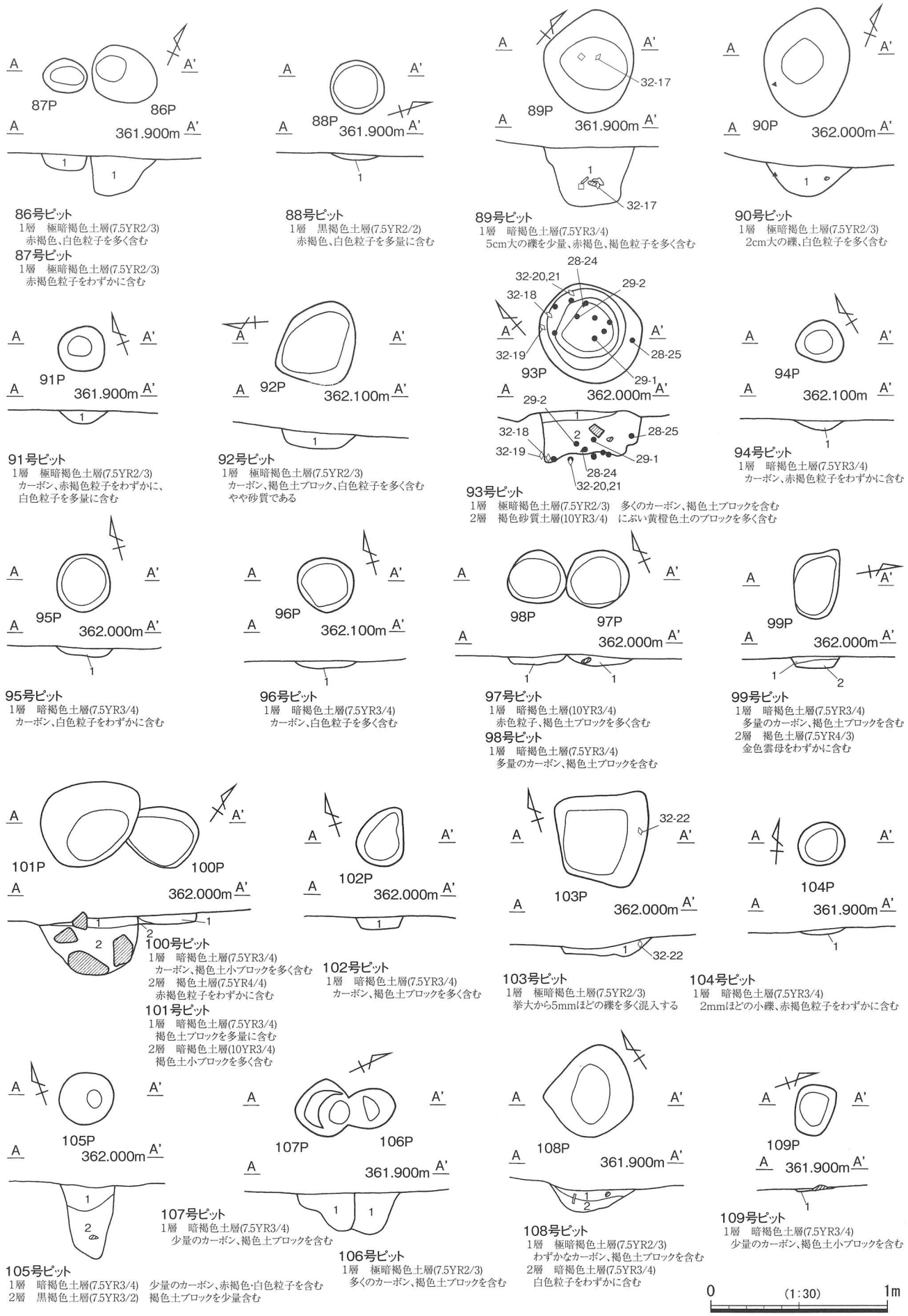
81号ピット
1層 極暗褐色土層(7.5YR2/3)
わずかなカーボンを多量の赤褐色粒子を含む

82号ピット
1層 極暗褐色土層(7.5YR2/3)
わずかなカーボンを多量の赤褐色粒子を含む

84号ピット
1層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)　赤褐色粒子、金色雲母を多く含む
2層　黒褐色土層(7.5YR3/2)　褐色土小ブロックをわずかに含む

85号ピット
1層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)
拳大の礫および5mm大の小礫を多量に含む

第18図　ピット平面図（4）



86号ピット
1層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)
赤褐色、白色粒子を多く含む

87号ピット
1層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)
赤褐色粒子をわずかに含む

88号ピット
1層　黒褐色土層(7.5YR2/2)
赤褐色、白色粒子を多量に含む

89号ピット
1層　暗褐色土層(7.5YR3/4)
5cm大の礫を少量、赤褐色、褐色粒子を多く含む

90号ピット
1層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)
2cm大の礫、白色粒子を多く含む

91号ピット
1層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)
カーボン、赤褐色粒子をわずかに、
白色粒子を多量に含む

92号ピット
1層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)
カーボン、褐色土ブロック、白色粒子を多く含む
やや砂質である

93号ピット
1層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)　多くのカーボン、褐色土ブロックを含む
2層　褐色砂質土層(10YR3/4)　にぶい黄橙色土のブロックを多く含む

94号ピット
1層　暗褐色土層(7.5YR3/4)
カーボン、赤褐色粒子をわずかに含む

95号ピット
1層　暗褐色土層(7.5YR3/4)
カーボン、白色粒子をわずかに含む

96号ピット
1層　暗褐色土層(7.5YR3/4)
カーボン、白色粒子を多く含む

97号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
赤色粒子、褐色土ブロックを多く含む

98号ピット
1層　暗褐色土層(7.5YR3/4)
多量のカーボン、褐色土ブロックを含む

99号ピット
1層　暗褐色土層(7.5YR3/4)
多量のカーボン、褐色土ブロックを含む
2層　褐色土層(7.5YR4/3)
金色雲母をわずかに含む

100号ピット
1層　暗褐色土層(7.5YR3/4)
カーボン、褐色土小ブロックを多く含む
2層　褐色土層(7.5YR4/4)
赤褐色粒子をわずかに含む

101号ピット
1層　暗褐色土層(7.5YR3/4)
褐色土ブロックを多量に含む
2層　暗褐色土層(10YR3/4)
褐色土小ブロックを多く含む

102号ピット
1層　暗褐色土層(7.5YR3/4)
カーボン、褐色土ブロックを多く含む

103号ピット
1層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)
拳大から5mmほどの礫を多く混入する

104号ピット
1層　暗褐色土層(7.5YR3/4)
2mmほどの小礫、赤褐色粒子をわずかに含む

105号ピット
1層　暗褐色土層(7.5YR3/4)　少量のカーボン、赤褐色・白色粒子を含む
2層　黒褐色土層(7.5YR3/2)　褐色土ブロックを少量含む

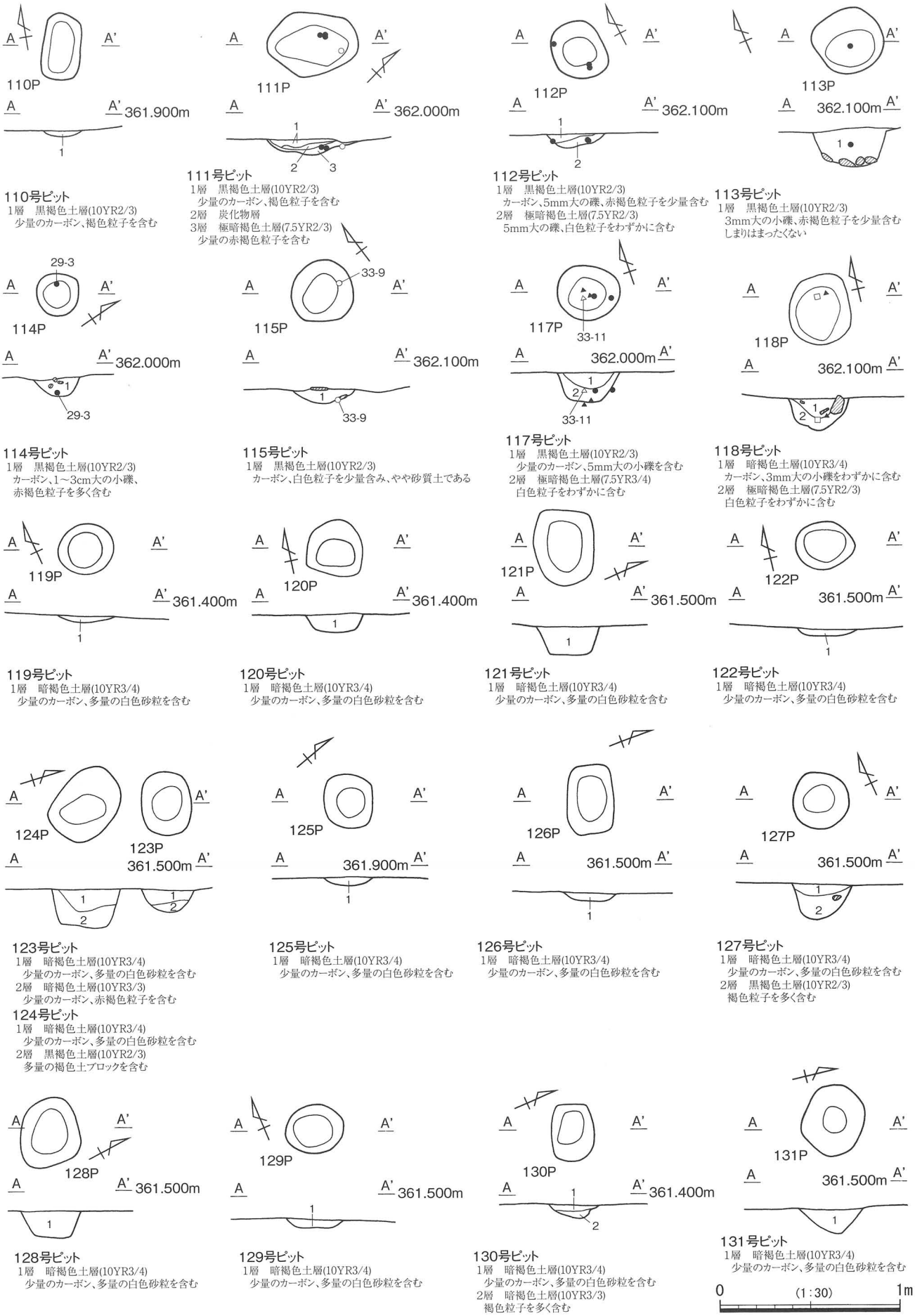
107号ピット
1層　暗褐色土層(7.5YR3/4)
少量のカーボン、褐色土ブロックを含む

106号ピット
1層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)
多くのカーボン、褐色土ブロックを含む

108号ピット
1層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)
わずかなカーボン、褐色土ブロックを含む
2層　暗褐色土層(7.5YR3/4)
白色粒子をわずかに含む

109号ピット
1層　暗褐色土層(7.5YR3/4)
少量のカーボン、褐色土小ブロックを含む

第19図　ピット平面図(5)



110号ピット
1層　黒褐色土層(10YR2/3)
少量のカーボン、褐色粒子を含む

111号ピット
1層　黒褐色土層(10YR2/3)
少量のカーボン、褐色粒子を含む
2層　炭化物層
3層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)
少量の赤褐色粒子を含む

112号ピット
1層　黒褐色土層(10YR2/3)
カーボン、5mm大の礫、赤褐色粒子を少量含む
2層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)
5mm大の礫、白色粒子をわずかに含む

113号ピット
1層　黒褐色土層(10YR2/3)
3mm大の小礫、赤褐色粒子を少量含む
しまりはまったくない

114号ピット
1層　黒褐色土層(10YR2/3)
カーボン、1～3cm大の小礫、
赤褐色粒子を多く含む

115号ピット
1層　黒褐色土層(10YR2/3)
カーボン、白色粒子を少量含み、やや砂質土である

117号ピット
1層　黒褐色土層(10YR2/3)
少量のカーボン、5mm大の小礫を含む
2層　極暗褐色土層(7.5YR3/4)
白色粒子をわずかに含む

118号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
カーボン、3mm大の小礫をわずかに含む
2層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)
白色粒子をわずかに含む

119号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
少量のカーボン、多量の白色砂粒を含む

120号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
少量のカーボン、多量の白色砂粒を含む

121号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
少量のカーボン、多量の白色砂粒を含む

122号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
少量のカーボン、多量の白色砂粒を含む

123号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
少量のカーボン、多量の白色砂粒を含む
2層　暗褐色土層(10YR3/3)
少量のカーボン、赤褐色粒子を含む

124号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
少量のカーボン、多量の白色砂粒を含む
2層　黒褐色土層(10YR2/3)
多量の褐色土ブロックを含む

125号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
少量のカーボン、多量の白色砂粒を含む

126号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
少量のカーボン、多量の白色砂粒を含む

127号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
少量のカーボン、多量の白色砂粒を含む
2層　黒褐色土層(10YR2/3)
褐色粒子を多く含む

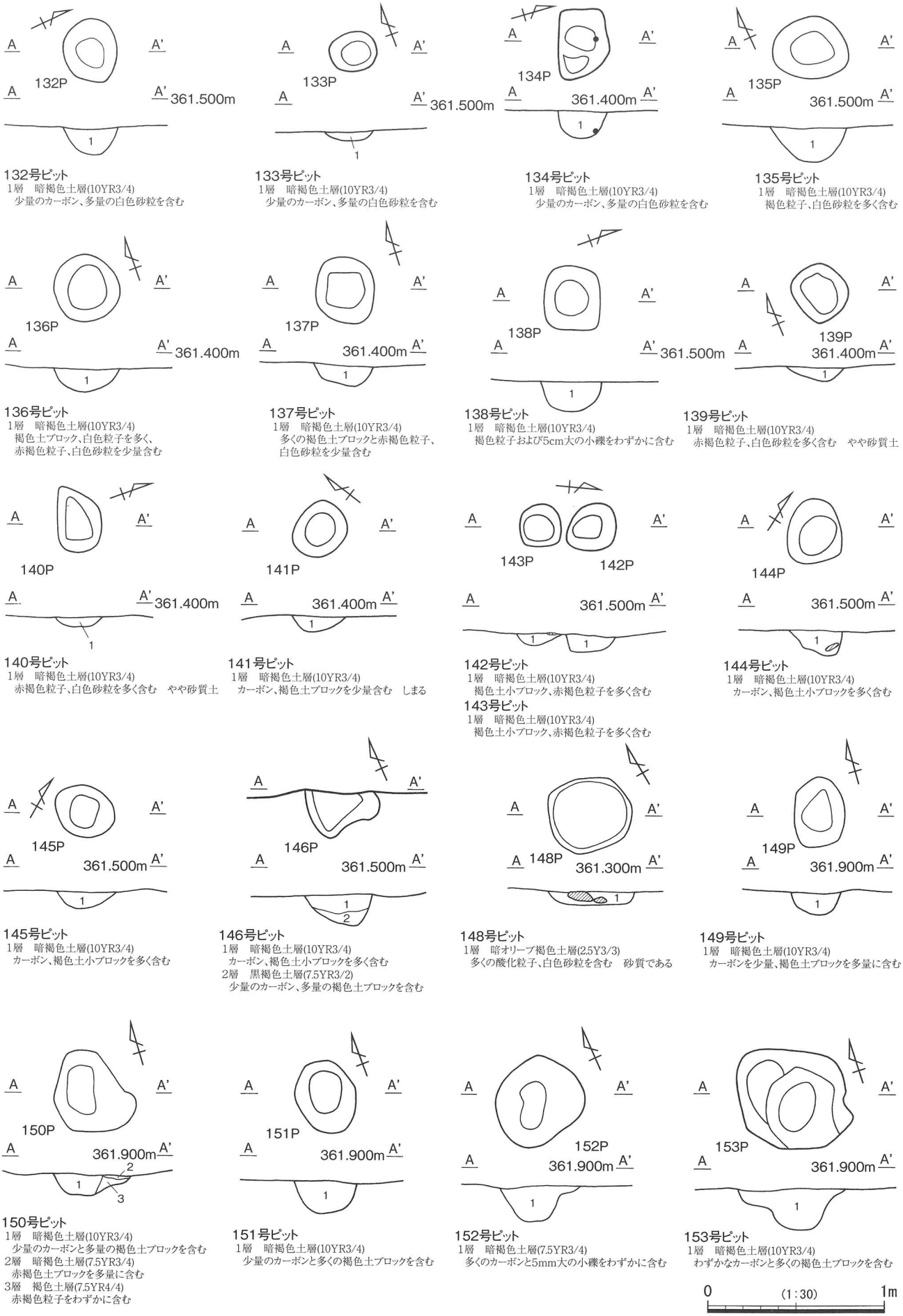
128号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
少量のカーボン、多量の白色砂粒を含む

129号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
少量のカーボン、多量の白色砂粒を含む

130号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
少量のカーボン、多量の白色砂粒を含む
2層　暗褐色土層(10YR3/3)
褐色粒子を多く含む

131号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
少量のカーボン、多量の白色砂粒を含む

第20図　ピット平面図(6)



132号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
少量のカーボン、多量の白色砂粒を含む

133号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
少量のカーボン、多量の白色砂粒を含む

134号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
少量のカーボン、多量の白色砂粒を含む

135号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
褐色粒子、白色砂粒を多く含む

136号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
褐色土ブロック、白色粒子を多く、
赤褐色粒子、白色砂粒を少量含む

137号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
多くの褐色土ブロックと赤褐色粒子、
白色砂粒を少量含む

138号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
褐色粒子および5cm大の小礫をわずかに含む

139号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
赤褐色粒子、白色砂粒を多く含む　やや砂質土

140号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
赤褐色粒子、白色砂粒を多く含む　やや砂質土

141号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
カーボン、褐色土ブロックを少量含む　しまる

142号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
褐色土小ブロック、赤褐色粒子を多く含む

143号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
褐色土小ブロック、赤褐色粒子を多く含む

144号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
カーボン、褐色土小ブロックを多く含む

145号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
カーボン、褐色土小ブロックを多く含む

146号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
カーボン、褐色土小ブロックを多く含む
2層　黒褐色土層(7.5YR3/2)
少量のカーボン、多量の褐色土ブロックを含む

148号ピット
1層　暗オリーブ褐色土層(2.5Y3/3)
多くの酸化粒子、白色砂粒を含む　砂質である

149号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
カーボンを少量、褐色土ブロックを多量に含む

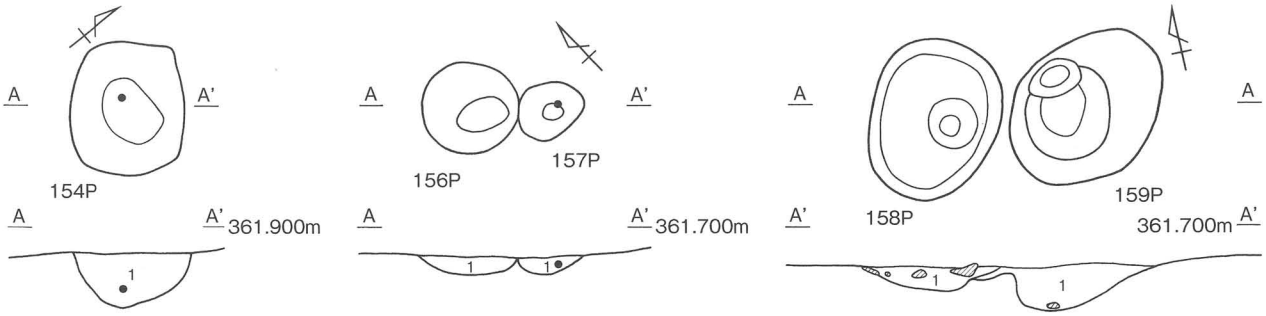
150号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
少量のカーボンと多量の褐色土ブロックを含む
2層　暗褐色土層(7.5YR3/4)
赤褐色土ブロックを多量に含む
3層　褐色土層(7.5YR4/4)
赤褐色粒子をわずかに含む

151号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
少量のカーボンと多くの褐色土ブロックを含む

152号ピット
1層　暗褐色土層(7.5YR3/4)
多くのカーボンと5mm大の小礫をわずかに含む

153号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
わずかなカーボンと多くの褐色土ブロックを含む

第21図　ピット平面図(7)



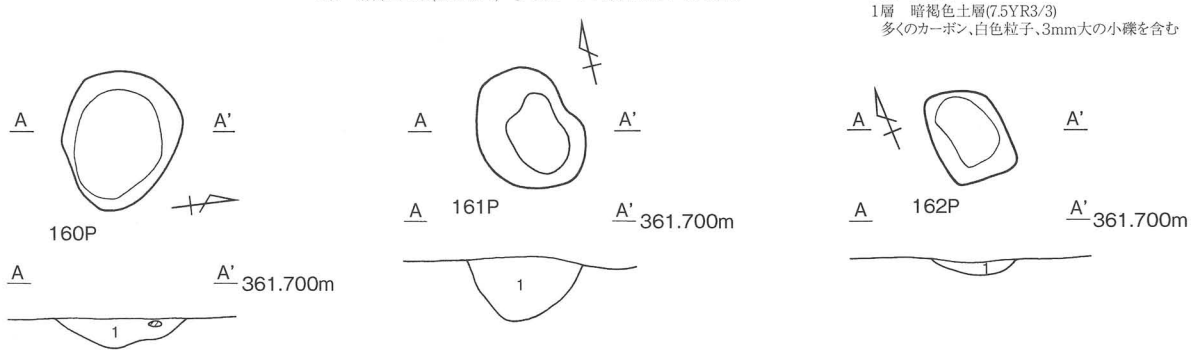
154号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
多量のカーボン、褐色土ブロックを含む

156号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)　多くの褐色土小ブロック、白色粒子を含む

157号ピット
1層　暗褐色土層(10YR3/4)　多くのカーボン、褐色土ブロックを含む

158号ピット
1層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)
少量のカーボンと多くの赤褐色粒子、褐色土小ブロックを含む

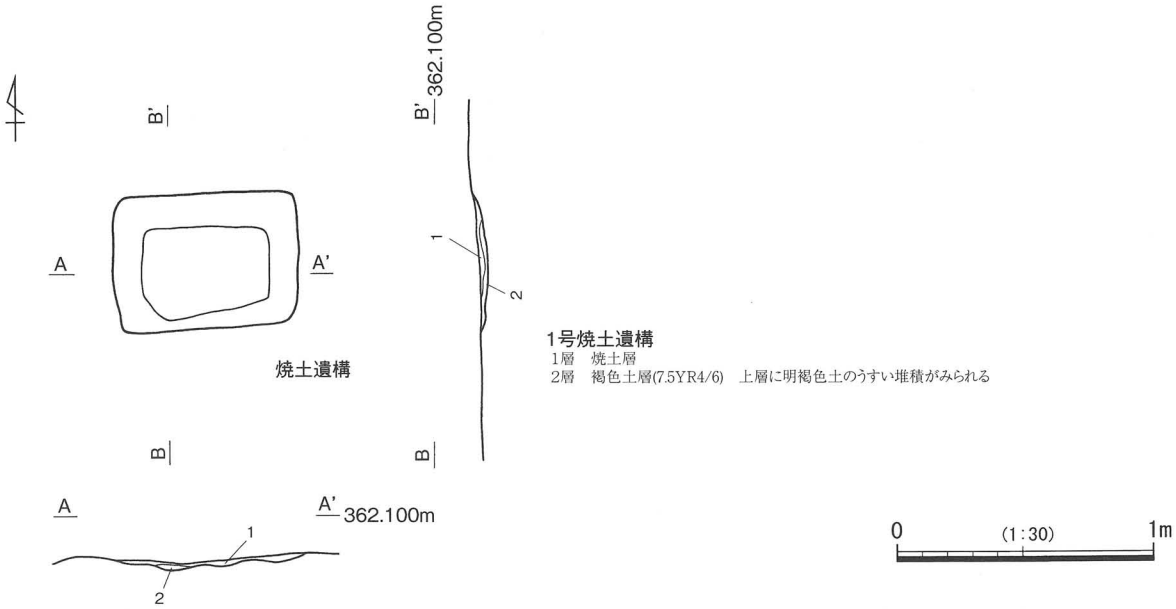
159号ピット
1層　暗褐色土層(7.5YR3/3)
多くのカーボン、白色粒子、3mm大の小礫を含む



160号ピット
1層　暗褐色土層(7.5YR3/3)
褐色土ブロックを多量に含む

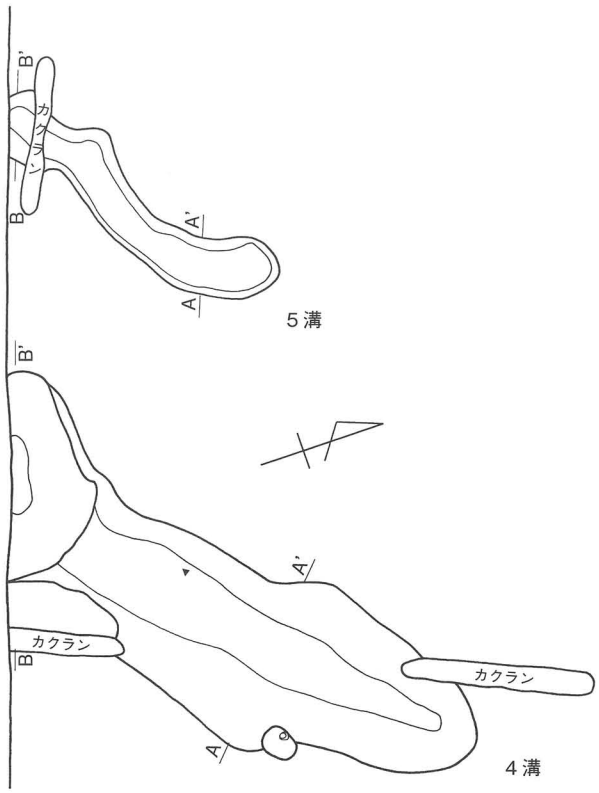
161号ピット
1層　暗褐色土層(7.5YR3/4)
少量のカーボン、白色粒子、多量の褐色土ブロックを含む

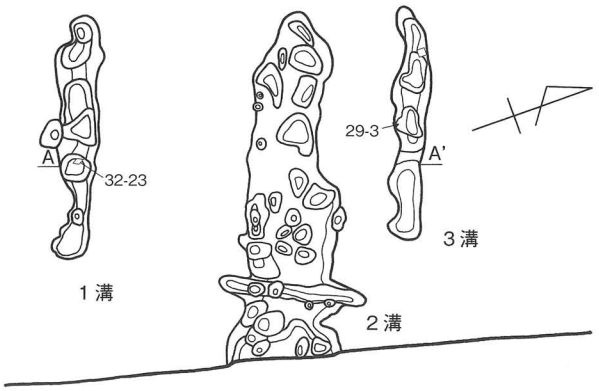
162号ピット
1層　黒褐色土層(7.5YR3/2)
多くの白色粒子、少量の褐色土小ブロックを含む

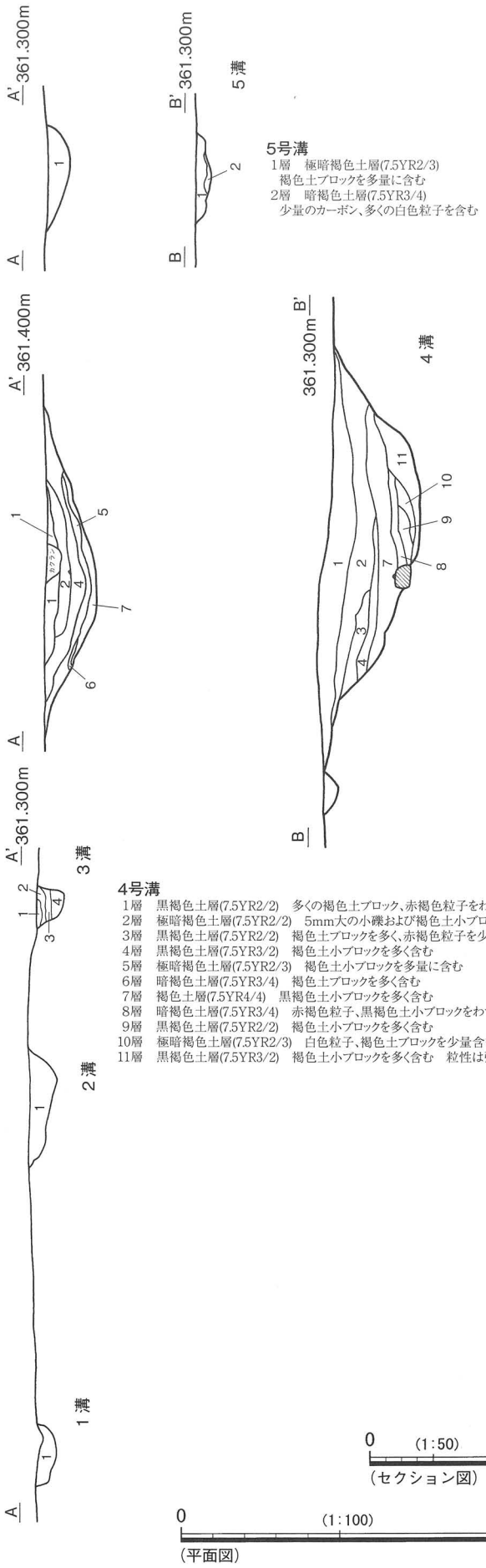


1号焼土遺構
1層　焼土層
2層　褐色土層(7.5YR4/6)　上層に明褐色土のうすい堆積がみられる

第22図　ピット平面図(8)・焼土遺構平面図







5号溝
1層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)
　褐色土ブロックを多量に含む
2層　暗褐色土層(7.5YR3/4)
　少量のカーボン、多くの白色粒子を含む

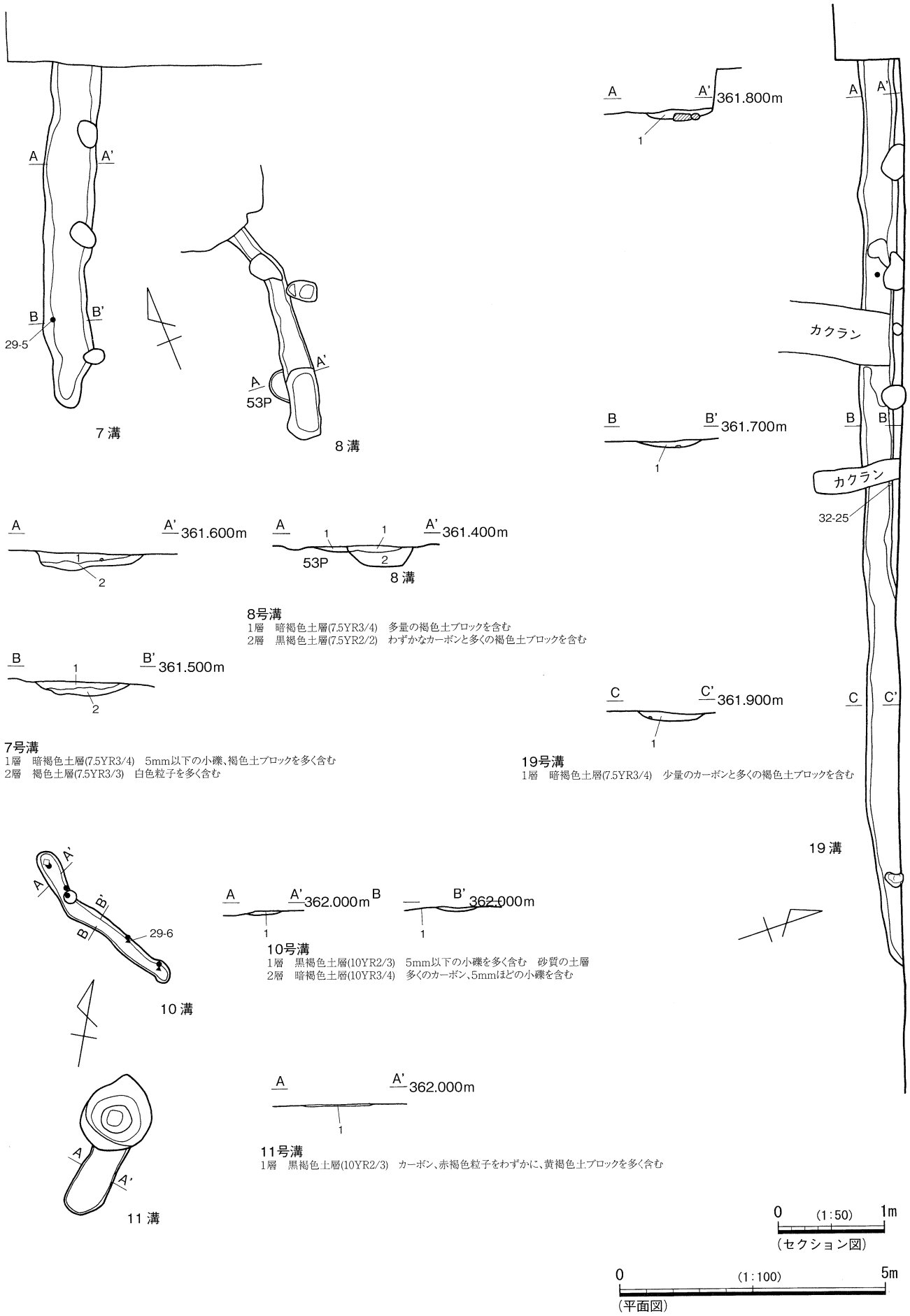
4号溝
1層　黒褐色土層(7.5YR2/2)　多くの褐色土ブロック、赤褐色粒子をわずかに含む
2層　極暗褐色土層(7.5YR2/2)　5mm大の小礫および褐色土小ブロックを含む
3層　黒褐色土層(7.5YR2/2)　褐色土ブロックを多く、赤褐色粒子を少量含む
4層　黒褐色土層(7.5YR3/2)　褐色土小ブロックを多く含む
5層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)　褐色土小ブロックを多量に含む
6層　暗褐色土層(7.5YR3/4)　褐色土ブロックを多く含む
7層　褐色土層(7.5YR4/4)　黒褐色土小ブロックを多く含む
8層　暗褐色土層(7.5YR3/4)　赤褐色粒子、黒褐色土小ブロックをわずかに含む
9層　黒褐色土層(7.5YR2/2)　褐色土小ブロックを多く含む
10層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)　白色粒子、褐色土ブロックを少量含む
11層　黒褐色土層(7.5YR3/2)　褐色土小ブロックを多く含む　粒性は強い

1号溝
1層　暗褐色土層(7.5YR3/4)　黒褐色土ブロック、白色粒子を含む

2号溝
1層　褐色土層(7.5YR4/4)　明褐色土ブロックを多量に含む
2層　暗褐色土層(7.5YR3/4)　褐色土ブロックを多量に含む

3号溝
1層　黒褐色土層(7.5YR3/2)　カーボンをわずかに含む
2層　褐色土層(7.5YR4/4)　赤褐色、白色粒子を多く含む
3層　暗褐色土層(7.5YR3/4)　褐色土小ブロックを多く含む
4層　褐色土層(7.5YR4/6)　白色粒子を多く含む

第23図　溝平面図（1）



8号溝
1層　暗褐色土層(7.5YR3/4)　多量の褐色土ブロックを含む
2層　黒褐色土層(7.5YR2/2)　わずかなカーボンと多くの褐色土ブロックを含む

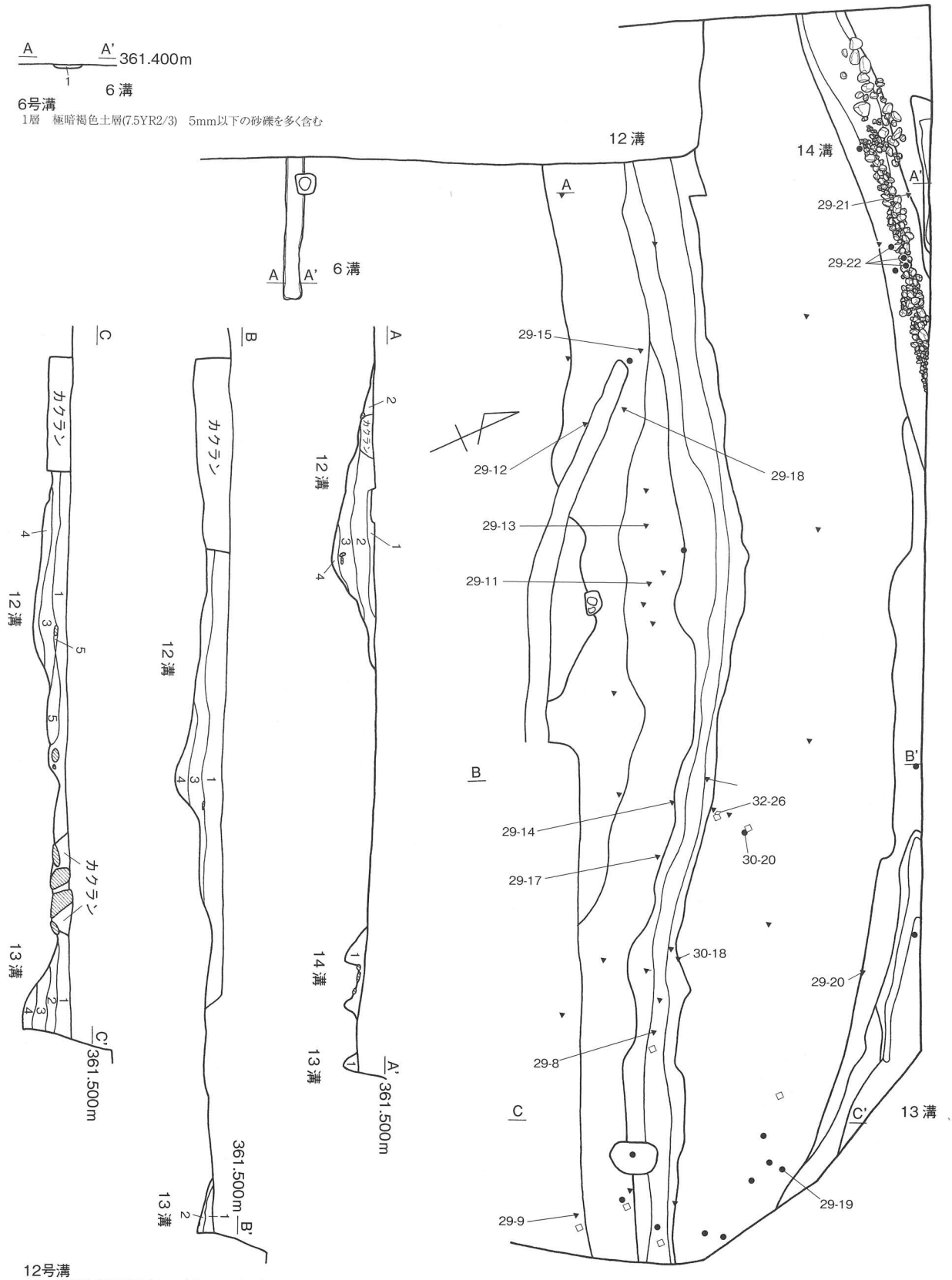
7号溝
1層　暗褐色土層(7.5YR3/4)　5mm以下の小礫、褐色土ブロックを多く含む
2層　褐色土層(7.5YR3/3)　白色粒子を多く含む

19号溝
1層　暗褐色土層(7.5YR3/4)　少量のカーボンと多くの褐色土ブロックを含む

10号溝
1層　黒褐色土層(10YR2/3)　5mm以下の小礫を多く含む　砂質の土層
2層　暗褐色土層(10YR3/4)　多くのカーボン、5mmほどの小礫を含む

11号溝
1層　黒褐色土層(10YR2/3)　カーボン、赤褐色粒子をわずかに、黄褐色土ブロックを多く含む

第24図　溝平面図(2)



6号溝
1層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)　5mm以下の砂礫を多く含む

12号溝
1層　暗褐色土層(10YR3/4)　少量のカーボン、多くの褐色粒子、白色砂粒を含む
2層　黒褐色土層(7.5YR3/2)　3cm大の小礫、黄褐色、白色粒子を多く含む
3層　黒褐色土層(10YR2/3)　黄褐色、白色粒子を多く含む
4層　暗褐色土層(7.5YR3/3)　褐色粒子を多く含み、やや砂質土
5層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)　2cm大の小礫、褐色土ブロックを多量に含む　砂質土
6層　暗褐色土層(10YR3/4)　少量のカーボンと多量の褐色土ブロックを含む　しまる

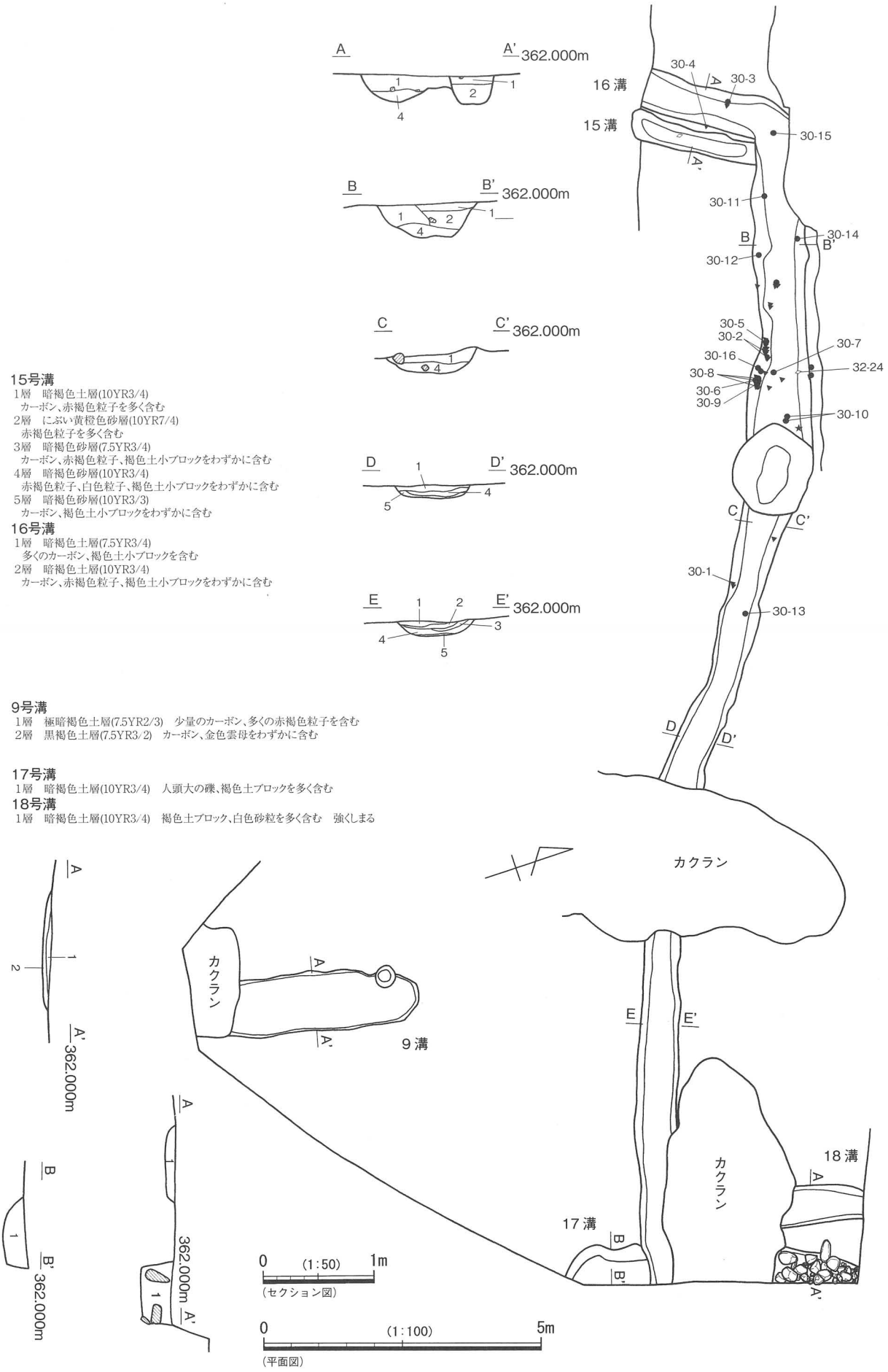
13号溝
1層　暗褐色土層(7.5YR3/4)　カーボン、白色砂粒を少量、褐色土ブロックを多く含む
2層　暗褐色土層(7.5YR3/3)　カーボンを少量、褐色土ブロックを多量に含む
3層　暗褐色土層(10YR3/4)　少量のカーボンと多くの赤褐色粒子を含む
4層　暗褐色土層(10YR3/3)　褐色土ブロックを多量に含む

14号溝
1層　暗褐色土層(10YR3/4)　褐色土小ブロック、白色砂粒を多く含む

0　(1:50)　1m
(セクション図)

0　(1:100)　5m
(平面図)

第25図　溝平面図(3)



15号溝
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
　カーボン、赤褐色粒子を多く含む
2層　にぶい黄橙色砂層(10YR7/4)
　赤褐色粒子を多く含む
3層　暗褐色砂層(7.5YR3/4)
　カーボン、赤褐色粒子、褐色土小ブロックをわずかに含む
4層　暗褐色砂層(10YR3/4)
　赤褐色粒子、白色粒子、褐色土小ブロックをわずかに含む
5層　暗褐色砂層(10YR3/3)
　カーボン、褐色土小ブロックをわずかに含む

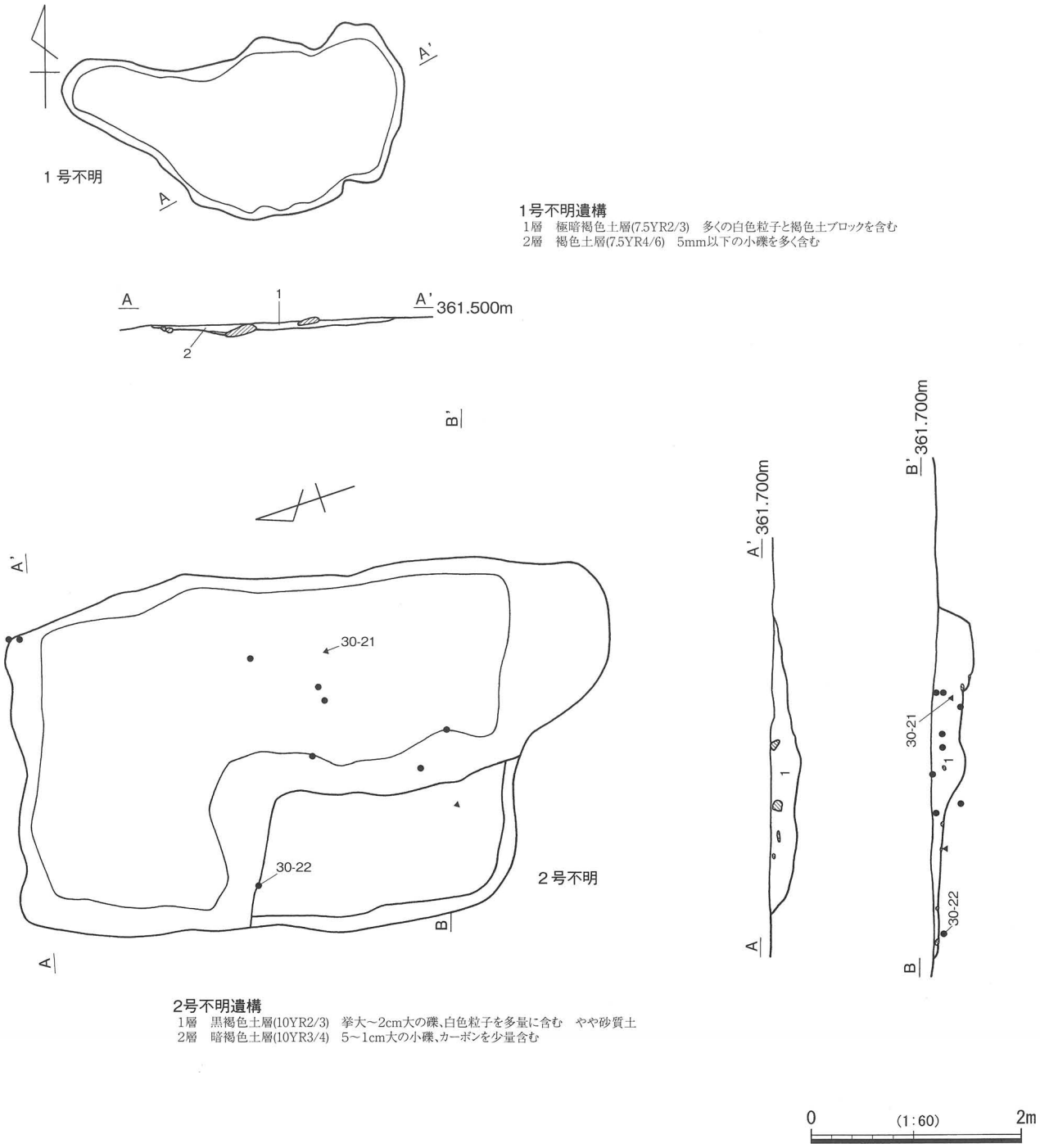
16号溝
1層　暗褐色土層(7.5YR3/4)
　多くのカーボン、褐色土小ブロックを含む
2層　暗褐色土層(10YR3/4)
　カーボン、赤褐色粒子、褐色土小ブロックをわずかに含む

9号溝
1層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)　少量のカーボン、多くの赤褐色粒子を含む
2層　黒褐色土層(7.5YR3/2)　カーボン、金色雲母をわずかに含む

17号溝
1層　暗褐色土層(10YR3/4)　人頭大の礫、褐色土ブロックを多く含む

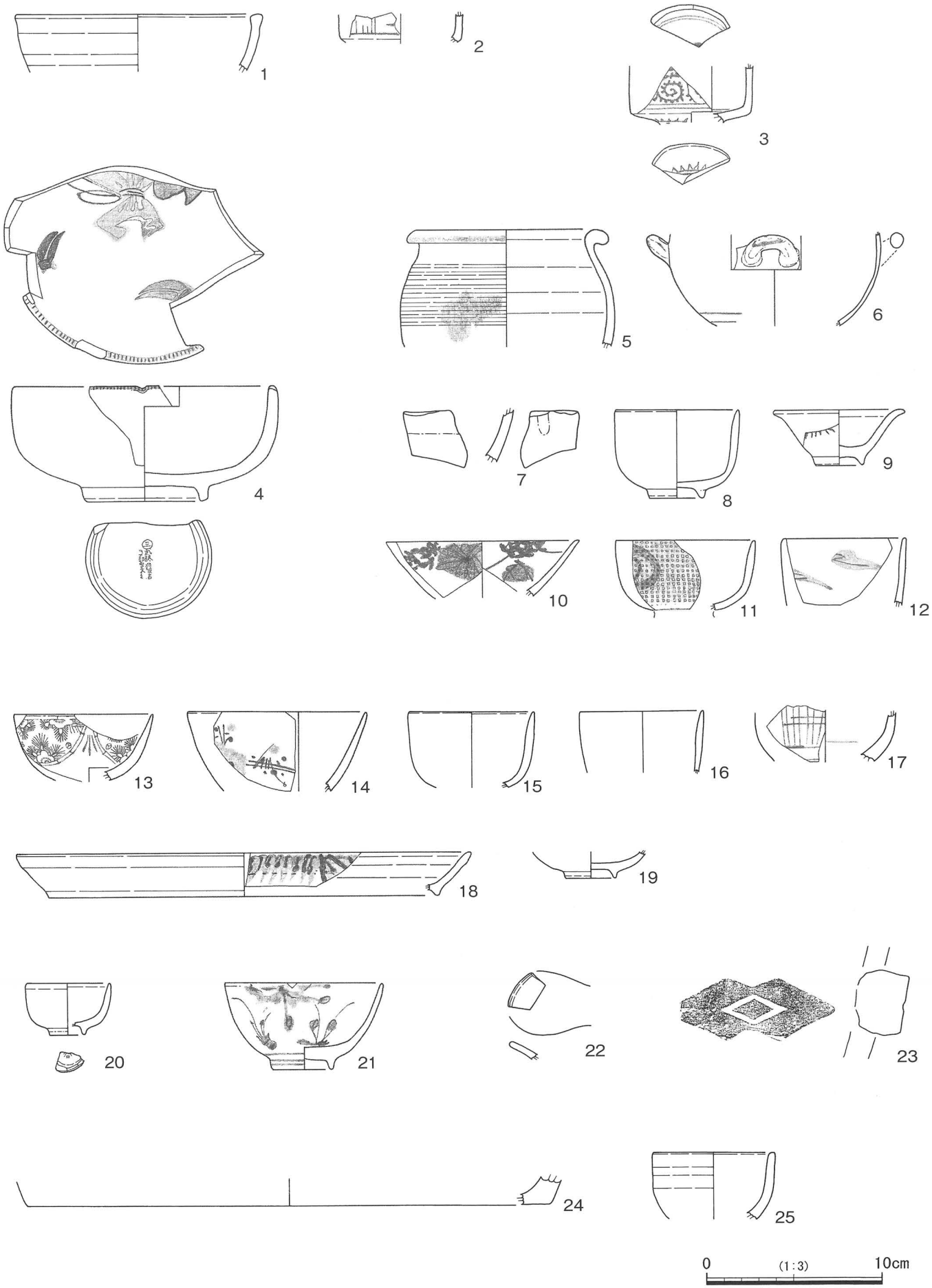
18号溝
1層　暗褐色土層(10YR3/4)　褐色土ブロック、白色砂粒を多く含む　強くしまる

第26図　溝平面図(4)

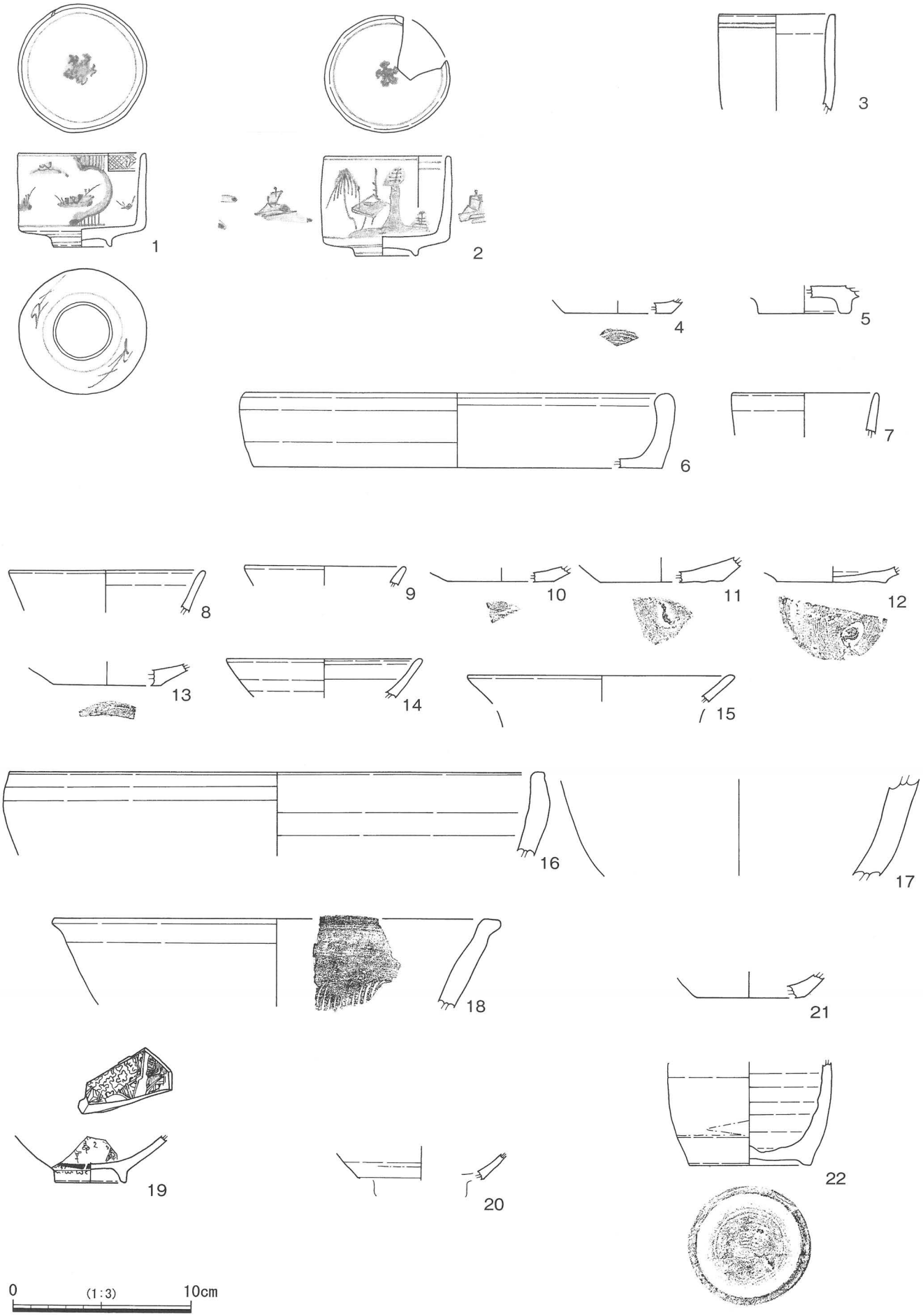


2号不明遺構
1層　黒褐色土層(10YR2/3)　拳大～2cm大の礫、白色粒子を多量に含む　やや砂質土
2層　暗褐色土層(10YR3/4)　5～1cm大の小礫、カーボンを少量含む

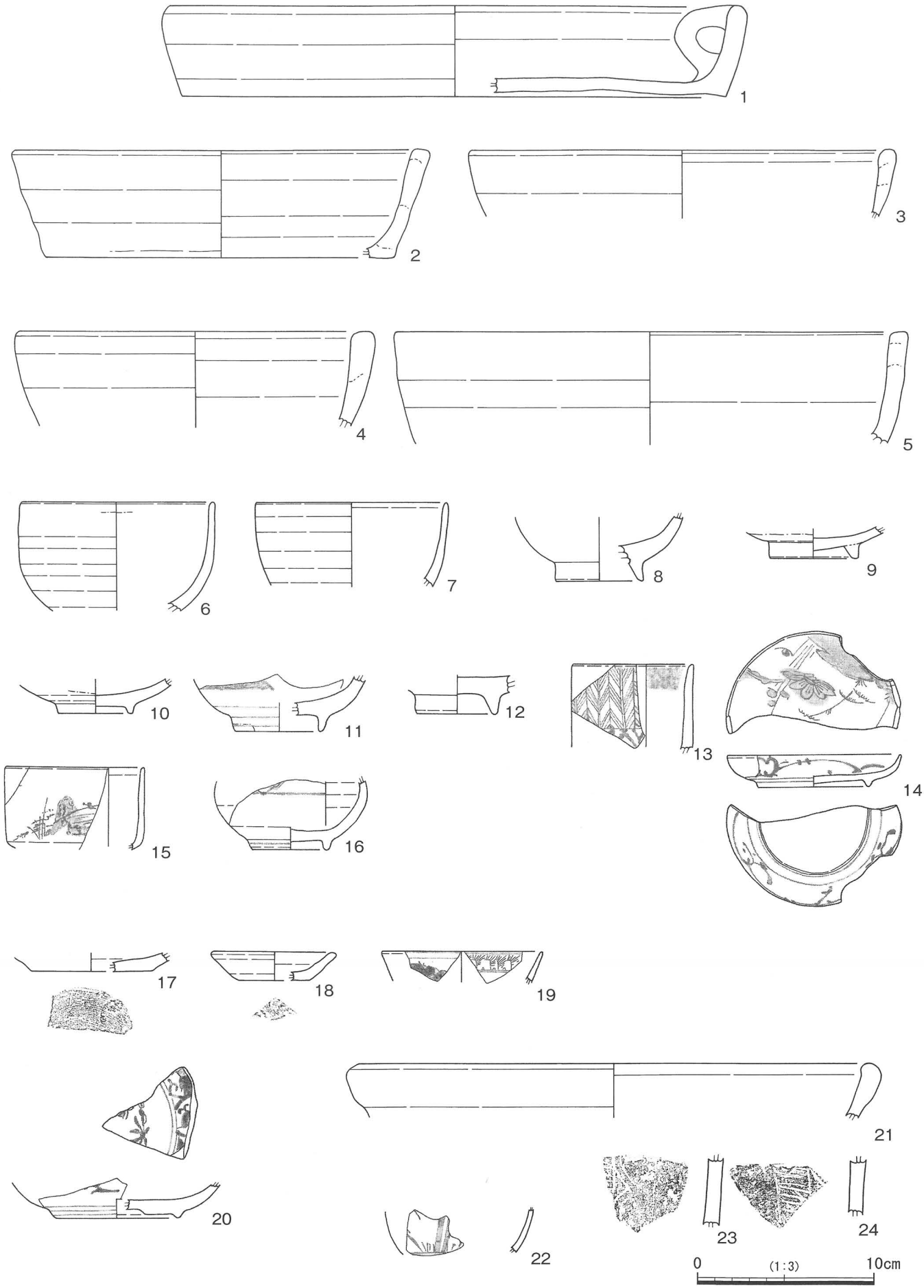
第27図　性格不明遺構平面図



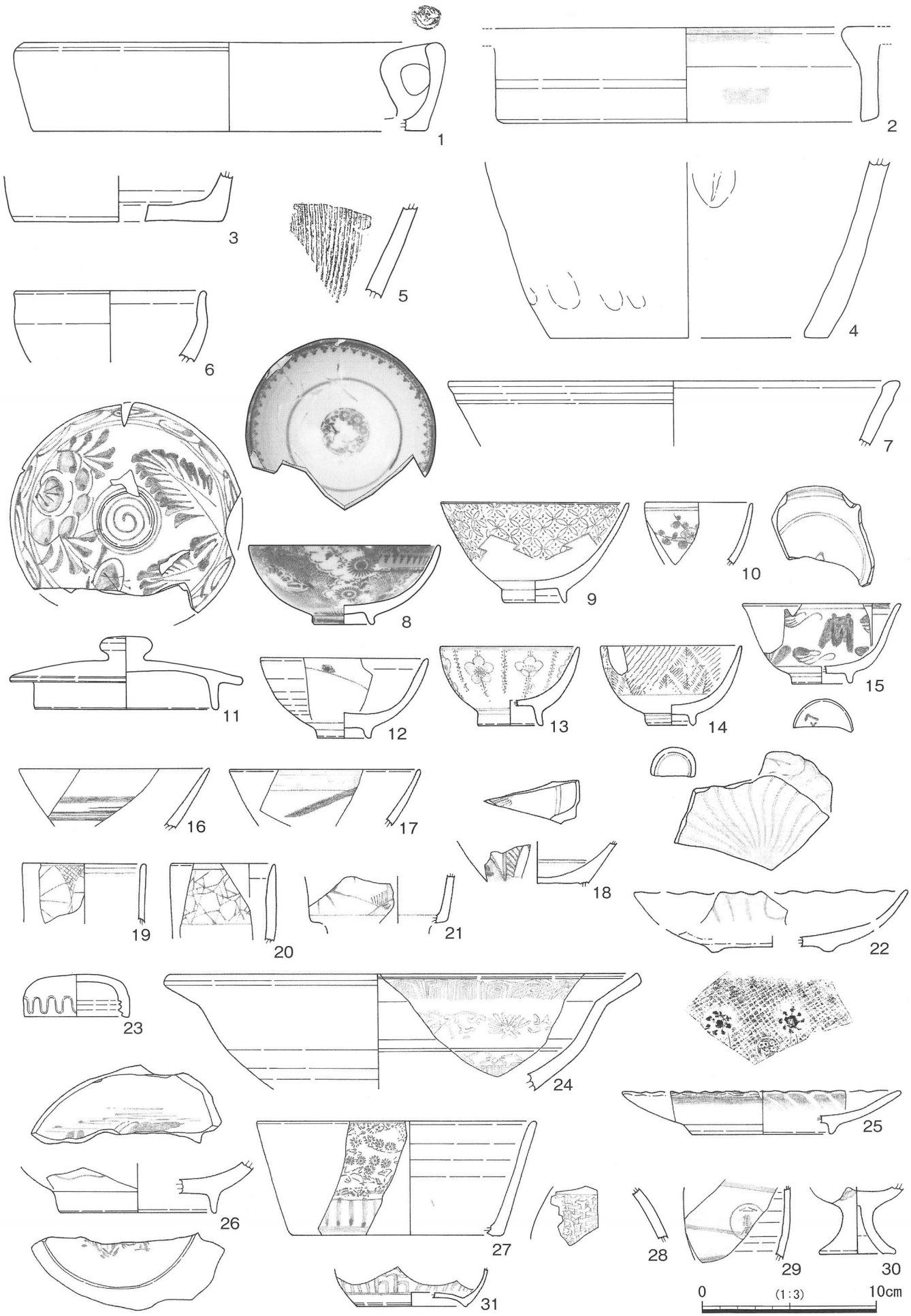
第28図　出土遺物(1)



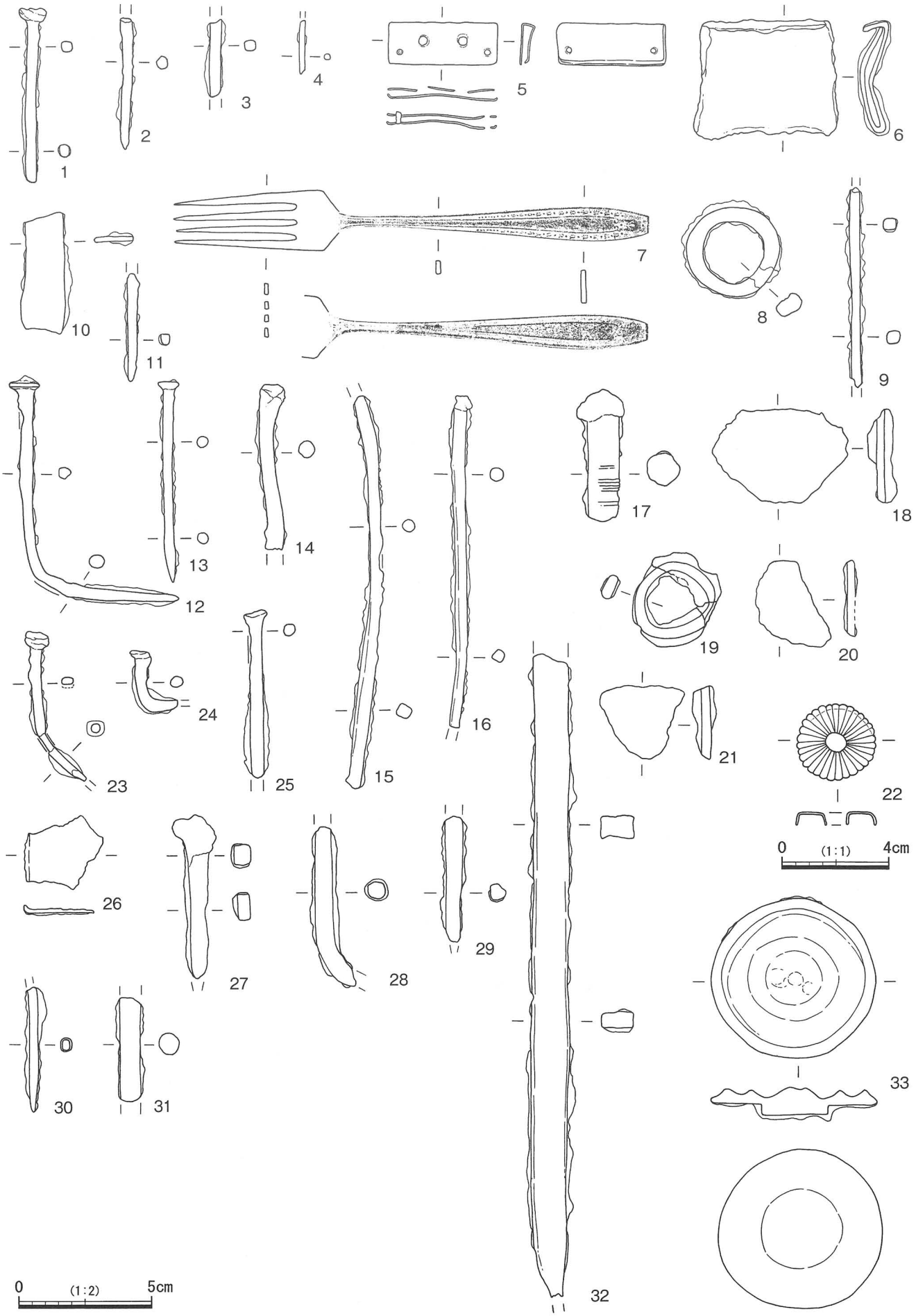
第29図　出土遺物(2)



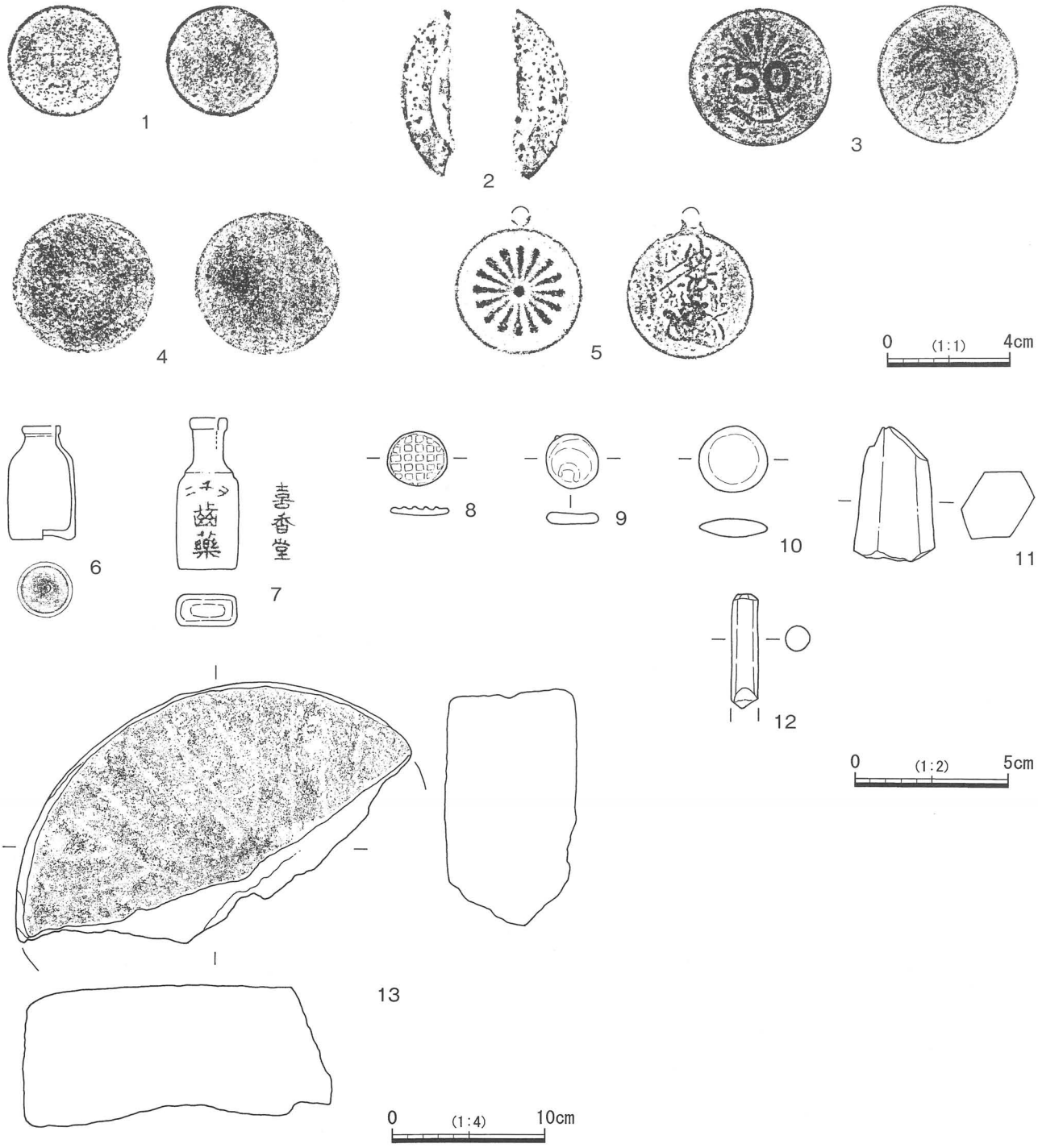
第30図　出土遺物(3)


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
0
(1:3)
10cm

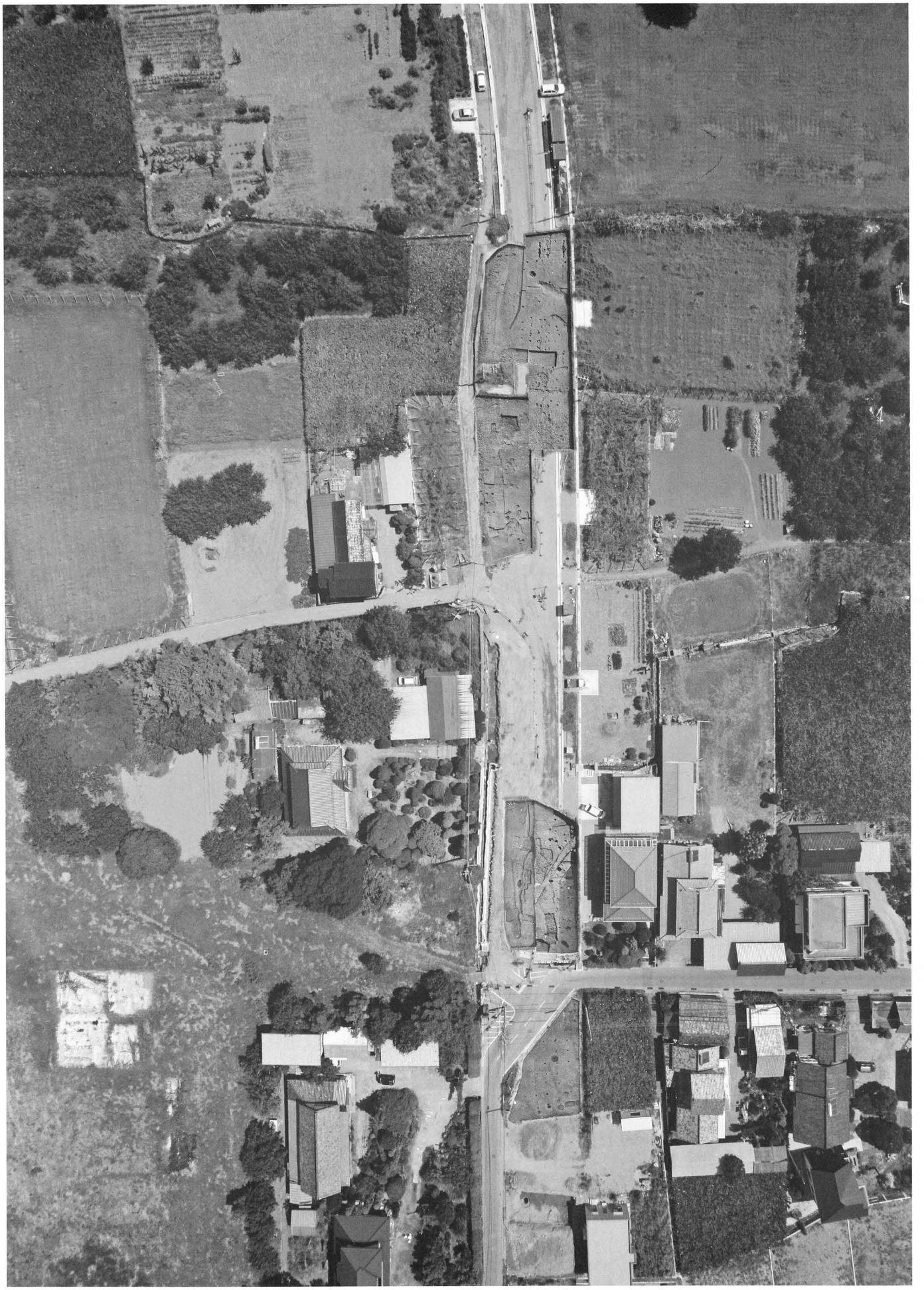
第31図　出土遺物(4)


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
0 (1:1) 4cm
0 (1:2) 5cm

第32図　出土遺物(5)



第33図　出土遺物(6)



遺跡全景

図版２

１．１区全景

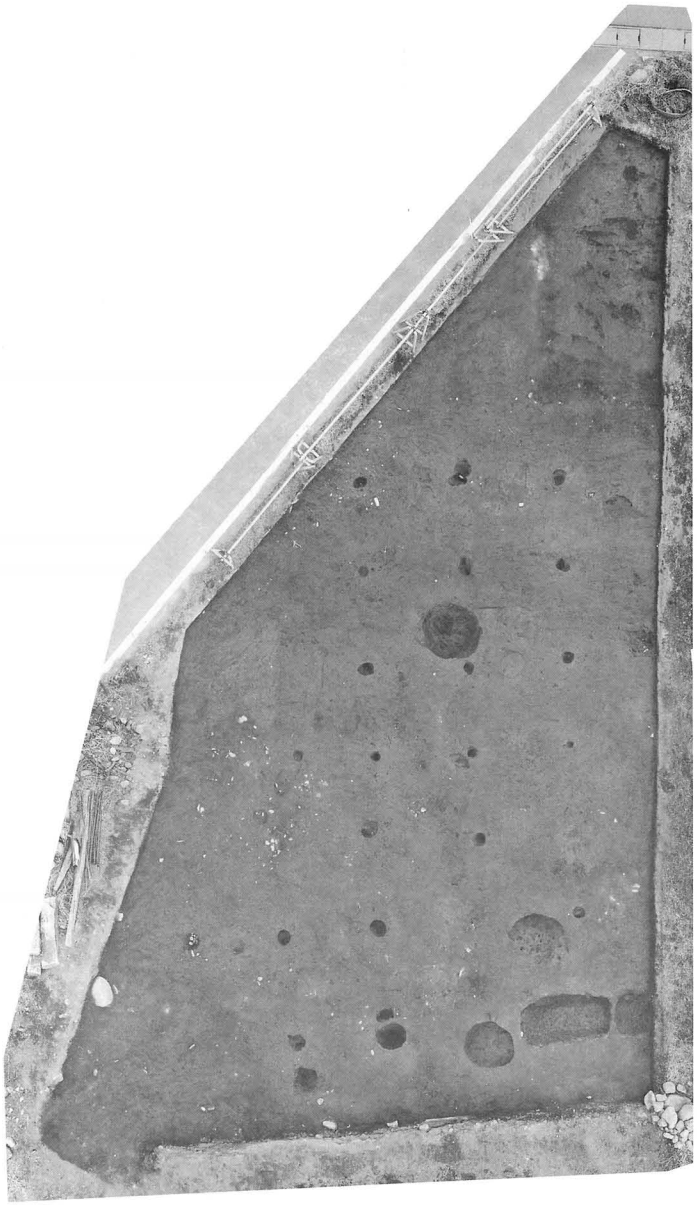
２．２区全景

1. 3区全景

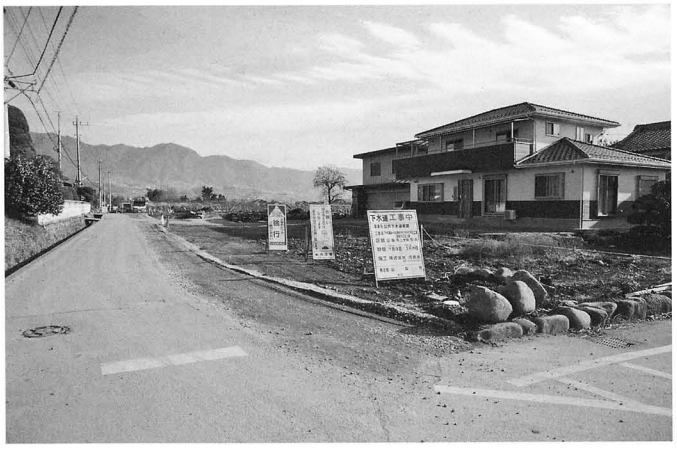
2. 4区全景

図版４

１．５区全景

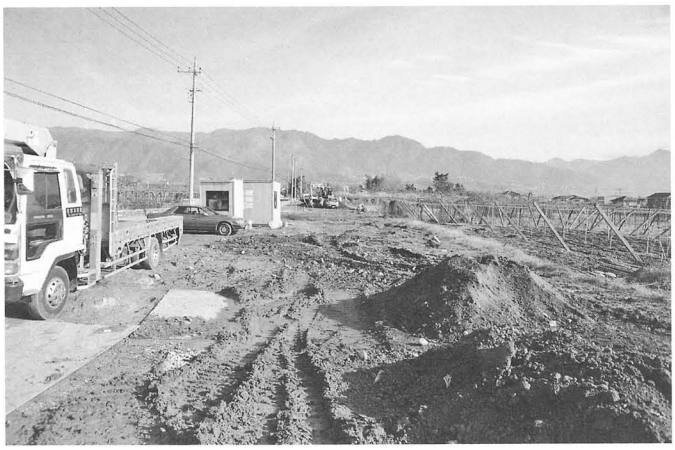


２．６区全景

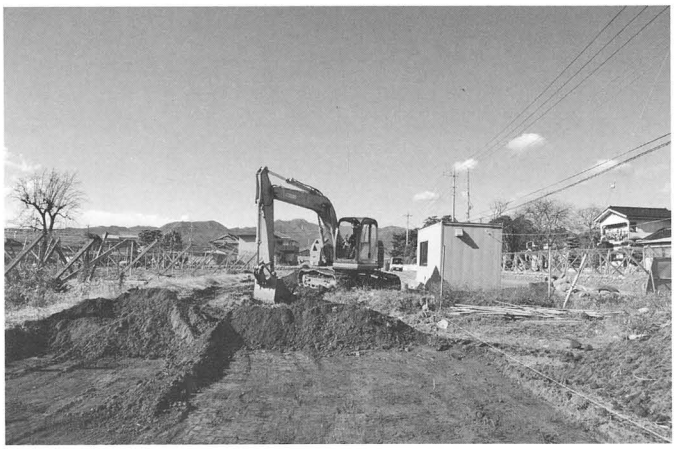


1. 調査開始前(1)

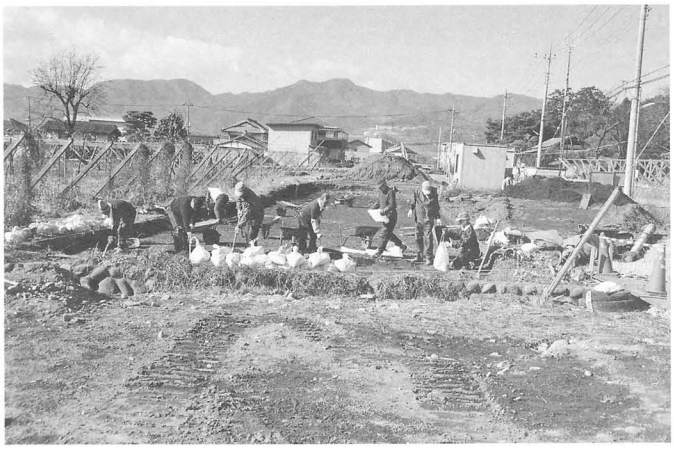
2. 調査開始前(2)



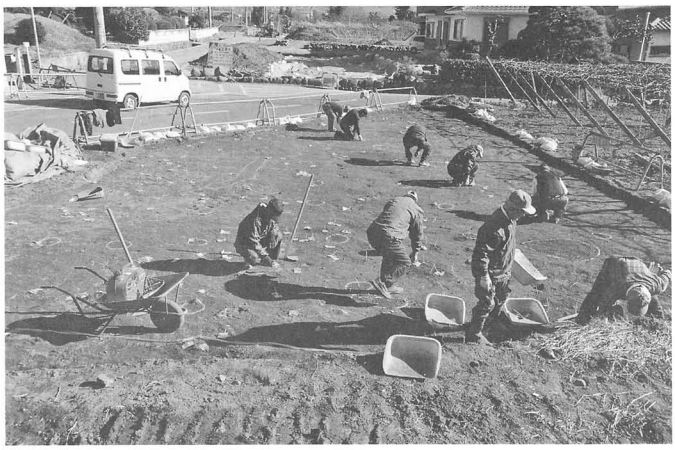
3. 調査開始前(3)



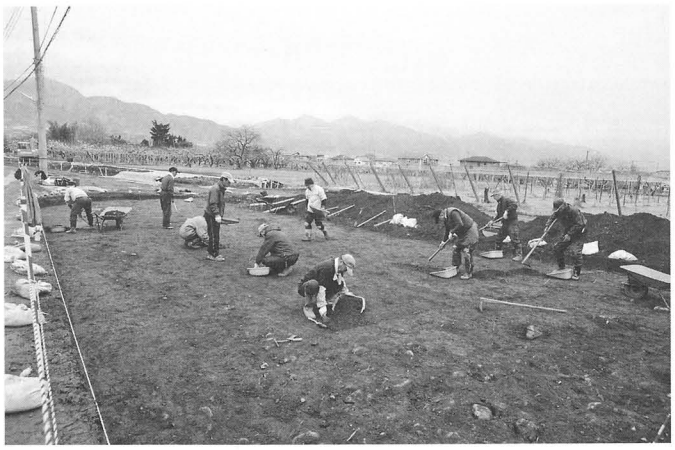
4. 表土剥ぎ



5. 遺構確認作業(1)



6. 遺構確認作業(2)



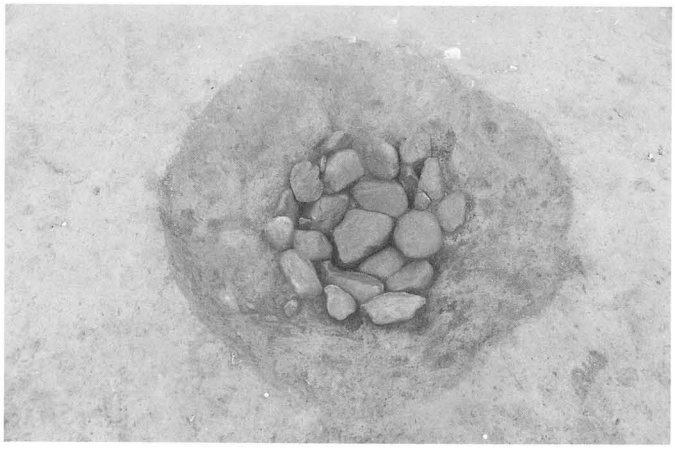
7. 遺構確認作業(3)

8. 標準土層

図版６

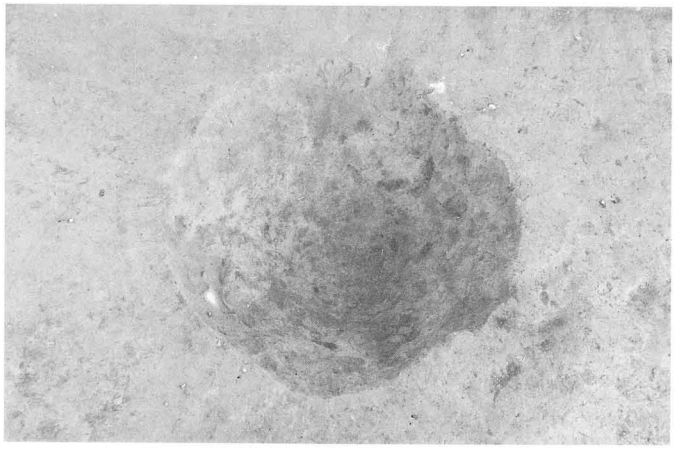
1. １号掘立柱建物

2. ２号掘立柱建物



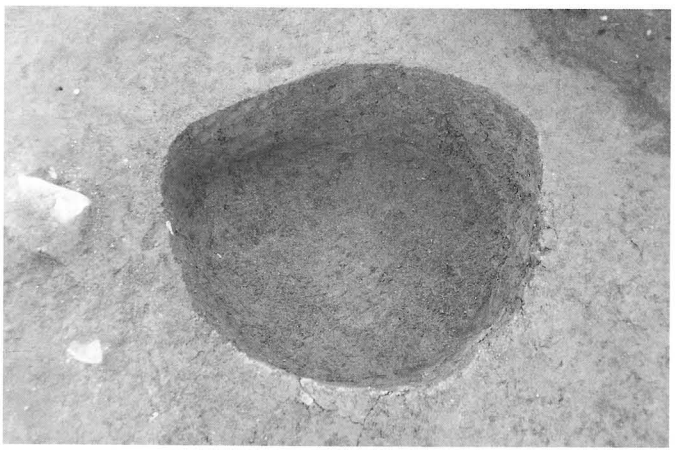
3. １号土坑

4. １号土坑　セクション



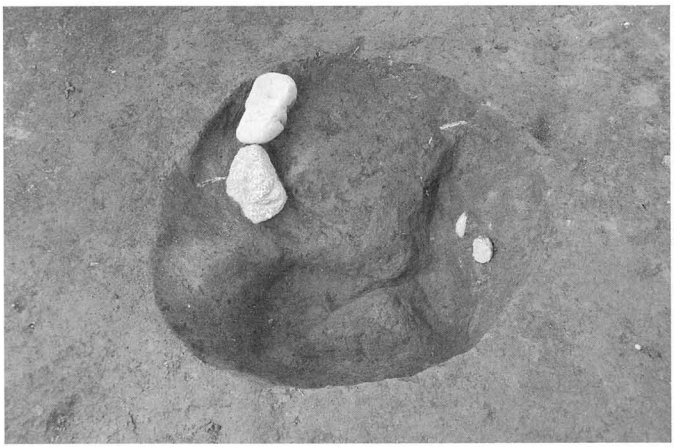
5. １号土坑　掘り方

6. ２号土坑



7. ５号土坑

8. ６号土坑



1. ７号土坑

2. 8・9・11号土坑

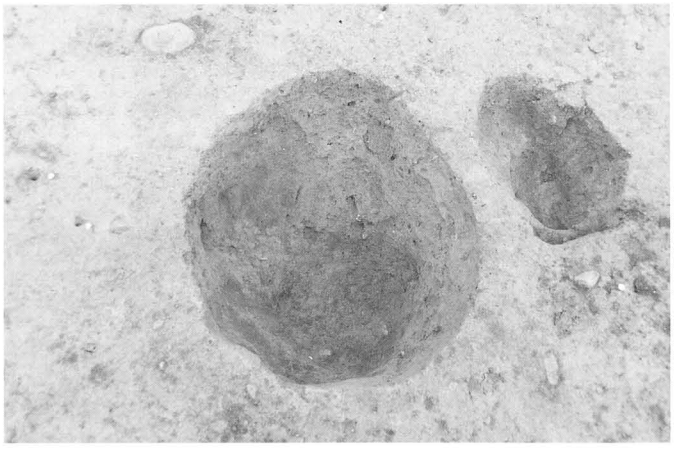
3. 10号土坑

4. 12号土坑　焼土検出状況

5. 12号土坑　セクション

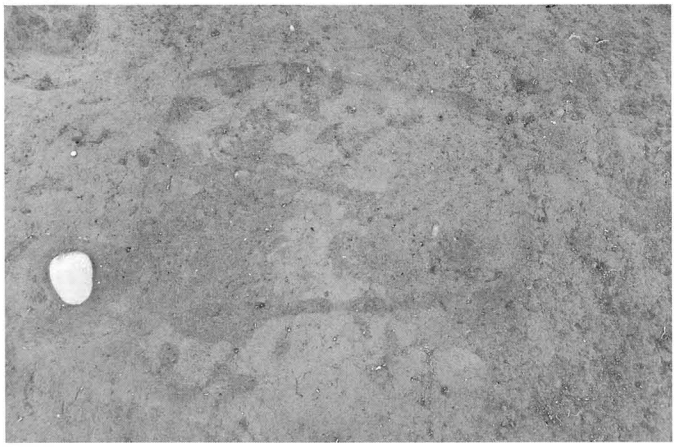
6. 13号土坑

7. 15号土坑



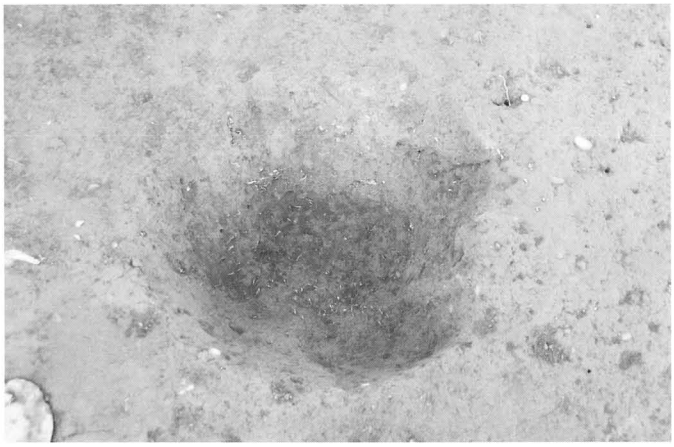
8. 16号土坑

図版８

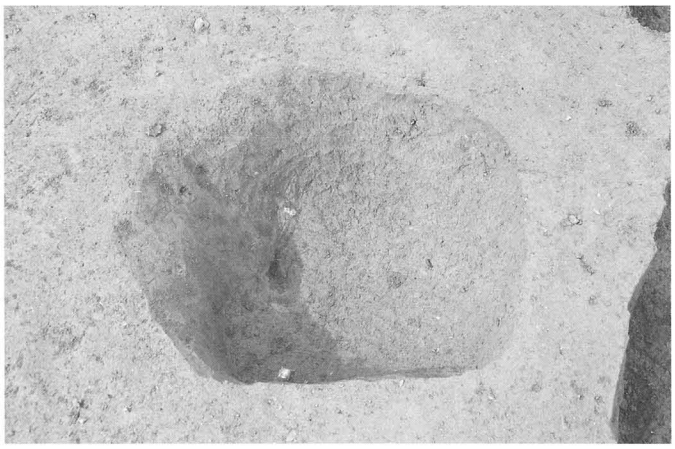


1. 17号土坑

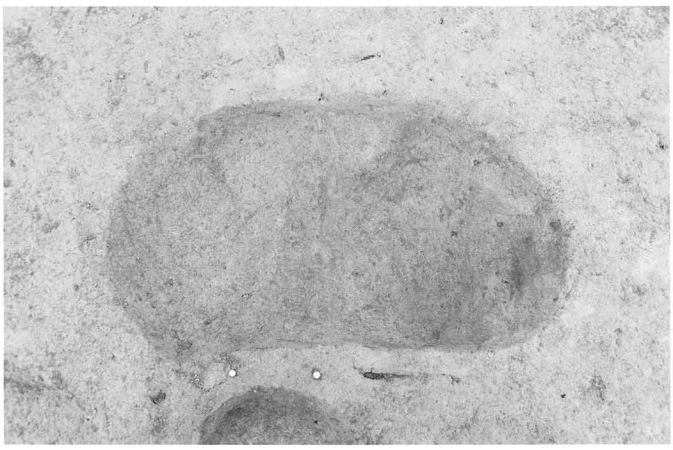
2. 18号土坑



3. 19号土坑

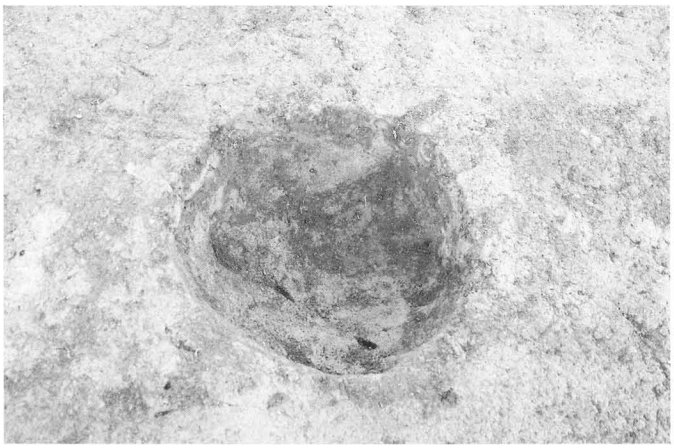


4. 20号土坑



5. 26号土坑

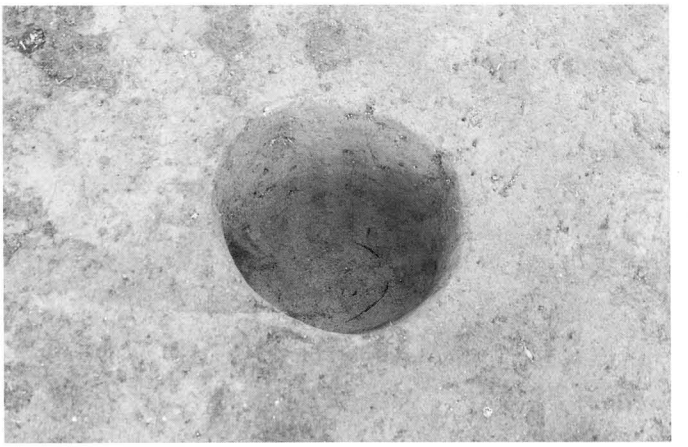
6. 27号土坑



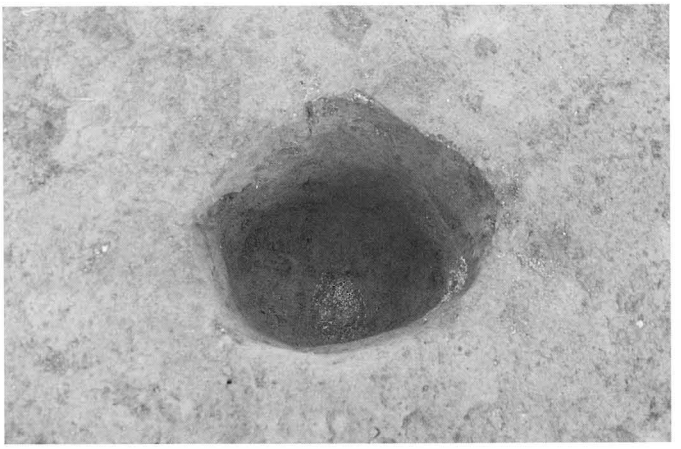
7. １号ピット

8. ２号ピット

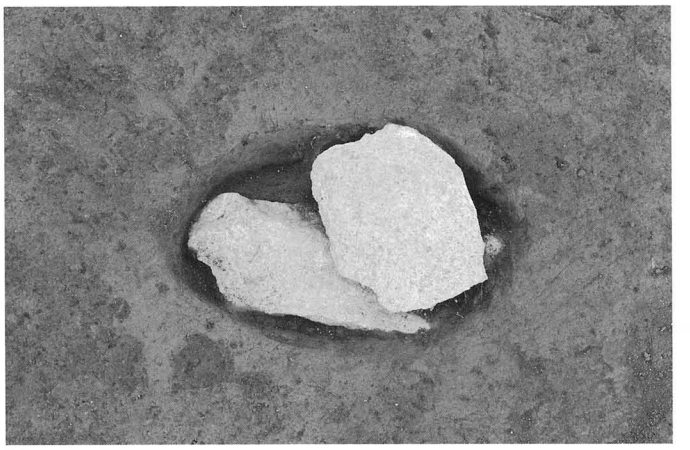
1. ４号ピット



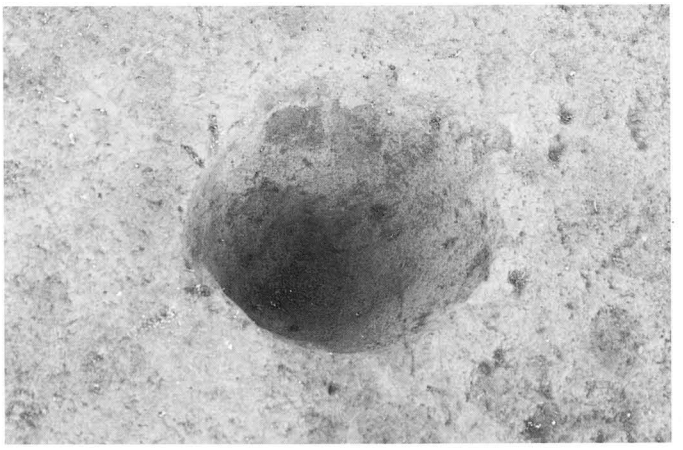
2. ５号ピット



3. ７号ピット

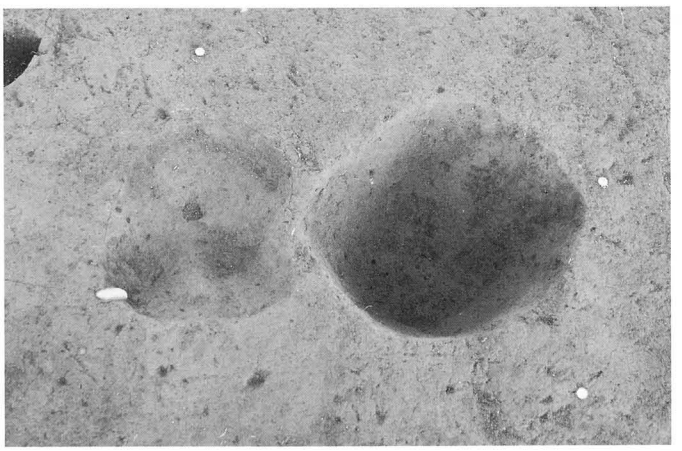


4. 14号ピット

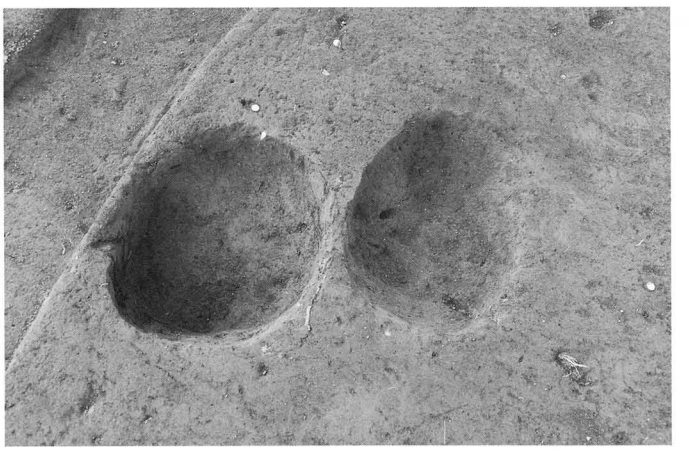


5. 23号ピット

6. 27号ピット

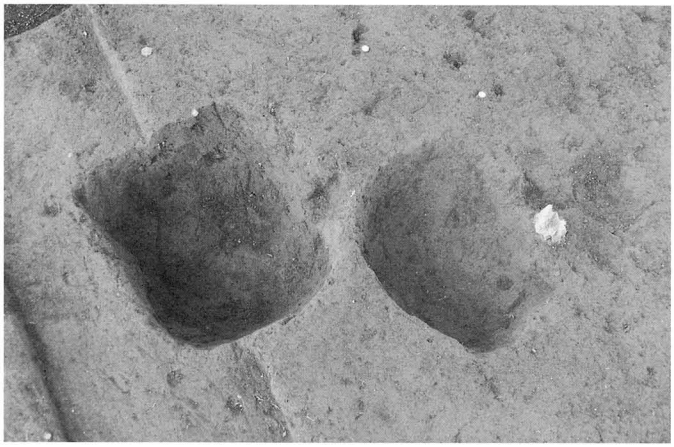


7. 39・40号ピット

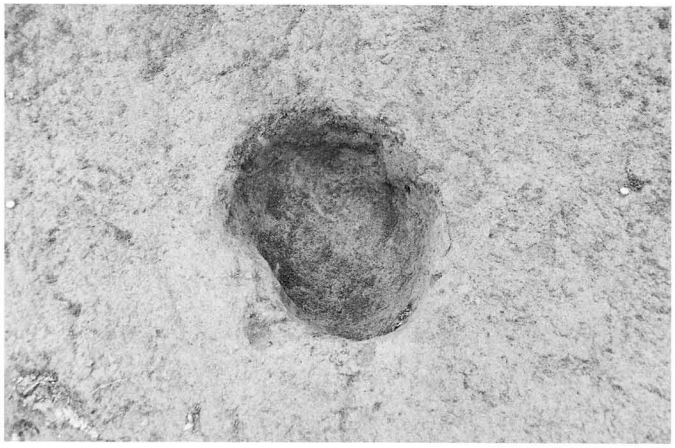


8. 45・46号ピット

図版 10



1. 47号・48号ピット

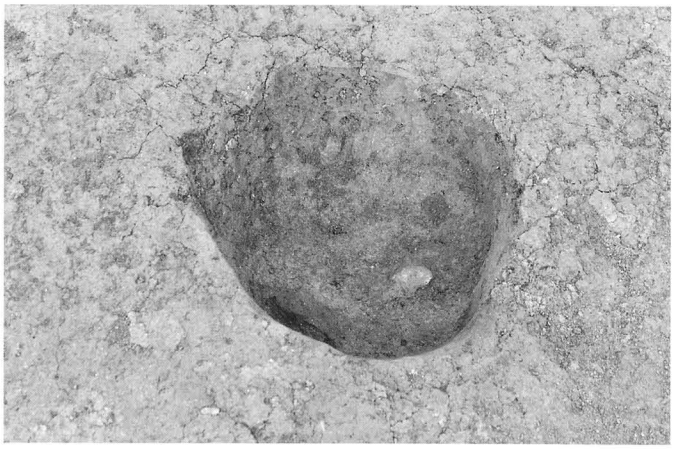


2. 51号ピット

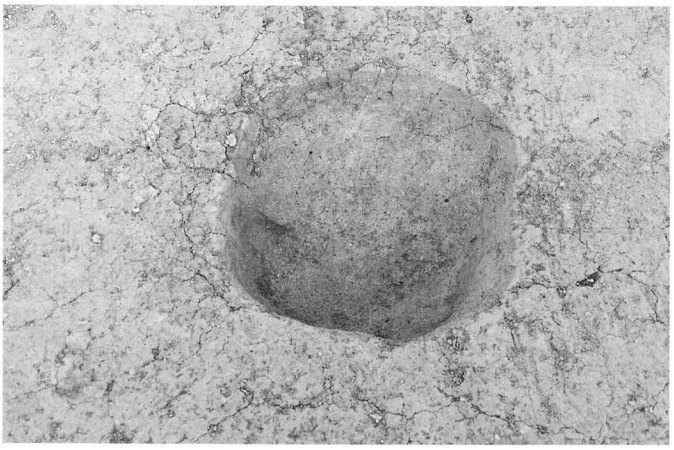
3. 52号ピット

4. 76号ピット

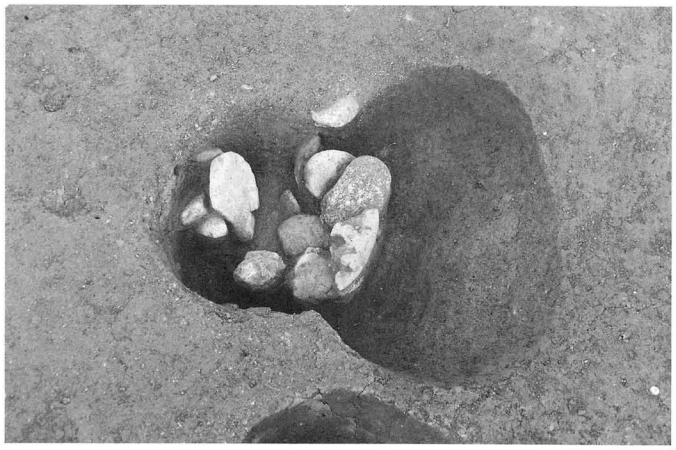
5. 76号ピット　遺物出土状況



6. 77号ピット



7. 78号ピット



8. 84・85号ピット

1. 89号ピット

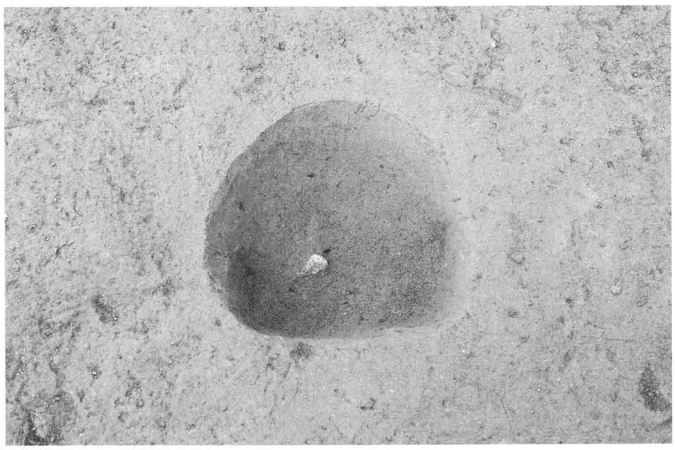
2. 90号ピット

3. 92号ピット

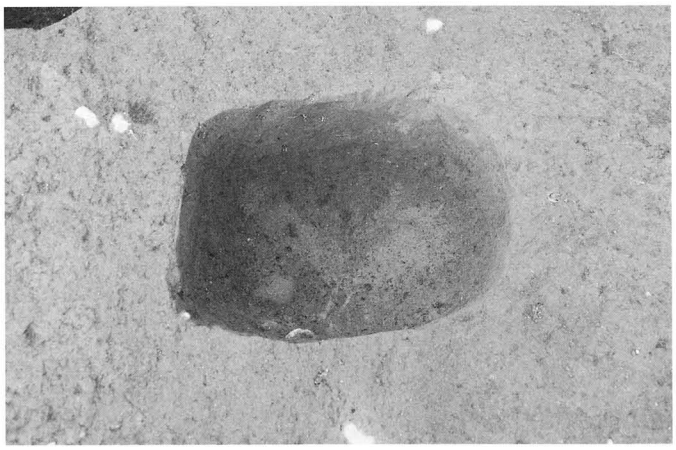
4. 93号ピット

5. 93号ピット　遺物出土状況

6. 100号ピット　礫検出状況



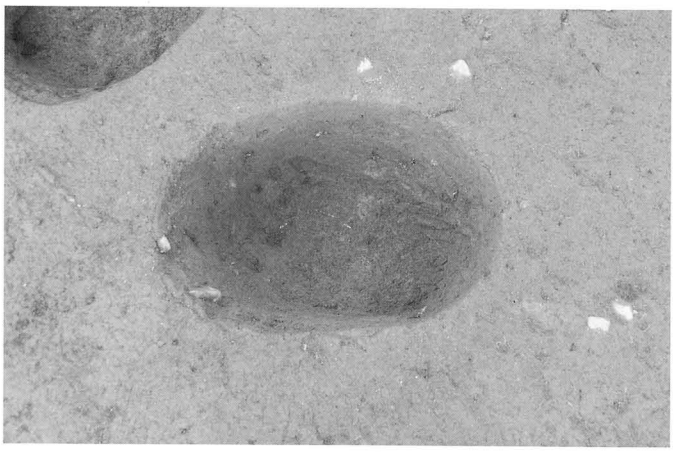
7. 120号ピット



8. 121号ピット

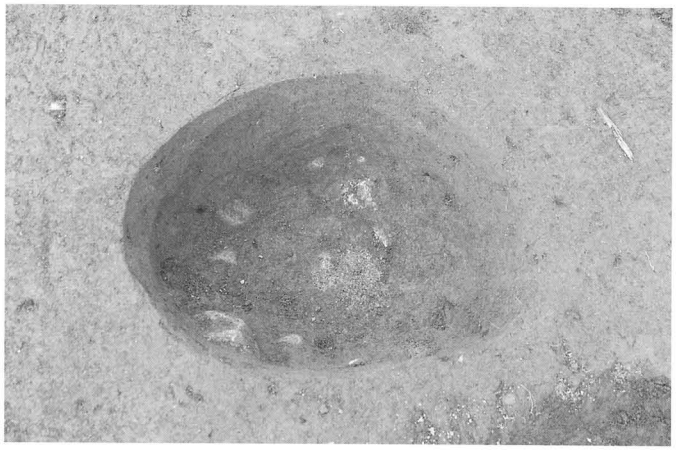
図版 12

1. 123号ピット

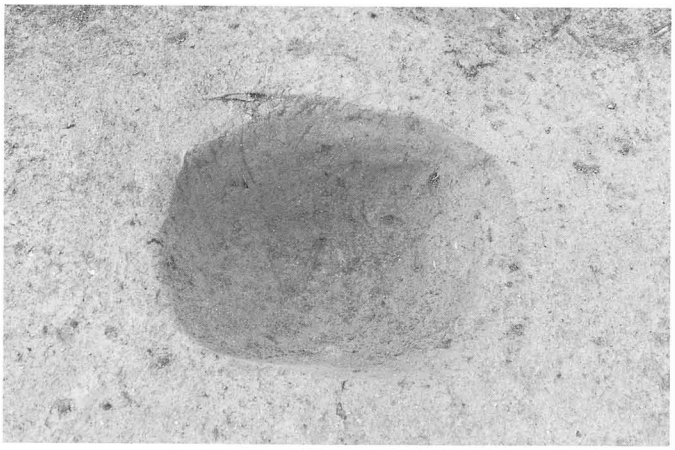


2. 124号ピット

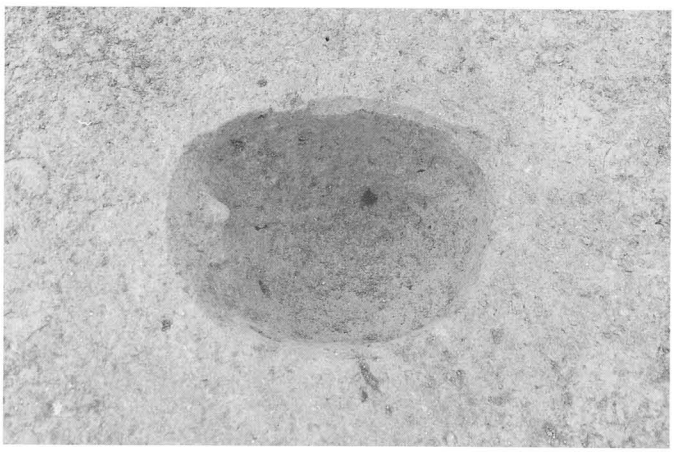
3. 127号ピット



4. 128号ピット



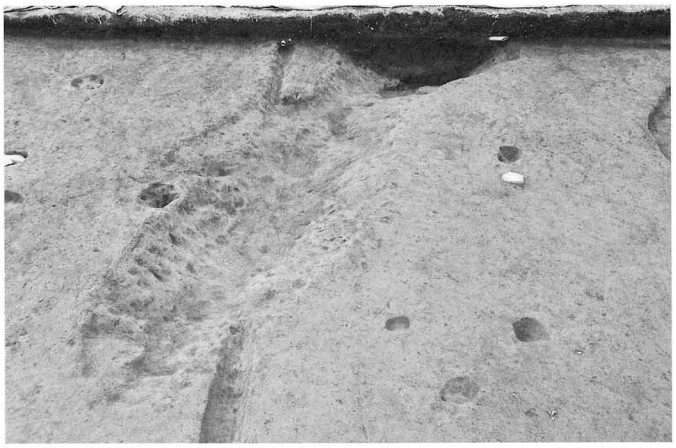
5. 131号ピット



6. 132号ピット

7. 焼土遺構

8. 1～3号溝



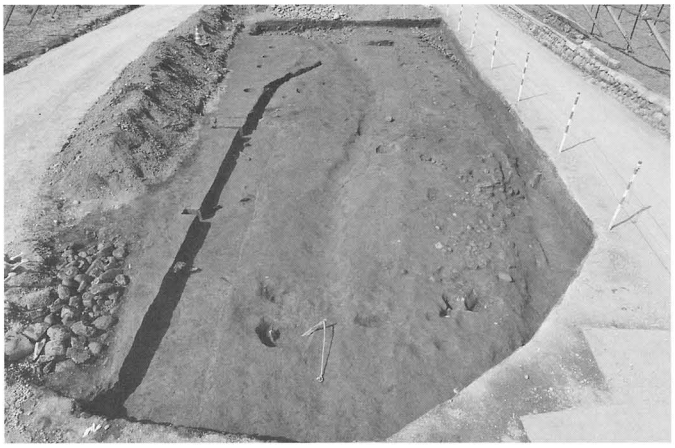
1. 4号溝

2. 5号溝

3. 7号溝

4. 9号溝

5. 10号溝



6. 12・13号溝

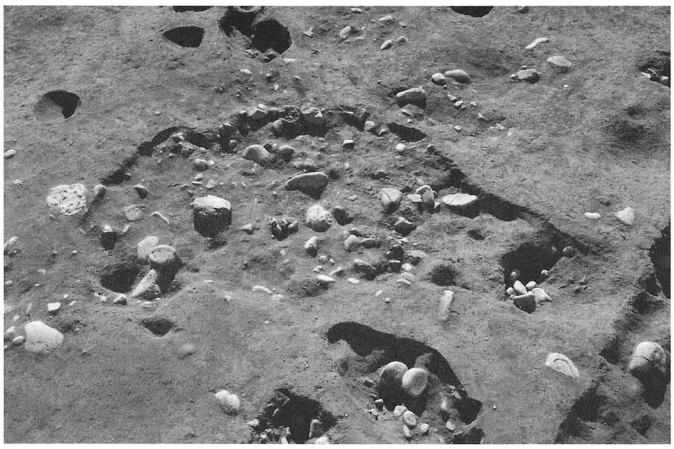
7. 14号溝

8. 14号溝　礫検出状況

図版 14

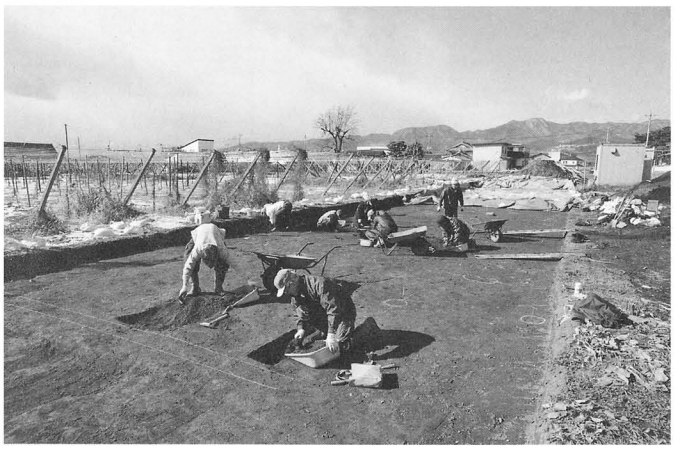
1. 15号溝

2. 19号溝

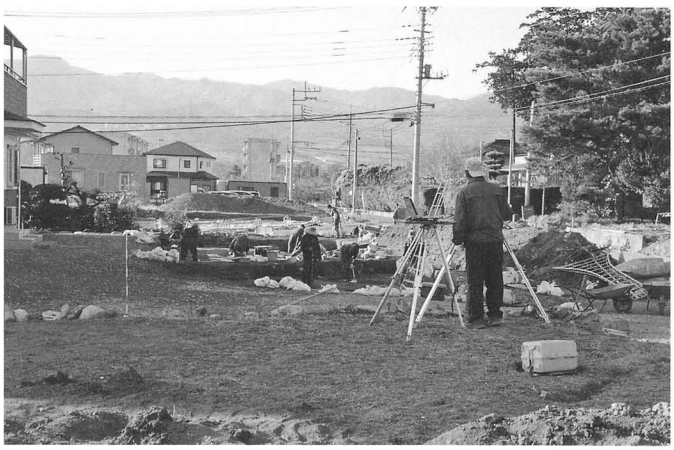


3. 1号性格不明遺構

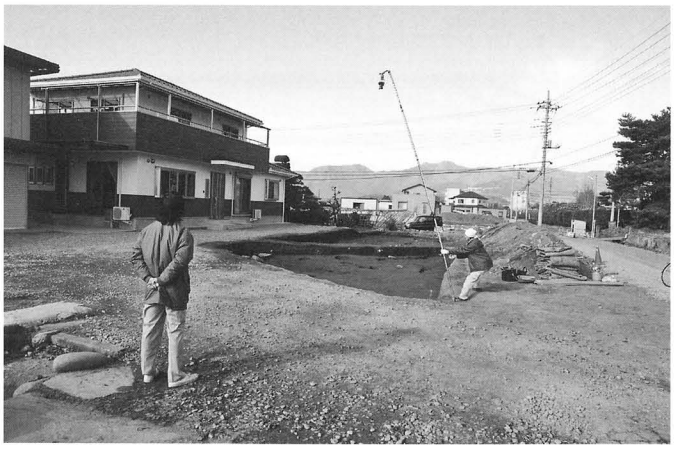
4. 2号性格不明遺構



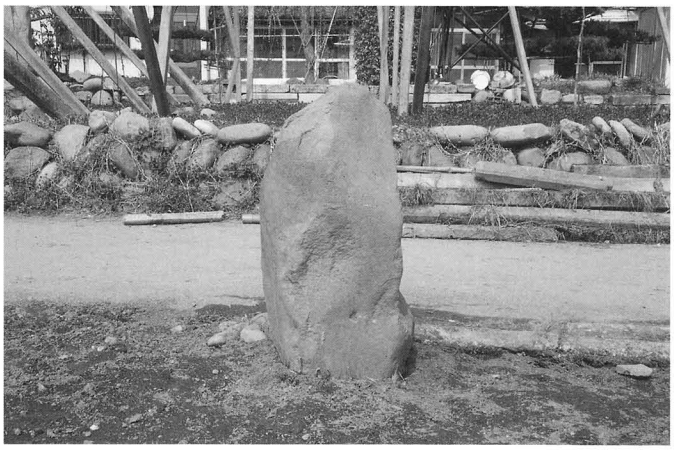
5. 調査風景(1)



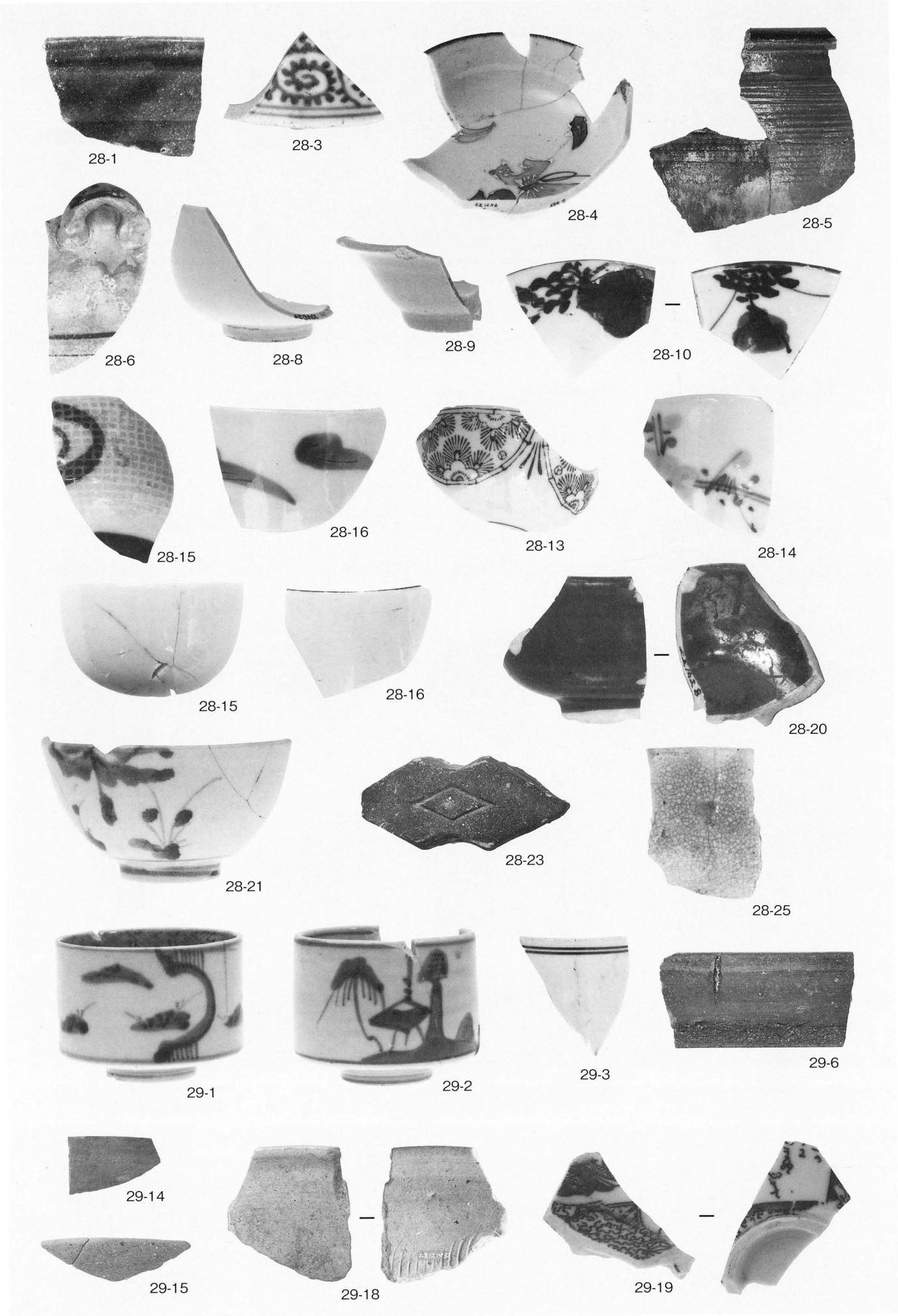
6. 調査風景(2)



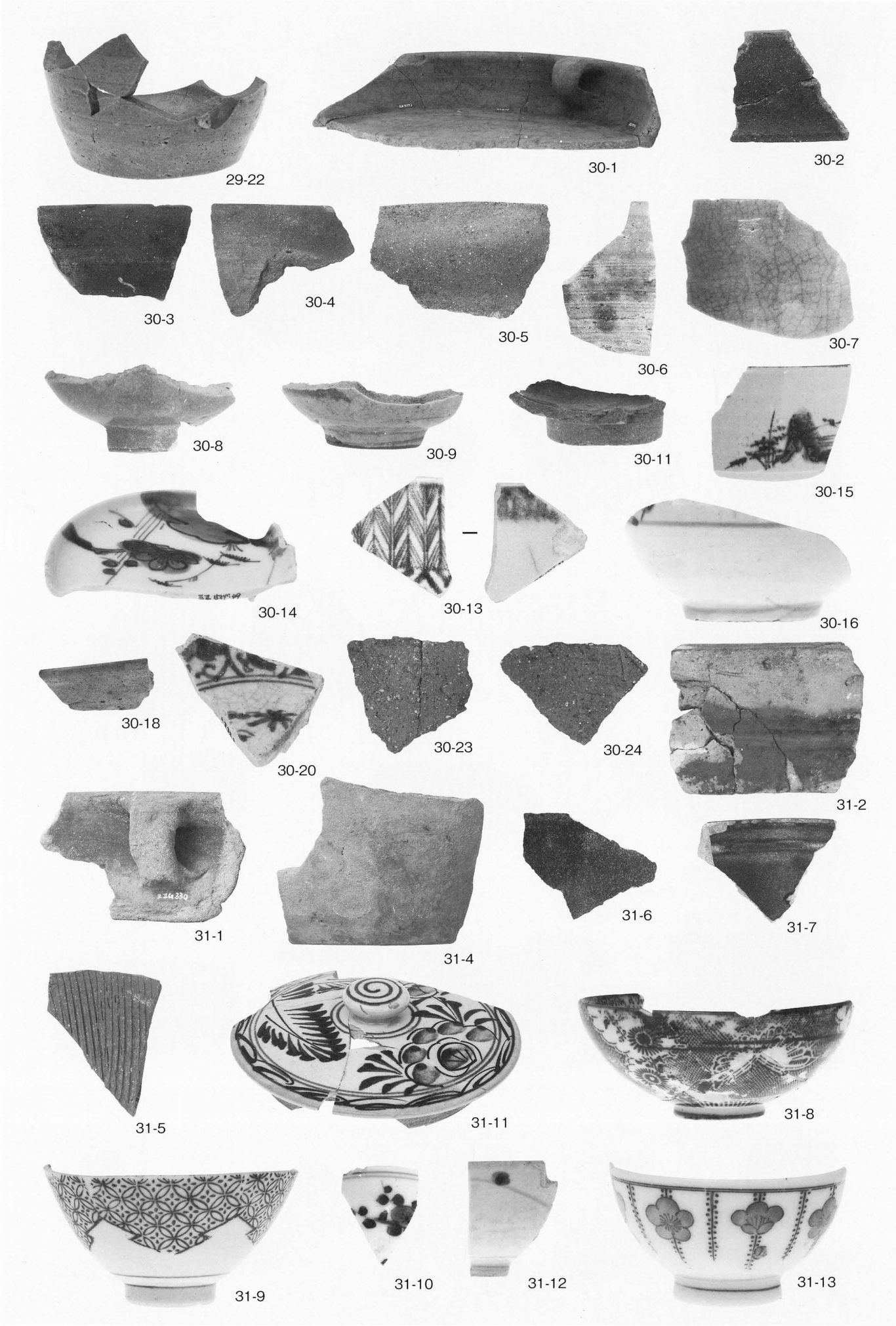
7. 写真測量



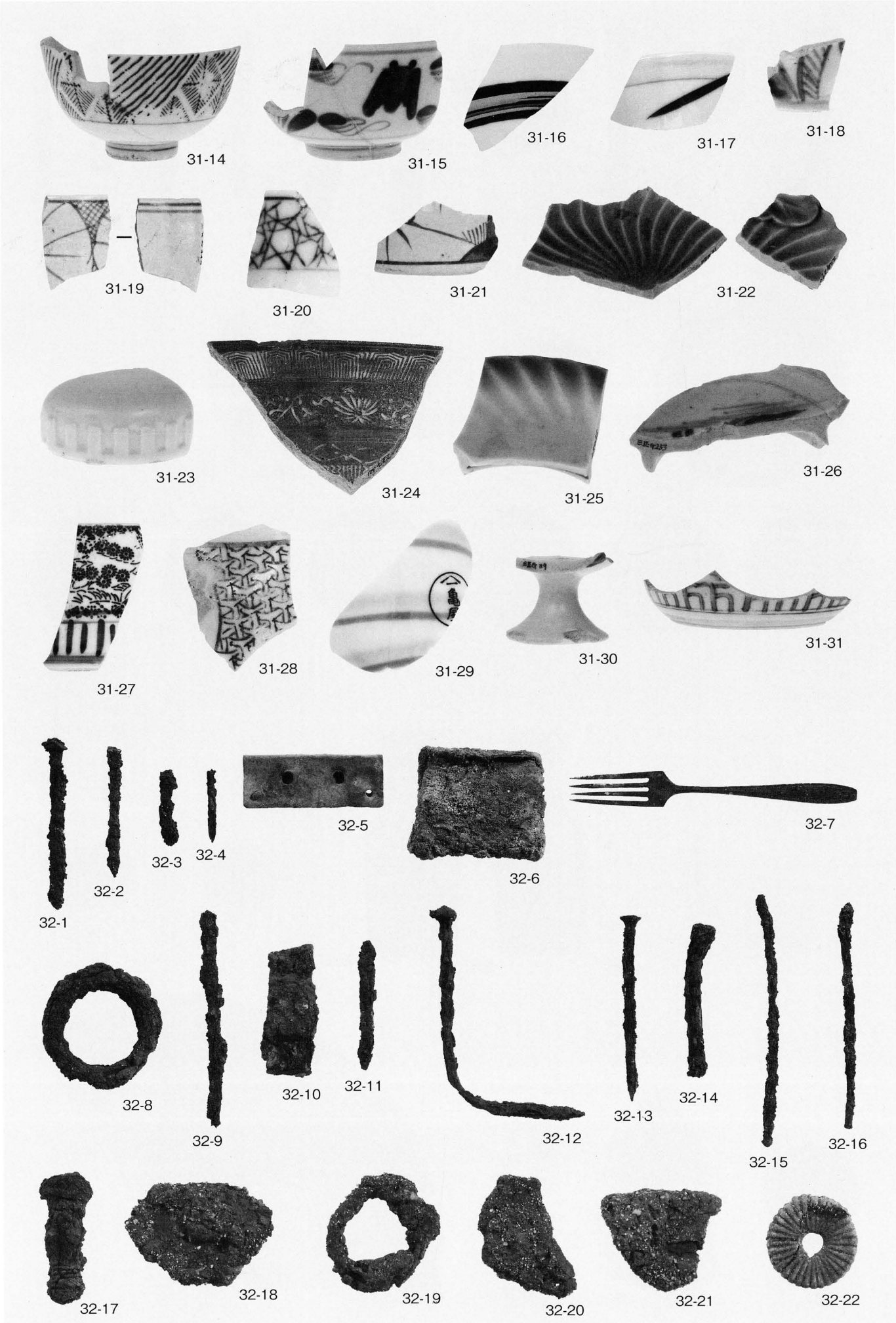
8. 神輿石


28-1
28-3
28-4
28-5
28-6
28-8
28-9
28-10
28-15
28-16
28-13
28-14
28-15
28-16
28-20
28-21
28-23
28-25
29-1
29-2
29-3
29-6
29-14
29-15
29-18
29-19

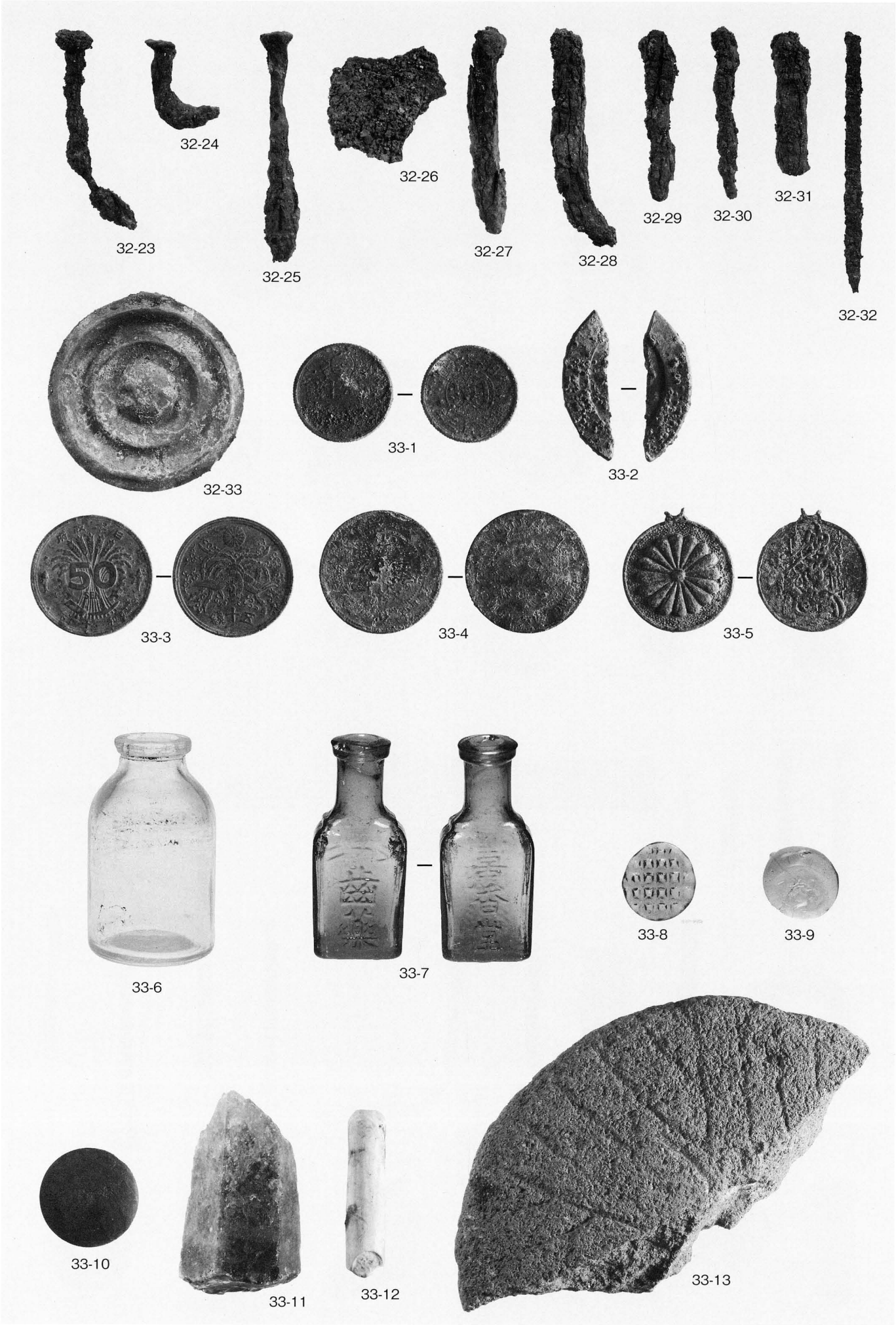
出土遺物(1)


29-22
30-1
30-2
30-3
30-4
30-5
30-6
30-7
30-8
30-9
30-11
30-15
30-14
30-13
30-16
30-18
30-20
30-23
30-24
31-2
31-1
31-4
31-6
31-7
31-5
31-11
31-8
31-9
31-10
31-12
31-13

出土遺物(2)


31-14
31-15
31-16
31-17
31-18
31-19
31-20
31-21
31-22
31-23
31-24
31-25
31-26
31-27
31-28
31-29
31-30
31-31
32-1
32-2
32-3
32-4
32-5
32-6
32-7
32-8
32-9
32-10
32-11
32-12
32-13
32-14
32-15
32-16
32-17
32-18
32-19
32-20
32-21
32-22

出土遺物(3)


32-23
32-24
32-25
32-26
32-27
32-28
32-29
32-30
32-31
32-32
32-33
33-1
33-2
33-3
33-4
33-5
33-6
33-7
33-8
33-9
33-10
33-11
33-12
33-13

出土遺物(4)

三ケ所遺跡（第２次調査地点）報告書抄録

ふりがな		さんがしょいせき（だい２じちょうさちてん）
書名		三ケ所遺跡（第２次調査地点）
副書名		市道小原東東後屋敷線改良に伴う発掘調査報告書
著者名		宮澤公雄
発行者		山梨市・山梨市教育委員会・財団法人山梨文化財研究所
編集機関		財団法人山梨文化財研究所
住所・電話		〒406-0032 山梨県笛吹市石和町四日市場１５６６　ＴＥＬ055-263-6441
印刷日		2011年３月10日
発行日		2011年３月15日
所在地		山梨県山梨市三ケ所
地図名		25,000分の１地形図　塩山
位置		北緯35度41分32秒、東経138度42分21秒
標高		362m
市町村コード		19205
調査原因		市道小原東東後屋敷線改良工事
調査期間		2009年12月21日～2010年３月25日
調査面積		1,251㎡
遺跡概要	主な時代	縄文時代～近代
	主な遺構	中・近世の溝、近代の掘立柱建物跡
	主な遺物	縄文時代中期の土器、中・近世の土器・陶磁器、近代の陶磁器
	特殊遺構	集石土坑

山梨市文化財調査報告書　第13集

三ケ所遺跡（第２次調査地点）

― 市道小原東東後屋敷線改良に伴う発掘調査報告書 ―

平成23年（2011）3月15日　発行

編　集　㈶山梨文化財研究所

〒406-0032 山梨県笛吹市石和町四日市場1566　TEL 055－263－6441

発　行　山梨市・山梨市教育委員会・㈶山梨文化財研究所

印　刷　㈱帝京サービス